

# 国づくりと研修

123  
WINTER  
2009

●特集●

## 土木偉人を伝える



### 嘉南大圳を設計した 八田與一像

大学卒業後、台湾に渡り、台湾統治府の土木技師として、嘉南平原に大規模な灌漑工事による土地改良の計画に上申した八田與一。設計のみならず、自ら現場にて7年の指揮をとり、10年の歳月をかけた。堤堤の長さ1273m、貯水量1億5000万m<sup>3</sup>の烏山頭ダムと延長16,000kmの鉄排水路を完成させた。72歳の湖畔には、台湾の人々によって最も敬慕される日本人として、八田與一夫妻の墓が建てられた。





フォト  
シリーズ 近代水道施設④

## 水道記念館 (旧柴島浄水場送水ポンプ場)

(大阪府大阪市)



新大阪から大阪へJRで向かう途中、淀川を渡る直前左側に煉瓦の赤と御影石の白が印象的な大きな建物がみられる。大正3年(1914年)に竣工し、70年あまり活躍した旧ポンプ建屋で、設計は奈良国立博物館など関西で多くの近代建築に携わった宗兵蔵である。現在は琵琶湖や淀川淡水魚の展示、水道の歴史紹介施設として改装され、社会科見学の小中学生で賑わっている。

(写真と文・小野吉彦)



特集

土木偉人を伝える

- 4 めぐりあい 一青 妙
- 6 対談 土木偉人とは、何か! 高橋 裕×古川勝三
- 10 インタビュー  
八田與一を通して伝えたい  
人のためにチャレンジする大切さ 伊藤 叡
- 12 土木界の先駆者・廣井勇とその門下生たち  
～日本土木界に屹立する土木技術者のモラル・バックボーン～  
高崎哲郎
- 16 八田與一を舞台にのせて 松田章一
- 18 子供たちに伝えたい願いと実践 中川外司
- 20 造り手の顔が見える土木の発信  
土木コレクション2008 HANDSを開催 鳥谷幸宏・高橋 薫
- 22 素晴らしい!八田與一の人間力 駒田智久
- 26 写真で見る烏山頭ダムと嘉南大川の建設



「金沢ふるさと偉人館」の中庭にある八田與一の胸像

- 36 まちの色 風土の彩り  
まちの色、風土の彩り 葛西紀巳子
- 38 日本の原風景 活きつづける農業土木遺産  
葉タバコ栽培の基盤は石 長崎県島原半島 後藤 治・二村 悟/小野吉彦
- 32 散歩考古学 大江戸インフラ川柳  
国々の理屈を泊める馬喰町 松本こーせい
- 42 新河相学堂からのメッセージ  
地域の人の心のこもった水辺づくり  
～秋田県田沢湖生保内川での取り組み～ 丸井英一
- 46 縮小時代・地域づくりの知恵  
縮小時代における都市構造のあり方 ～3つの論点～ 佐々木 正
- 50 KEYWORD  
国土交通白書2008より
- 52 OPEN SPACE  
観光立国日本、動き出す  
2010年外国人訪日旅行者数目標=1000万人
- 28 教育現場を訪ねて  
土木事業を通して人のやさしさに触れる  
八田與一の業績を通して学ぶ長野市立豊栄小学校の国際交流と国際貢献
- 48 CLOSE UP 人づくり  
三重県鈴鹿市
- 53 ほん  
『できそこないの男たち』/『繁盛商店街の仕掛け人』/『大災害来襲』/『市民的地域社会の展開』
- 62 INFORMATION  
平成20年度土木学会選奨土木遺産が決まりました
- 54 業務案内  
「技術検定試験」/「建設研修」/「監理技術者講習」/「刊行図書」/「札幌理工学院」



映画「パッテンライ!!」で、八田與一役の井上和彦さんと、八田外代樹の音声を収録する一青妙さん。

## めぐりあい

### 一青 妙

今回の映画「パッテンライ!!」との縁（えん）が、さまざまな出会いを導いてくれていることを感じます。

私はこのアニメーション映画のお話を聞くまで、八田さんについて知りませんでした。そこでいろいろ調べていくと、金沢出身の土木技術者である八田技師が、大正から昭和初期にかけて、台湾の嘉南地方で東洋屈指のダム建設と水利事業によって、嘉南平原を豊かな穀倉地帯に蘇らせたことを知りました。さらに驚いたことは、八田さんの銅像が現地にあり、その恩を忘れない人々が毎年、八田さんの命日に墓前祭を催し、花を捧げていることです。

映画の完成披露試写会が昨年十一月、金沢と、東京で催されました。私もそれぞれの会場に行って観ました。金沢は八田さんの地元ということもあって、関係者の方もたくさん集まって、始まる前から何となく盛り上がっている雰囲気を感じました。そして、金沢のシーンなんかが出てくると皆さんの反応がダイレクトに伝わってきました。

金沢では、八田さんの顕彰を長年続けておられる中川外司さんをはじめ、





## ひとと・たえ

台湾生まれ。父は台湾人、母方の祖父が石川県出身。11歳のときから東京に移り住む。映画やテレビ、芝居で活躍する傍ら、歯科医。介護支援専門員として老人ホームなど地域診療にも貢献している。

昨年未完成した長編アニメーション映画「パッテンライ!!」で八田與一の妻・外代樹の声を演じる。主題歌は妹の青窈さん。

八田さんの長男・晃夫さんの奥様、その息子の修一さんともお会いすることが出来たのも一つの縁ですね。

東京の試写会では、八田さんの六女・成子さんもいらっしやっついて、私の隣の席で、何だか身を乗り出して見入っている様子を感じていました。

映画の中で、大型機械が勝手に暴走する場面で笑いが起きたり、少年たちの別れにしんみりしたりと、金沢でも東京でも、やはり感じられるところは一緒なんだなと思ったりしました。

金沢試写会の翌日、金沢ふるさと偉人館に立ち寄りしました。その中庭には八田さんの胸像があり、二階の常設展示室には、金沢ゆかりの科学者など偉人たちのコーナーがあつて、その中に土木技術者・八田與一があるんです。丁寧に説明していただいた館長の松田章一さんによると、八田さんに関する資料の多くは台湾の烏山頭にある記念室に寄贈されたということですが、八田さんの業績や足跡がわかる貴重な展示となっております。

子どもの時って、社会科見学とかでわあーっと通り過ぎることが多いかも

しれませんが、ちよつとでも名前とかインプットされていると違ってくるのではないのでしょうか。たとえば今回、「パッテンライ!!」の試写を鑑賞した

金沢の子どもさんたちが、改めて偉人館で八田さんに接したら、誇りや愛着を持って学ぶことも多いでしょうね。

そんな時、松田館長さんのような語り部の存在がとても貴重だと思います。私にとって、土木という言葉自体、縁遠いものでしたが、八田さんにまつわる映画や偉人館、出会った方々などを通して、土木というものについて考えるきっかけにもなりました。

実際に、父がかつて鉾山の仕事をしています。採掘現場でカンテラをつけた父の写真を思い浮かべると、映画に出てきた工事現場や状況と似ているのではないかと想像したりしました。たぶん、「自分が何かになりたい」と思う気持ちは、子どもの時に見たり、触れたり、感じたりしたことの影響がすごく強いと思うのです。でも、土木の仕事に従事している親が子どもにそういう話はしないかもしれないし、まして現場に連れて行くこともむづかし

い。そんな現実の中、映画や偉人館のような形で伝えていくことは本当に大切なことだと思えました。

私は、東京でも海外でも、建物を見て歩くのが好きで、面白いものがあると、この建築家は誰かなとか興味を持って見えています。ただ、建築というのは、ちよつとアートのだったり、一般的に馴染みやすい雰囲気がありますが、そうした建築やまちの土台になっているのが土木だということを知りました。

八田さんがあの当時、アメリカまで渡って大型機械を買い付けにいったこともすごいし、途方もない計画を強い意思で貫いたこと自体、時代を先取りしていたのだと感じました。土木というのは、そんなスケールの大きい、カッコいい仕事だということを知らせていけば、これからの人たちも「自分になにかなりたい」ことの取っかかりとして興味を持つのではないのでしょうか。こんどは、「パッテンライ!!」を観る日本の多くの方々が八田さんとめぐりあい、台湾の嘉南地方へ訪ねることになれば、すごくすてきな循環になるのではないかと思います。(談)

特集

土木偉人を伝える



# 土木偉人とは、何か!

高橋 裕 / 古川勝三

「金沢ふるさと偉人館」には、八田與一のコーナーがある。また、昨年の土木学会による「土木の日」公開展示では、土木偉人映像展「八田與一」が催された。しかし、これまで土木技術者が偉人として社会から敬称され、認知された例があっただろうか。全国の各地域には大地を拓き、整え、人々の悩みや問題を解決した先人の事跡は多いにもかかわらず、その類い希な業績がきちんと顕彰され、一般社会に伝播しないのはなぜだろうか。

今回、映画にもなった八田與一を足がかりに、土木技術者が偉人たりえる条件とは何かについてお話しいただいた。



たかはし・ゆたか

国際連合大学上席学術顧問、東京大学名誉教授。専門は、水資源計画、河川工学。『都市と水』『地球の水が危ない』岩波新書、『現代日本土木史 第二版』彰国社、『新版河川工学』東京大学出版会など著書多数。



ふるかわ・かつみ

台湾の高雄日本人学校に一九八〇年から三年間勤務。『台湾を愛した日本人 八田與一の生涯』で土木学会著作賞。司馬遼太郎の『台湾紀行』にも紹介された。絶版となっていたが今春、創風社出版（愛媛県松山市）から再版の予定。

## 池に広がる波紋のごとく

きっかけとムードづくり

高橋 八田與一については、このほど「パッテンライ!!」という映画も完成して、これを契機として、少なくとも金沢とか石川県で八田與一の知名度がとみに上がったのは大変結構ですが、それは例外であって、本当は、どこの地域にもそのインフラをつくるのに貢献した人は必ずいる。あるいは、出身地から外へ行ってインフラづくりに尽くした人もいる。八田與一だって、金沢でダムをつくったわけではなく、台湾へ行ってあれだけの成果を上げたわけです。しかし、どうも日本は、そういうインフラをつくった人を国民全体がたたえようというムードが、残念ながらできていない。インフラがあつてこそ、みんなの生活が成り立っているわけです。その重要性和価値を、もつと国民全体が正確に評価するようになってほしいですね。

古川 人間にとって大切なものは、目に見えない。例えば下水にしても上水にしても、ビルをつくった後、パイプの中を流れて全部表には出てこない。私たちはそういう非常に大切なものをないがしろにしてきた、あるいはマスコミもそうした傾向があるのではないかというような気が一つはしますね。

中国には、水を飲むときには、その井戸を掘った人のことを思って飲みなさいという「飲水



「思源」の思想がありますけれども、そういうような教育も、日本はどうも怠ってきたのではないかと反省があります。

私が八田與一のダムと銅像に出会ったのは二八年前です。台湾の高雄で日本人学校に勤めていた当時、八田與一のことを二年ほどかけて調査しました。その後、日本に帰ってきて、高橋先生の勧めもあって、平成元年に本に出してから二〇年たちました。その二〇年の間に、金沢でふるさと偉人館に八田與一を展示してくださって、アニメーション映画まで出来ました。もうこれは私にとっては本当に大きな喜びで、こういうすばらしい日本人が、台湾でこんな活躍をしたということを、いまの子どもたちにぜひ知ってもらいたいですね。そして、八田與一



八田與一の銅像と墓

の生涯を通して、日本人としての誇りを培ってほしいと思います。

**高橋** 古川さんが「台湾を愛した日本人 八田與一の生涯」を書かれてもう二〇年になりますか。

やはり、漠然と「八田與一という偉い人がいた」じゃなくて、ああいう伝記を書いてくださって、それが手がかりとなってドキュメンタリー映画『民衆のために生きた土木技術者たち』（製作・大成建設）にも扱われ、さらには虫プロダクションもアニメ映画にして、これからさらに広がりを見せようとしています。もちろん、ここに至るまでには地元である金沢の方々によるたゆまざるご努力があつてのことです。市長さんはじめ行政、市民、地元新聞社も熱心だったし、そういう盛り上がるのが大事ですね。そうした人たちの努力がようやく結実したということでしょうが、それには、やはり何か契機がないとだめなのでしょうね。

そういうことが、金沢、石川県以外でも、郷土や郷土を出て活躍した土木技術者を顕彰して、外に発信するヒントにもなるはずですよ。それがひいては、インフラをつくることは私たちの暮らしを守り、整える尊い仕事だという国民全体の常識になってほしいですね。

**古川** 水道の蛇口をひねって、その水を飲めるという、そういうことが当たり前に思われている背景には、歴史的に培われた経験や知恵、膨大な費用と時間、人的な努力が払われているこ

とも社会教育、学校教育の中で取り上げていかないといけないことです。教育の果たす役割、そしてマスコミの果たす役割、こういうものが金沢の場合には非常に大きかったのではないかなという気がしますね。

**高橋** 一つは日本の学校教育、とくに義務教育で、土木に限らず、技術というものがどういふふうに使われて、みんなの生活にどういふ貢献をしているかをほとんど教えないですね。それは先進国の中で多分、私の接している範囲で見ると、日本は特にそういう教育が遅れているように思いますね。

**古川** 私も三七年間、義務教育の教員をしましたけれども、そういう技術的なことを、例えば道徳とか国語、または社会科の中で取り上げる教育はなかったように思いますね。そういった意味では、この八田さんを金沢の教育委員会が五年生の道徳で取り上げたことはものすごく大きい。そして、私の本を小・中学校すべてに配ってくれたのです。その本が池に石を投げ込んだとするならば、その波紋がだあつと広がって、大きくなるためには、教育、行政、マスコミが一体となって取り組み、その相乗効果が結果となつてついでにきたのだと思います。地元からは毎年、台湾の墓前祭に参加していますが、こうした流れをつくり出すには、やはり地元で八田與一にほれ込んで活動を継続している中川外司さんのような人の存在も大きいですね。





もう一つ、八田さんの場合は、八田夫人のことも含めて人生そのものが非常にドラマチックなんですね。これもまた、多くの人の感動を生んだ要素だという気がしますね。

## 何のためにつくるのか

### 民衆のための土木事業

**高橋** 八田さんは、当時としては東洋屈指のダムを、しかも非常に新しい工法でつくったことは、技術者としてももちろんすぐれています。工事現場に家族も住める家や学校、病院、娯楽施設などをつくったことも、当時としては画期的でした。一方で、土木技術者の本懐である「地元の人のために」という精神が、八田さんの心の中に満ち満ちていた。それが彼の人生を一層ドラマチックにしたのでしょうね。立派なダムを造っただけでなく、地元の人に非常に溶け込んで、地元の人のためにと、水を生み出すだけではなくて、毎日の生活をいろいろ見てあげた。そういうことを地元が知っているから、亡くなった後も子々孫々敬慕されている。ダムをつくったというだけでは、あんなに慕われないと思います。

**古川** まずダムありきではなくて、そこに住んでいる農民の生活が先にあった。これを解決するためにはどうしたらいいかというので、後からダムが出てきているわけですね。

**高橋** そこが、やはり偉人の偉人たる条件でし

ょうね。

終戦直後の一〇年、日本の土木技術者は大変燃えていて、荒廃した国土を何とか復旧しなければならぬという目的意識がはっきりしていた。そのうちに技術がどんどん進歩して、高度成長になって、もう土木ブームとなりました。その時代から少し奢りが出てきて、何のためにつくっているのかということから、何か偉大な構造物なり施設をつくるのが目的のように傾いて、土木技術者の人生が一般の共感を得るドラマチックなものでなくなってきたと思う。つまり、「人々のために」という意識が人生をドラマチックにするのだと思います。つくるのは技術者としてももちろん大事なことでもそれは手段であって、ドラマチックであるためには、つくるための目的が常に意識されていなければならぬ。

**古川** 八田さんの銅像が台湾の人たちによって守られたように、日本でも安積疏水をつくったファン・ドールン、あの銅像が戦時中、金属供出で取られるようになったときに、地域の人たちが田んぼの中に埋めて隠して、戦後また引っ張り出して戻す。八田技師の時と似ていますね。日本も、やはりそういうように恩のある人を大事にするというのはあったんですね。

ところが、先生が言われたように、本当に高度成長期の中でどんどん、ものをつくるのが目的みたいになって、何のためにというそれがち

よっと薄れてきた。国民そのものも、便利になって当たり前というようなものの考え方を。そういうことをきちんと教育してこなかったのが、やはり今日マイナーな面を出ているのではないかという気がしています。

**高橋** ファン・ドールンはオランダ人ですから、戦争中、敵国ですよ。にもかかわらず、われわれが世話になった大恩人だということで、銅像を供出せずに隠した。それはやはり、自分の地元の恩人だという気持ちがあつたんですね。台湾の人もそれと似ていますね。だって、日本は戦争に負けて、蒋介石が来て日本人の銅像を全部取っ払ったでしょう。にもかかわらず、いろいろいきさつがあるようですが、ともかく残した。自分たちの恩人に、国境はないですよ。

土木の仲間ではよく知られている青山士も、やはり人類愛ですね。大河津分水ができたとき、記念碑に「人類ノ為メ、國ノ為メ」と刻んだ。つまり青山は、新潟県のためにというよりも、常に仕事をするとき「人類のため」という気持ちがあつたのでしょうね。青山は、大学で廣井勇という偉大な先生から、技術だけでなく人類愛に根ざした土木事業についての薫陶を得たのでしようが、彼の場合は、一高時代からそういう考えがあつた。そして、土木技術者になつたら、いま人類のために一番大事な仕事は何か、それがパナマ運河だと言ってパナマへ行つた。いきなりパナマ運河ありきではなくて、何人が



類のためになることを調べたあげく、パナマへ行って、実際に工事に参画した。そのときに彼の頭の中には、日本人のためとか、そんなケチな感情はなかった。これも、土木の偉人たる重要条件ですね。

**古川** 廣井勇の薫陶を受けて、それを実践した代表として青山士、八田與一、宮本武之輔、そして、水豊ダムをつくった久保田豊も人類のために尽くした国際的な土木技術者ですね。

## どう生きるか 技術は人なり

**高橋** 久保田豊は、鴨緑江に当時世界最大級の水豊ダムを計画し、旧満州で、豊満ダムを企画しています。そして、第二次大戦以後、アフリカやベトナム、スマトラをはじめインドネシアで立派な計画をしていますね。それで、アフリカとか韓国もそうですが、そういう国々で最高勲章をもらっています。大変インターナショナルです。よけいな話だけでも、アフリカでエンクルマ大統領と話をし、エンクルマ大統領が久保田さんに、「あなたは大変若々しいけれども、どういう食事、栄養に注意していますか」と言ったら、久保田さんが、「いや、わしは人を食つとるから元気なんだ」と言ったという話があつて（笑）。やはり偉大な土木技術者というのは、そういう人生の余裕というかユーモアを持ち、人生を楽しむ生き方をしている。

八田與一でも青山士でも、何となくかた苦し

い人生をきたように、偉人伝ではそういうことになるけれども、それは八田與一さんに会ったわけではないけれども、たぶん、台湾では、自分のやったことがみんなの役に立っているという生きがいを感じて、満足した人生を送っていたんだと思う。青山士も、何か非常に堅物のように思われるけれども、やはり自分の思うように生きていますよ。戦争中だから、言論その他限界はあつたけれども、自分の生き方にのつとった生き方を、社会の動きに妥協せずね。それもやはり偉人の条件ですね。たぶん人生を楽しんだと思う。

**古川** 二〇〇〇人も職員のためにまちをつくるという発想は痛快です。それをつくらないと安心していいものがないじゃないかといって実行しただけではなくて、仮装大会をやる、映画を見せる、芝居や落語家も呼んだ。それは面白いでしょう。

**高橋** みんなのためになることを楽しめるといふのは、いい生き方じゃないですか。

**古川** 八田與一よりもっと若い宮本武之輔は、私の住む愛媛の出身なんですけれども、高橋先生からお話を聞くまで、顕彰碑が出身地の興居島にあることすら知りませんでした。その武之輔も、新潟や東京で仕事をしていて、愛媛のためにどうこうというのは一つもない。しかし、れっきとした郷土の偉人です。

ですから、僕はいま、八田技師をいい参考例

として、愛媛県にも宮本武之輔というこんなすばらしい土木技師がいたんだということを、まづ知ってもらうために、昨年、八人で宮本武之輔を偲び顕彰する会というのをつくりました。最初の定例会では、とりあえず武之輔が残した膨大な日記を紐解くことから始めました。

**高橋** ありがたいことに、日記には克明に書いていますね。

**古川** 死ぬ一週間前まで書いています。

それをいまずと読みながら、人間宮本武之輔というのは、一体どういうものか考え方をし、いわゆる大河津分水の可動堰をどういう考えでつくったのか、そんなところから始めていきます。少なくとも、八田與一も石を投げて二〇年たつてここまでなつた。宮本武之輔は、できたら一〇年ぐらいで、日本全国といかなくても、少なくとも愛媛県の子どもたちにはすべてわかつて、こんな人がいたんだよというようなものを残して次の代につなげていきたいですね。

**高橋** ぜひ進めてください。宮本は八田や青山ほかの偉人と共通しているんですが、単に大河津分水の堰を設計して、大工事を青山とともに完成させたからだけではなくて、彼の人生観には、土木技術者魂があります。志が高いですね。土木技術者の偉人たるものは、単なる技術を磨くだけでなく、八田與一のように、民衆の懐に入り、しかるべき人生哲学を持った生き方をしていたと言えるでしょう。

(抄録・平成二〇年十二月八日／構成・緒方英樹)







## 八田與一を通して伝えたい 人のためにチャレンジする大切さ

伊藤 叡 虫プロダクション代表取締役

Ito Satoshi

2008年秋、台湾の水利開発に尽くした土木技師・八田與一の功績と精神を描く長編アニメーション映画「パッテンライ!!～南の島の水ものがたり～」が完成、すでに11月14日から八田技師の郷里である金沢では一般上映され、東京でも完成披露試写会が11月20日に開かれた。台湾でも配給に向けた準備を進めており、八田技師がその生き様で台湾の人々の心をつかんだように、映像を通してそれが再現されるのも間近であろう。

そこで、この映画の製作にあたった虫プロダクション代表取締役の伊藤叡氏に、作品への思いや土木を取り上げた理由などをうかがった。  
(2008年12月16日に)

—映画づくりの経緯からお聞かせください。

二〇〇六年に企画の話があり、それから本当に可能性があるかどうかを探る期間があって、二〇〇七年春に脚本ができたのですが、企画をもらった時、最初は日本統治時代の台湾のことをつくっていいのか、そんな思いもちよつとありました。それで、八田與一のことをいろいろ調べていくと、当時、日本政府がやろうとしたのは、内地での米騒動の影響もあって台湾を日本の一大穀倉地帯にすることでした。この国策にそつて、八田技師は烏山頭ダムと「嘉南大圳」と呼ばれる総延長一万六〇〇〇kmに及ぶ灌漑水路網を整備したわけですが、八田技師の偉大なところは、不毛の大地といわれた嘉南平野の貧しい農民の幸せを常に考えながら工事にあたったことですね。そのため、今でも台湾の人々から敬愛されていますが、そこを切り口にすればうまくいくのではと、話づくりに入っていききました。

もう一つ、単なる偉人物語では難しいという思いがあつて、夢を実現するためにがんばる姿を中心に展開したいと考えました。飛行機乗りになりたい日本の少年と、土木技師になりたい台湾の少年を配置して、彼らの夢を通して八田技師の壮大な夢を描いていく物語としたわけです。

—製作上、どんな苦労がありましたか。

八田技師は当時、日本にも数少なかった大型土木機械をアメリカから大量に買い込み、ダム工事などに導入しています。最先端の機械というのは、子どもたちにとってはあこがれの対象なんです。です



東京での「パッテンライ!!」完成披露試写会  
一般市民や土木関係者などで立ち見ができるほどの盛況だった  
(2008年11月20日、新宿明治安田生命ホール)

から何とか描きたいのですが、どんな動きをするのかがわからない。監督と一緒に土木学会に聞きに行ったりして、映画ではその動きをCGで再現しましたけど、合格点をもらえていたでしょうか。

それから当然、現地には脚本家やスタッフを連れて何度も足を運び、取材や調査を繰り返しました。それでも当時こんな服装はなかったとか、数字が間違っているとか、どうしてもこぼれが出てきます。SFであれば、未来の世界なので想像で何でもできますが、きちんとした時代考証が必要ですし、しかも遠く離れた台湾のことで余計に大変さはありませんね。

—北國新聞も製作に参加されています。

八田技師が金沢の人で、また北國新聞が今年でち



ようど創刊一五年の節目にあたるというので、一緒にやりませんかとお願ひしました。金沢ではすでに一般上映され連日盛況だったのですが、毎日のように紙面で紹介した北國新聞の宣伝効果が大きかったと思います。

金沢もそうですが、今度の映画では、できるだけ台湾とゆかりのある人も起用したいと思っていました。中でも、台湾生まれで知名度の高い一青姉妹に参加してもらえたのはよかったですね。一青妙さんは八田技師の妻・外代樹の声を、一青窈さんは主題歌「受け入れて」を歌っています。

—土木技術者を主人公にした長編アニメというのは記憶にないですね。

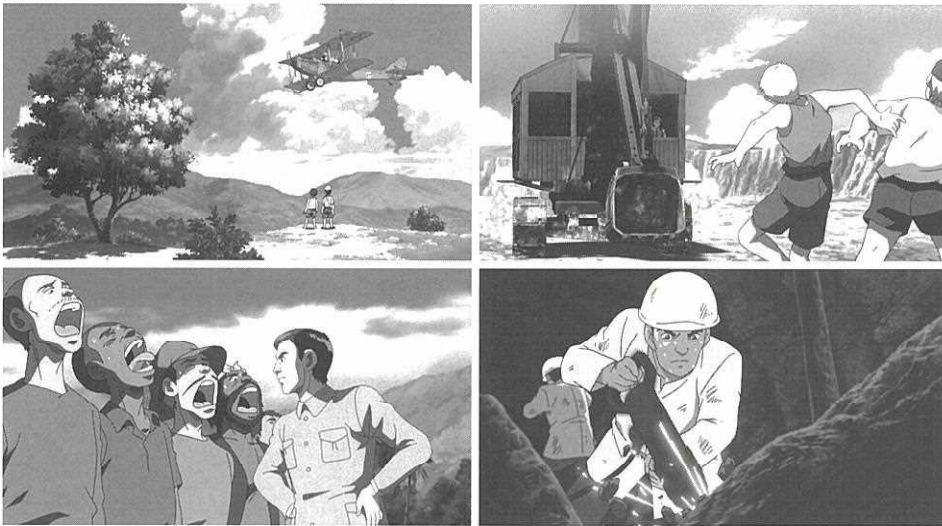
虫プロでは以前、田辺朔郎の琵琶湖疏水工事を描いた「明日をつくった男」をアニメと実写で製作しましたが、全編アニメによる土木技術者の長編作品はたぶん初めてだと思います。ただ、これまでも虫プロでは「伊勢湾台風物語」や「九頭竜川と少年」など土木と密接なアニメは数多くつくってきました。木曾三川の分流工事である宝曆治水を扱った「せんぼんまつばら 川と生きる少年たち」は今度の映画と同じく九〇分の長編アニメです。

—土木をテーマをつくられている理由は何ですか。偶然的なところもありますが、何本かやってみて思うのは、そう簡単にトンネルを掘ったり、ダムがつくれるわけではなく、様々な困難にぶつかりながら考え、工夫して乗り越えていく、そこがどの作品にも共通していますし、伝えていきたいと強く思っ

ている部分です。

—困難に立ち向かうのは、アニメのヒーロー「鉄腕アトム」にも共通しています。

アトムのほうは「えーい、こんなもの」とボカんとやれば簡単にやつつけられますが、そういう意味もありますね。手塚治虫のつくったアニメーションには戦う強さとともに、自然とどう仲よくするか、



「バッテンライ!!」は、子どもたちの夢に八田與一の夢を重ねたものがあり  
(©「バッテンライ!!」製作委員会・北國新聞社・虫プロダクション)

他人をどう思いやるかというものが根底にあります。これは土木にも通じるテーマではないでしょうか。

—土木を伝える媒体として、アニメは適しているのでしょうか。

ドラマをつくることだけでなく、土木構造物の仕組みや構造を図解して見せるのは、実写よりもアニメの範疇だと思えますね。それと、やはり子どもはアニメを見慣れてますから、身近に土木を子どもの世界に伝える力がアニメにはあると思います。今度の映画でも「土木屋に国境はない」という八田技師の言葉が随所にてできます。この言葉には「土木を通して人のためにチャレンジしてほしい」という、これからの社会を築いていく子どもたちへのメッセージも込められていると理解しています。

—今後は日本や台湾での上映に向け、力を入れることになりませんか。

もちろんそうです。映画というの出来上がって道のり半分、どれだけのお客様に見てもらえるかどうかです。今、東京でも劇場でやろうと動いていますけど、ドラえもんやジブリ作品と違って知名度の低い作品ですから、そう簡単に劇場が開くことはなく結構苦労しています。ただ八田技師の応援団も多いようですので、そういう人たちのご協力にも頼りながら興行を成功させていきたいと思っています。

—がんばってください。今日はありがとうございました。(文責・編集部)





# 土木界の先駆者・廣井勇とその門下生たち

～日本土木界に屹立する土木技術者のモラル・バックボーン～



土木偉人  
特集 を伝える



高崎 哲郎

作家・土木史研究者

## 廣井勇と恩師ホイラー

「廣井君ありて明治・大正の日本は清きエンジニアを持ちました。日本はまだ全体に腐敗せりと言うことは出来ません。日本の工学界に廣井勇君ありと聞いて、私共はその将来に就き大なる希望を懐いて可なりと信じます。君の工学は君自身を益せずして、国家と社会と民衆とを永久に益したのであります」

近代日本土木界の先駆者・工学博士廣井勇（一八六七—一九二八）の葬儀の際、終生の友人村鑑三は追悼の辞を読み上げた。廣井の六七年間の生涯は、前人未踏の道を歩む自己研鑽のそれであった。彼は日本近代土木界の黎明期である明治・大正期に高峻な峰のように屹立する土木技術者である。彼が何故「清きエンジニア」たりえたのか、を考えたい。

札幌農学校（北海道大学前身）は、アメリカ人初代教頭ウィリアム・S・クラークによりキリスト教を精神的支柱にすえた教育方針をとった。壮年学者クラークは二人の気鋭の教え子を教授として同行させた。土木学者ウィリアム・ホイラー（William Wheeler

一八五二—一九三二）と生物学者デイビッド・P・ペンハローである。クラークは、わずかに八カ月間学校の運営や学生指導に当たったに過ぎない。

廣井をはじめ内村鑑三（キリスト教指導者、文明評論家）、新渡戸稲造（国際経済学者、教育者）ら学生十一人は同校二期生であり、クラークの去った後の入学で直接指導を受けていない。クラークの後を受けたのがホイラーである。弱冠二六歳。二期生たちは、ホイラーの教育方針のもとに勉学や学外活動に励んだ。キリスト教の洗礼を受けた彼らは、キリスト教徒として生きていくことを誓い合った。ホイラーは数学、土工学、英語を担当したが、人類愛と独創的発想こそが教育の原点であり、東洋的暗記主義や権威主義は学問の進歩をもたらさないことを教えた。彼は同時に大自然の現場に学生を連れ出し実習を行った。「大自然こそ最高の教師である」と教えた（拙書『評伝、ウィリアム・ホイラー』参考）。

一方で、彼は開拓使の土木技術者として北海道開発のために多くの実績を残した。今日「札幌時計台」として知られる演武場の設計をはじめ科学的気

象観測法の導入と観測所の建設さらには橋梁設計施工、河川改修、道路建設などを手掛けた。

「To live in Truth toward all mankind with helping hand, kind heart, just mind」

（「全ての人々に分け隔てなく支援の手、親切な心、正しい精神をもって接し『真理』に生きる」）。ホイラーの祈祷文である。廣井はホイラーの人格的影響から出発して師と同じ土木工学の道を歩む。それはヒューマニズムを中核とするエンジニア精神（Spirituality）の練磨である。Civil Engineering（土工学）とは元来こうした倫理観を含んでいる。

## 工学者に達観を求める

キリスト教伝道師を志した廣井は、卒業を前にその道を断念し内村に告白している。「この貧乏国では食糧提供のことを考えずに宗教だけを教えるも益がない。僕は今から伝道の道を断念して工学に入る」。後年内村は「君は言葉をもってする伝道を断念して事業を以てする伝道を行われた」と評する（拙書『評伝、廣井勇の生涯』参考）。社会人となった廣井は自ら進んでキ





東京帝国大学工学部教授・廣井 勇

リスト教徒であることを名乗ることはなかった。だが欧米の土木技術とキリスト教精神は不可分であることを自覚し、無教会主義クリスチャンとしての人生を送る。ホイラーを頼ってアメリカに単身渡った彼は、河川改修や鉄道建設さらには橋梁工場で働き、設計施工に従事して生活費を確保しながら懸命に自己研鑽を重ねる。海外での独立歩の自己研鑽は、英語版ハンドブック『プレート・ガーダー・コンストラクション』の刊行となって結実する。二七歳の日本土木技術者がアメリカの専門出版社から刊行した英文デビュー作「橋梁技術書」はアメリカ国内で評価を受けた。

廣井は母校札幌農学校の助教授に任命され、ドイツに渡り当時最新の構造力学を学ぶ。帰国後、直ちに教授となる。二八歳。明治三〇年（一八九七）に彼は小樽築港事務所長となる。彼はそれまで築港技術を学んだことはなかった。頼れる先輩技術者もいなかった。ここでも自己研鑽である。巨大な防波堤の完成によって小樽港は国際貿易港となり、港湾技師廣井の名は広く知られるようになった。その後、彼は東京帝大土木工学科に教授として招かれた。帝大卒ではない彼は、学閥の逆風に耐えることになるが、土木工学（特に橋梁工学と港湾工学）で彼の右に出る研究者はいなかった。橋梁工学、港湾工学、ダム技術、河川改修、コンクリート工学……。すべて自己研鑽により高度の知識を習得したものであり、港湾工学では「廣井公式」を残している。不朽の公式として世界に知られる。彼は帝大の権威主義や立身出世主義には終始批判的であった。

「技術者で色んな手ずるを求めたり妙な所をくぐって職を求め、何々課長になったとか、局長にな

ったとか言われている人もあるようだが、そんな人はさぞ寝心地が悪いことだろう。工学者たるものは自分の真の実力を持って、世の中の有象無象に惑わされず、文明の基礎付けに努力していれば好いものだ。だから又工学者たるものは達観が利く者でなければならん」

門下生への忠告である。明治三八年（一九〇五）、廣井は橋梁工学の独創的名著『The Statically — Indeterminate Stress in Frames, Commonly Used for Bridges』をアメリカの出版社から刊行した。これにより国際的にも Dr.Hirose (廣井博士) の名声は不動のものになった。廣井は晩年に語っている。

「もし工学が唯に人生を繁雑にするのみのものならば、何の意味もないことである。これによって数日を要するところを数時間の距離に短縮し、一日の労役を一時間に止め、人をして静かに人生を思惟せしめ、反省せしめ、神に帰る余裕を与えないものであるならば、我等の工学にはまったく意味を見出すことができない」

### 青山 士あきら

廣井の教えや影響を受けた人材・逸材を私は「廣井山脈」と呼ぶ。札幌農学校在職時代の八年間に十六人の工学士を育てた。一期生には石狩川の近代治水の祖・岡崎文吉がいる。彼の東京帝大土木工学科在職は二〇年に及んだが、その間の卒業生は六〇〇人余りのぼる。この中から多くの傑出した工学士を輩出して、同帝大土木工学科の「黄金時代」を築き上げた。冷徹・鋭敏な頭脳とヒューマニストの心臓を兼ね備えた廣井の天才性が多くの学生に彼の門を叩かせたのである。「廣井山脈」のうち近代日本土木界になったキラ星は五〇人を下らないが、彼らが世に言う「エリート」とは異なることに注目したい。

青山士（一八七八—一九六三）と宮本武之輔（一八九二—一九四二）を通じて「廣井精神」の継承を確認する（拙書『評伝、技師青山士』、同『評伝、宮本武之輔』参考）。

青山は「廣井山脈」の代表的門下生の一人である。土木界では異例とも言える清廉な技術者の道を歩んだこと、それ自体が恩師の影響である。彼は旧



制一高から東京帝大土木工学科に進んだ。一高時代にその後の人生行路を変え、無教会主義クリスチャンの宣教師内村鑑三との巡り会いである。学友の勧めで内村の講演を聞き、門下生になることを決意する。これはクリスチャンとして「民のために尽くさん」とする決意につながり、内村の助言もあった土木工学を学ぶことになる。

卒業後、廣井の助言で「世界最大の土木工学的実験場」とされたパナマ運河開削工事に参加するため単身渡米した。渡航費を自ら捻出したのも廣井と同じである。彼は唯一人の日本人技術者としてパナマ運河開削工事という熱帯雨林中の巨大土木事業に自らを投じる。アメリカ技術陣の彼に対する評価



パナマ時代の青山 士

は極めて高かった。アメリカ政府の公文書には「His workmanship and conduct have been excellent」と記されている。彼は、日米関係の緊迫化に伴い巨大運河の完成を見ずに帰国する。三三歳。

帰国後は、廣井の助言もあって内務省技師となった。東京・東部の荒川放水路開削の指揮をとる。放水路の要が記念碑に残るのが岩淵水門である。放水路は約二〇年をかけて完成した。記念碑には主任技師青山士の名前はなく、犠牲者を弔う言葉と作業員全員の努力によって完成したことが記されている。放水路完成により、東京東部低地は水害の恐怖から解放され驚異的な発展を続けた。

昭和二年（一九二七）六月、信濃川・

大河津分水の大堰が激流に洗われて陥没した。完成からわずかに五年後の大惨事であった。内務省は青山を新潟土木出張所長（現国土交通省北陸地方整備局長）に、若手の技師宮本武之輔を現場主任に

送り込んで修復工事を命じた。事故の第一報を聞いた青山は吐き捨てるように言った。

「手抜き工事をするからこんな無様な事故を起こすのだ」。「大きな事故の前には必ず小さな事故がある。土木技術者は小さい事故の段階でそれをいち早く把握しなければならぬ」。突貫工事と宮本の背水の陣ともいえる活躍により、四年で新しい堰が完成した。青山が大堰のそばに建立した竣工記念碑は著名である。記念碑には日本語と万国共通のエスペラント語で、技師青山士のキリスト教精神に導かれた高邁な精神が刻まれている。

「万象ニ天意ヲ覚ル者ハ幸ナリ」

「人類ノ為メ、国ノ為メ」

恩師廣井から継承した技術者精神の成熟を読みみたい。エスペラント語の記念碑に警戒した治安当局は内務官僚青山に事情聴取を行った。その後、内務技監となり、また第二三代土木学会会長となつて『土木技術者の信条及実践要項』を作成した（技監・学会会長のいずれも博士号のない第一号である）。日本の工学界では初の倫理綱領である。ここに青山の土木技術者としての倫理観がすべて表現されている。彼は軍国

『評伝 技師 青山士 その精神の軌跡』



高崎哲郎 著  
鹿兒島出版会  
2,520円

著者がものしてきた土木技術者たちの評伝は、大地や資料に刻まれたその決意と膨大な足跡から、研ぎ澄ました切っ先で彫像のごとく佇立させる。それらタイトルや副題もまたしかり。簡潔かつ大胆にその真髓を抉って見事だ。

生誕一三〇年、没後四五年を機に、著者による青山士評伝は本書で三冊目となる。公共事業を「人類の為、国の為」と位置づけ、その私心のない清廉にして誠実な青山の生涯。今回は青山の高邁な精神性を追って、著者自身さらにストイックで真摯に對峙している姿さえ浮かぶほどだ。青山士の評伝・決定版である。

主義やこれに同調する官僚や技師には批判的であった。彼は生涯無教会主義クリスチャンであり反戦主義者だった。「技術は人なり」。青山晩年の言葉である。



## 宮本武之輔

宮本武之輔は旧制一高に成績優秀なため無試験入学する。宮本は東京帝大土木工学科に在学中日記に記している。「民のための土木技術」。「研究教育だけに没頭する技術者にはなりたくない。現場に立って後世に残る土木事業を手がけたい」（彼は生涯日記を書き続けた）。ここに廣井の影響を見る。彼は語学にも秀でていて、英語、フランス語、ドイツ語が読み書きできた。青年時代の一時期とはいえ、彼が文学者を目指し内外の文学書を読破したことも彼の柔軟な発想の基礎を築いた。大正六年、最優秀の成績により恩賜の銀時計を授けられて卒業し内務省技師となった。彼はコンクリート工法を確



宮本武之輔（大学生時代）

意でのぞみ、設計施工をすべて手掛けた。酷暑の真冬も猛暑の真夏も先頭に立って働いた。作業歌を自作して労働者と共に歌った。この間、直属の上司青山士と恩師廣井勇の激励を心の支えとした。工事

立し、その後の欧米への留学での研究成果もあって博士号が授与される。彼は土木技術者を「民の幸福を実現する職業」と信じ、公共事業を進めるに当たって幹部は「民のふところに飛び込む勇気がなければならない」と自身に言い聞かせた。

内務省入省以来、彼にはふつふつと湧き上がる闘志があった。宮本は政府部内の「技官待遇」の壁の打破に生涯を捧げた。技術者集団を結成し改革運動の先頭に立った。政府首脳部から自重を求められたが、耳を貸さなかった。大河津分水自在堰が陥没し信濃川の堰の機能は完全にマヒした。信濃川本川の河水が枯渇した。流域農民は激怒して抗議に立ち上がった。堰の修復工事に投入されたのが三六歳の技師宮本

の進み具合を地元紙などを通じて積極広報したのも当時としては異例のことであり、「公共事業は民のためにある」との確固たる信念がうかがえる。宮本は戦時中対中国政策立案にあたる企画院次長にまで昇進する。東京帝大土木工学科教授を兼務したが、講義（河川工学）は博覧強記と現場での経験に裏打ちされた知的刺激に満ちたものだった。「私は学生に向かって、講義の細かい数字などは忘れても、決して大綱を掴むことを忘れないように、と言うことを口癖のように注意しているが、総て信念は自覚から生まれ、自覚は思索から養われる。思索のない人生は一種の牢獄である」（『技術者の道』）

日本が太平洋戦争に突入した直後の昭和十六年十二月、国会内の内務省政務委員室で倒れ急逝した。文才に秀でた彼は、四九歳という長くはない人生で二〇冊余りの学術書やエッセイ集を残した。『河川工学』、『技術者の道』



信濃川補修工事で。左から宮本武之輔、廣井勇、青山士

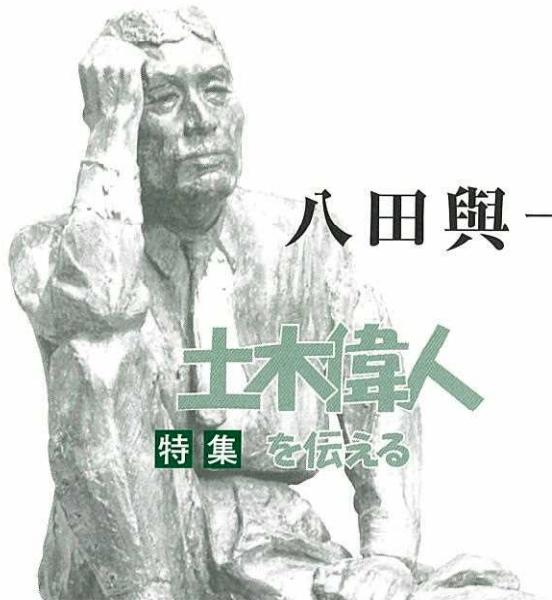
など名著も少なくなく、晩年交流のあった作家菊池寛はその文才を「官僚離れしている」と絶賛した。彼は「土木工学」以前に「人間学」を目指したのである。そこにはモラル・バックボーンが厳然として存在する。

### ▼写真の出自

写真集「青山士／後世への遺産」  
（青山士写真集編集委員会編）  
「久遠の人 宮本武之輔写真集」  
（社）北陸建設弘済会



# 八田與一を舞台にのせて



## 土木偉人

特集 を伝える



松田 章一

金沢ふるさと偉人館  
館長

『台湾の台地を潤した男―八田與一の生涯―』の上演は、平成十九年六月、石川県金沢市・小松市・七尾市と東京都調布市での十一ステージだった。かなり勢い込んで作った舞台だったので、十一ステージでは残念だといわれたが、全国からの問い合わせはなかった。

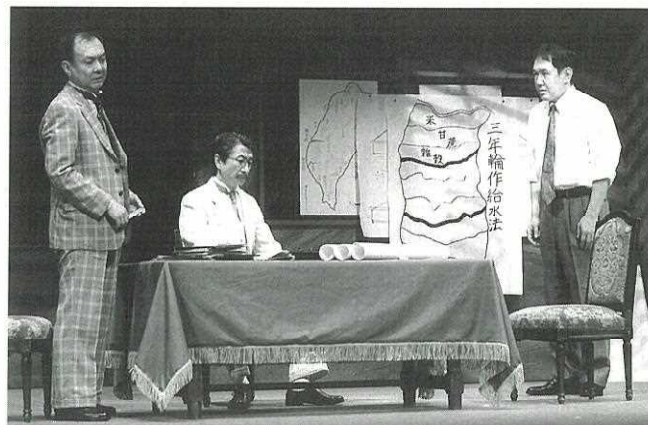
いま虫プロダクション製作のアニメ映画『パッテン・ライ!!』が、金沢の映画館で上映されはじめたので、八田與一の名前も一般的になるだろうから、あるいはと期待しているところである。

八田與一の生涯を舞台にしたいとの話が劇団昂の事務局長から持ち込まれたのは、平成十六年の師走であった。しかしこの脚本執筆にはいくつかの壁があり、かなり躊躇した。

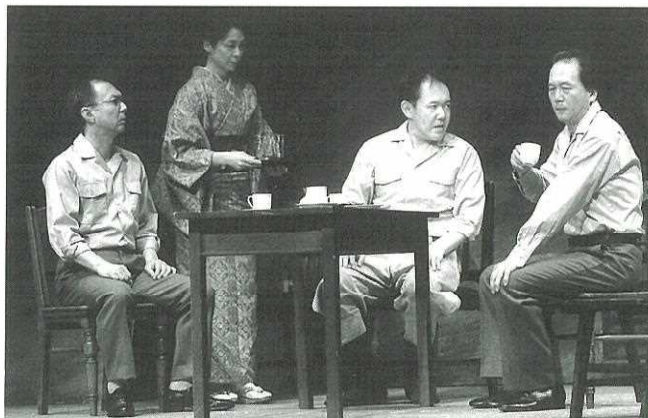
その一つは、八田は台湾では著名であるが、日本では専門分野か関係者にしか知られていない人物である。

二番目は、ダム技師の話を舞台にせよといわれても、果たしてダム工事を舞台で再現できるものであろうか。

三番目に、実人生の伝記でありノンフィクションなので、演劇的な脚色がどこまで可能であろうか。



台湾総督府で、上司である山形局長に説明する與一



トンネル爆発事故の後、対策を議論する與一

平成十七年五月、台湾の八田與一墓前祭に参加した。その時墓参団一行が李登輝事務所を訪ね、突如李登輝氏から、台湾のテレビ局が放映予定の「水色嘉南」の台本を参考にと手渡された。

団長の中川外司氏が連絡したものとされるが、李登輝氏の前で書かざるをえない立場に追い込まれたのである。

その年の十二月、一人で取材のため訪台した。取材に同行してもらったのは徐欣忠さん。この人に烏山頭ダムでお世話になった人は多いと思われるが、まるまる三日間を山から海まで案内し

ていただいた。徐欣忠さんにはさまざまの話を聞かされた。その一つ一つが実に面白く辛辣であった。

それで最初の構想は、徐欣忠さんの風貌を借りて福の神を登場させるつもりであった。当然貧乏神も出る。これを狂言仕立てにするという案で、一月には一幕を書き上げて、演出の村田元史氏へ送った。

結果はボツ。

演出としてはストレートな台本が欲しかったらしい。福の神や貧乏神では、説明的になり過ぎる難点があると見抜



かれてしまった。

画家や彫刻家は完成した作品を頭に秘め絵筆や鑿を取るのであろう。工事の設計図が出来ていないと何事も始まらないのと一緒だ。舞台の場合も同じで、私の場合、最後の幕を下ろす場面が浮かぶと筆がスムーズに運ぶ。

今回の終幕は、外代樹夫人のダム放水口への入水の場面であった。

スライドも使わないことにした。そもそも演劇の舞台には時間と場所の制約がある。テレビや映画のように自由に場所を動かしたり時間を飛ばしたり



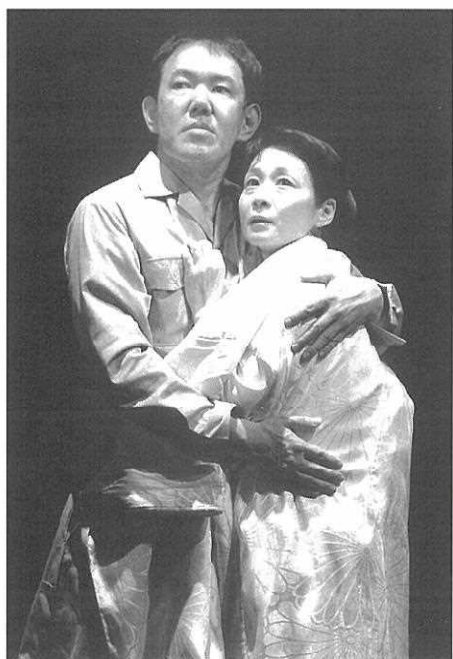
金沢・八田家での、八田與一と外代樹の婚礼

は出来にくいのだ。舞台セットのこともあるし、衣装のこともある。

舞台だからこうした制約は当然のこととて、ともかく入水で幕を引くことにしたので、幕開けは二人の結婚式でどうだろうか。

劇団昂では、台湾での上演を視野に入れていた。だから日本の結婚式の豪華さも見せたい、と考えているうちに、白無垢の花嫁衣装は、女性の死出の旅路を象徴するということに思い至った。さらに演出からは水をお忘れなくといつてきた。

かくして全体を貫くテーマは「水」と「死」。それをダム建設への情熱と夫婦愛に具体化しながら描く、ということに筆を執りはじめた。



入水後、與一と外代樹が水中で再会する幻想シーン

一幕一場は、金沢八田家での結婚式のお色直しの部屋。白無垢を脱いで振り袖に着替えている場から幕が上がリ、母親が十六歳で台湾へ行ってしまいう外代樹を心配するところからセリフが始まる。

母 「行くのだねえ」

外代樹 「ええ、行きます」

母 「(吐息) はアー」

これでこれからの舞台のすべての関係を語ってほしいというのが作者の願いだ。結婚式での母の心配。毅然と未来を見据える娘の決意。

着替えている部屋へ夫與一が入ってくる。

與一 「入ってもいいかな」

外代樹 「あら。

あの…。本当はだめですけど…。旦那様ですから、どうぞ」

これもこれからの二人の生活を予想させようというセリフである。

酔った兄も入ってくる。「水」が

欲しいという。水のテーマだ。

智証 「うまい、極楽の水じゃ」

與一 「この水がわしの課題じゃ」

智証 「ん？極楽の水が？」

與一 「灌漑ダム」

一場のおしまいに、與一が外代樹に珊瑚の指輪を渡す。烏山頭ダムは珊瑚潭とも呼ばれたので、ちよつと遊んだが、ついで珊瑚の数珠も渡す。白無垢衣装と数珠、死の予兆である。

最終幕で、入水する外代樹がまとうのはこの白無垢。赤い珊瑚の数珠も効果があるので、作者は一人で悦に入りながら、現実の出来事から水と死のテーマにそって取捨選択しながら書きすすめた。それでも一年間かかり、八回書き直した。

ベテランの役者を得て、舞台は熱っぽく面白かった。作者としては終幕の盛り上がりにもう一工夫しなければと思っているが、舞台の幕は既に下りてしまっているので、次の公演で手直したいと密かに思っている。

舞台の舞台裏はあまり公開するものではないが、八田與一の顕彰になれば幸いである。

▼写真提供 劇団昂  
舞台劇「台湾の大地を潤した男」の場面より



# 子供たちに伝えたい願いと実践



## 土木偉人 特集 を伝える



中川 外司

八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会  
事務局長

「何と言われようと信念を曲げないところがすごい。ぼくは別の職業になっても八田技師の心を受け継ぎたい」

これは全国公開に先駆けて十一月十一日に金沢市の北國新聞赤羽ホールで開かれた長編アニメ映画「パッテンライ!!」南の島の水ものがたり」に招待された八田技師の後輩にあたる花園小学校六年生の太田颯人君の鑑賞後の感想です。

太田君は地元の北國新聞の取材記者の質問に、高揚した胸の高まりを懸命に抑えながら緊張の面持ちで一言ひとこと言葉を選んで話していました。

取材のようすを近くで見ている私は、太田君のこの話を聞いた瞬間、アニメ映画「パッテンライ!!」は全国子どもたちの心を必ず捕らえ、大きな感動を与えるに違いないと確信しました。

### 墓前祭への参列

私が台湾・烏山頭<sup>うざんとう</sup>で技師の命日の五月八日に営まれている八田興一夫妻の墓前祭(墓前法要)に初めて参列したのは、一九八五年でした。以来、毎年墓参を続け今年で二四回を数えました。

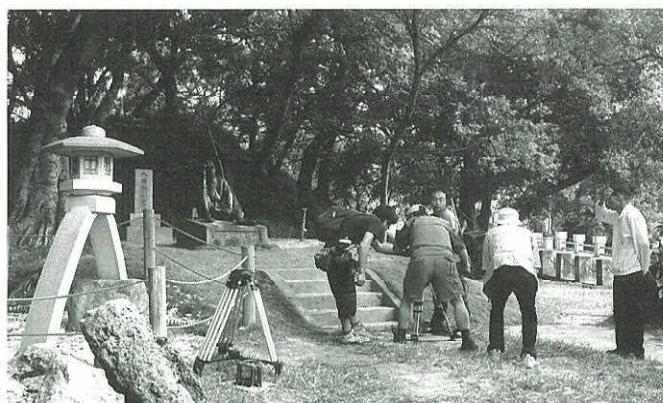
初めての墓参で大きな感動を受けた私は「工事が完成してすでに半世紀をこえた今もこのように台湾の人々から

慕われている八田夫妻のことを一人でも多くの日本人に知ってもらい、墓前祭を続けてくれる台湾の方々に感謝しなければならぬ」と考え、八田夫妻の顕彰と技師の郷里石川県と台湾嘉南<sup>かなん</sup>の人たちとの友好活動に取り組みはじめました。

私が墓参をはじめたころの我が国は、バブル経済真っ只中で、大半の日本人の関心は金儲けで、心を和ませるこの種の話が受け入れられる状況ではありませんでした。私は身近な人たちの心に八田夫妻のことを語り続けました。が、それでも耳を傾けてくれる人はほんの一握りでした。しかし、バブルが弾けたところから状況は一変し、地域の公民館長を勤めていた私のもとへ「八田技師の話をしてほしい」という依頼が次々と寄せられるようになりました。私はこれは日本人の一人ひとりがバブル経済破綻後の国の将来に不安を覚え、これからのような考えで生きるべきかを考え始めたことの証明ではないかと強く感じました。

### 映像の伝達力

八田技師夫妻の「生き方」を理解してもらうには、技師が設計し全工事を監督指揮した灌漑施設の説明をしな



ドキュメンタリー映画「民衆のために生きた土木技術者たち」撮影風景

ければなりません。造り上げた農地面積は十五万ヘクタールにおよび、烏山頭ダム堰堤の長さが一三〇〇mで高さが五六mと口で説明するのはごく簡単なことなのですが、いつも話し終えたあとでこの大規模な工事の全容がどこまで理解してもらえたかがまったく分からず、いつも歯がゆい思いをしていました。

そんなときにできたのが、土木を正しく理解してもらうために大成建設が教育用に企画製作したDVDの映像「民衆のために生きた土木技術者たち」



でした。完成まで三度も台湾へ取材に行き、ヘリコプターを使つての空撮のお蔭で、スクリーンスケールの大きいダム堰堤と烏山頭水湖を目の当たりにすることができるようになりました。口で説明するのは違い八田技師が造り上げた工事の全容を見てもらうことで、私の話を良く理解いただけようになりました。これまで一〇〇回を超える講演をしましたが、そのつどこのDVDを使わせていただいています。

### 完成の喜びと感動

数年前に金沢のある中学校から全校生徒と保護者に八田技師の話をしてほしいと依頼されました。そのときこのDVDを使って話しました。生徒たちは最後まで私の話を静かに聞いてくれましたが、そのときもつい少し前まで小学生だった一年生に本当に理解できたかどうかの疑問が残りました。

私が八田夫妻の生き方を本当に知ってほしいと願っているのは子どもたちですから、そんな子どもに知ってもらうためにはアニメ映画化するのが一番良いのではないかとそのころから真剣に考え始めました。

幸いに八田技師の顕彰活動を通じて

親しくさせていただいている全国建設研修センター広報室長の緒方さんのお力で虫プロダクションの協力をえることができ、アニメ化の構想が具体化し、今秋の完成へと繋がりました。私にとつてこんな嬉しかったことはありません。冒頭の太田君らといっしょに鑑賞した花園小学校六年生の青木晴香さんは「日本の人も台湾の人も、人として生きていくのは同じだから八田さんは差別をしなかった。私もそうしたい。ほかの児童たちも「八田技師は太陽みたい」「技師が身近になった」と感動のなかでいろんな思いを話していました。



アニメ映画「パッテンライ!!」のスタッフ関係者と台湾・烏山頭にて(後列・右から3人目が筆者)

試写会の上映が終わると同時に子どもたちを中心に大きな拍手が沸き起りました。驚きと同時に胸が熱くなりました。映画を見終わつての拍手は半世紀以上前の子どもときの記憶がありますが、二一世紀の今も素直に感動したときに自然発生することを改めて知らされました。何とも嬉しく温かい気持ちにさせられました。

また、劇場公開の初日に小学校一年の娘さんと訪れた母親は、土木工事が題材だけに「子どもには少し難しいかな」と思ったが、少年同士の友情が描かれていたので親しみやすく、娘も楽しんで見ていた」と話し、娘さんも「面白かった」と嬉しそうでした。

近く台湾へ旅行で訪れるため興味を抱いて劇場に足を運んだ男性は「感動した。八田技師の情熱や子どもたちの夢がすごく伝わってきた。今の日本人は夢がないからね。是非、子どもたちに見てもらいたい」と強調するなど、子どもたちはもちろんおとなの人にも好評をいただき、アニメが完成して本当に良かったと喜んでいきます。

### 八田技師を通して進む

#### 若者の台湾との交流

十一月に私立の金沢東高校の二年生

が修学旅行で八田技師が造った烏山頭ダムと灌漑施設を初めて訪れました。石川県では初めての試みでした。ここに来て八田技師夫妻が大きく取り上げられたことから、いくつかの県立高校でも八田技師が残した業績をたずねる修学旅行の企画が次々と進められています。また、三月にはロータリークラブの企画で希望する高校生を募集して烏山頭を訪れるほか、台湾の高校生との交流を実施する計画も具体化しています。

私は、政治を抜きにして純粹に教育的見地から若い人たちに先人が残した業績を学ぶ修学旅行などでの交流をもっともつと進めることを心から期待しています。それと同時に私自身もこれからさらに八田夫妻の顕彰と台湾との友好増進に努めなければならないと心掛けています。

世相の乱れから子どもにたいして厳しい意見を持つ人がいますが、今回のアニメ映画製作のお手伝いを通じて、私はおとなが心を砕いて一生懸命に努力すれば、今の時代の子どもたちにも必ず受け入れてもらえるという貴重な経験をすることができ、大変嬉しく思っています。





# 造り手の顔が見える土木の発信

## 土木コレクション2008 HANDSを開催

### 土木偉人

特集 を伝える

土木学会 土木の日実行委員会

幹事長 島谷 幸宏 (九州大学大学院工学 研究院環境都市部門 都市環境工学講座 教授)

アドバイザー 高橋 薫 (大成建設株式会社 広報部コミュニケーション企画室 主任)

土木学会では、一九八七年十一月に「土木の日」および「くらしと土木の週間」を提唱し、土木への一般理解を深めるためのPR活動を全国展開。本部署事としては、毎年記念シンポジウムを開催しています。

二〇〇八年土木の日は、前年に引き続き土木学会会長の基本姿勢である「社会への積極的な発信」と、土木の魅力を社会に伝えるための知恵と技をますます磨くことを目的としています。その一つの試みとして、これまでの「みんなで作った」という発信方法から「誰がこれを作ったのか」という切り口で、土木構造物の計画から完成まで関わった人物に焦点をあて、二つのイベント(会場・土木学会)を開催しました。

●土木の日記念行事シンポジウム  
「匿名性からの脱却」  
十一月十八日 十四時～十七時

●土木コレクション2008 HANDS  
土木エンジニアードローイング展  
十一月十六日～十八日 一〇時～二〇時

シンポジウムは、まさにストレートに官・学・民からのパネリストを招いて行われ、満員の学会講堂が熱気であふ

れるような盛況ぶりでした。

一方、土木コレクション二〇〇八は、技術者が関わってきた実績などを名前や顔をみせて展示し、伝える、という初めての試み。コレクションには、「パリオートクチュールコレクション」のように、高級な流行服の新作発表会という意味と、もう一つ、趣味や研究のために集めた蒐集物という意味もあります。

今回は、土木学会が所有する資料を中心に、明治から昭和初期にかけて活躍した土木エンジニアの手書きの図面を展示したドローイング展と、台湾の発展に貢献した日本人技術者・八田與一の映像展を開催しました。

ドローイング展の選定作業はとてどもドラマチックなものでした。土木学会土木図書館の貴重書室で、白手袋をして布張りの書物の扉をひらき、一ページごとに息をのみ、目を見張り、またA0の丸められた図面を広げると、手書きの迫力に空気がピンと張り詰め、圧倒的な魅力で訴え



土木の日記念行事シンポジウム  
「匿名性からの脱却」



「土木コレクション2008 HANDS」  
のポスター

かけてくるものがありました。  
展示の内容

土木エンジニアードローイング展  
明治期から昭和初期の土木エンジニアは、高い志と熱意、プライドを持って国土づくりに取り組んできました。



この時代の図面一枚一枚から、エンジニアの意志と当時の技術の高さが伝わってきます。

〔帝都復興橋梁図面〕

後藤新平、太田圓三、田中豊

〔増田淳橋梁図面〕

長浜大橋／十三大橋

〔琵琶湖疏水図面集〕

田辺朔郎、小西得太郎

〔地下鉄銀座線図集〕

R・プリスケ、遠武勇熊、愛甲勇吉

〔土木偉人映像展「八田與一」〕

「不毛の大地」とよばれた台湾南部を、東洋で比類なき土木事業により穀倉地帯に蘇らせた土木技術者・八田與



土木エンジニアドローイング展

一。それから八〇年を経た現在、当時の烏山頭ダム建設の様子を報道したフィルムがアニメーション映画「パッテナライ!!」(企画・緒方英樹、監督・石黒昇、製作・虫プロダクション)の調査取材の過程で発見されました。

映像展では「パッテナライ!!」の予告編と、実際の建設工事映像やスライド、「民衆のために生きた土木技術者たち」(企画製作・大成建設、監督・田部純正)から八田與一部分を公開しました。

また、当日展示した図面などをまとめた図録を作成、無料で配付しました。来場者が振り返ることができるように、



土木偉人映像展「八田與一」

二〇〇九、二〇一〇と引き続きコレクションの内容が蓄積されるように、そして、展示期間が三日間と短期だったため来られなかった方にも内容を伝えられるよう配慮したものです(土木学会にストックしてあります)。

寄せられたアンケートより

来場者アンケートによると、来場のきっかけはポスターやチラシ、関係者の口コミがほとんどですが、回収率は七割を超え、次回に向けた期待のコメントも数多く、興味の高さがうかがえました。

また、二つのコンテンツに興味を持つというよりは、どちらかに強烈に惹きつけられた方が多く、「本物の迫力をまざまざと見せつけた手書きの図面の凄さ」、「一人の土木技術者に焦点をあてたドキュメンタリー映像や写真に感情移入した」といった声が寄せられました。次回へのリクエストとしては、三日間は短いで延長を希望、会場の検討、もっと多くを見たい、といった前向きな内容が大半でした。

記念グッズとして

戦前の土木絵葉書復刻版を製作  
戦前の土木絵葉書は、土木学会土木図書館にアーカイブスとして三六〇〇

枚保管されています。土木コレクションに合わせ、そのほんの一部をピックアップし、復刻版を製作しました。

例えば錦帯橋の絵葉書には、洪水に抗うシーンが写されています。今ではちよつとした「世紀の一瞬」でさえ携帯のカメラで撮ってすぐに遠くの親戚縁者に送ることができますし、インターネットやTV、新聞などのメディアでもニュースとして即時に伝えられます。ですから今日から見ると、「なぜそんな写真が絵葉書に?」と思われるかもしれませんが、当時思いを馳せれば、「先日、台風で洪水により怖い思いをしました、何とか無事に正月を迎えることが出来ました」などと書き添えて、遠方の親類縁者に無事の報告をしたのかもしれない。そう考えると、土木構造物がいかにその地域に住まう人びとに密着した構造物だったのかと、残された土木絵葉書一枚がいとおしく感じられます。

おわりに

今後とも土木コレクションシリーズが継続できるように、本部と支部との連携も模索しながら検討を進めていくところです。土木コレクション二〇〇九もどうぞご期待ください。





# 素晴らしい！八田與一の人間力

## 土木偉人

特集 を伝える



駒田 智久

日本技術開発株式会社顧問

### 今また、八田與一の時代？

このところ立て続けに八田與一である。昨年十一月二十日、八田與一を主人公とする長編アニメーション映画「パッテンライ!!」南の島の水ものがたり」の完成披露試写会があった。その二日前、十八日は土木の日であったが、土木学会としての記念行事「土木コレクション二〇〇八」では土木偉人映像展「八田與一」が開かれ、烏山頭ダム建設時の工事写真スライドや映画「民衆のために生きた土木技術者たち」の内の八田與一編が上映された。また、記念シンポジウム「匿名性からの脱却」では栢原土木学会会長がパネリストとして（匿名性に対する）顕名性の一事例として八田與一と嘉南大圳を挙げて説明された。少し古くなるが一昨年六月二十八日には金沢の劇団・昴によって「大地を潤した男―八田與一の生涯―」が東京では一夜限りのものとして上演されている。今年には八田與一没後六六年ということであり、特別記念すべき年という訳ではないが、今という時代が八田與一の人生や生き方に何かを感じずることを要求しているということであらうか。

### 嘉南大圳と八田與一

嘉南大圳は、それまで洪水と旱魃、それに塩害という三重苦に喘ぎ、不毛の大地といわれていた台湾南部・嘉南平野の相当の部分を、曾文溪及び濁水溪の二つの水系からの取水により灌漑するという大プロジェクトである。灌漑面積十五万ヘクタールは香川県全域に匹敵し、その給排水路延長一万六〇〇〇キロメートルは地球の半周近くに相当する。また総事業費五四〇〇万円余は近年の価格で五〇〇億円に相当すると言われている。ソフト面で特色



烏山頭水庫(ダム) ダム湖は珊瑚潭と呼ばれる

表. 烏山頭水庫の諸元

集水面積	6,000ha(曾文溪より別途導水)		
満水面積	1,300ha(満水位標高58.18m)		
堰堤	堤長	1,273m	
	幅	堤頂:9m、堤基部:303m	
	法勾配	表1:3、裏1:2.5&3	
	堤高	56m(標高66.66m)	
貯水量	1.54億m <sup>3</sup> (有効0.84億m <sup>3</sup> )		

ある点はその給水方式である。即ち、上記二つの水系からだけではその灌漑対象区域にフルに給水を行うことが困難であることから、米、砂糖きび及び雑作物を一年ごとに作ることを前提とした給水とする三年輪作給水法というものである。上記施設は幾多の特色ある土木工事によるものである。中でも特筆されるのは烏山頭水庫(ダム)の建設である。その主要諸元を表に示す。烏山頭水庫はその時点で規模的にも東洋一を誇るアースフィルのダムであったが、堤体の築造方式としても大変珍しい工法で



あったセミハイドロリック・フィル工法によっている。同工法は半水成式と訳されるが、水の力によって盛土のうちの細粒分を堤体中心部に押し流してコア部分を築造する工法である。本工法によるダムの築造は東洋で初めて、アメリカでも二、三例を数えるしかないものであった。

堰堤築造のためには五四〇万立方メートルの盛土量を必要としているが、当時建設作業を人力に頼る風潮の中で、蒸気機関の駆動による大型シヨベル、エキスカベーター、また蒸気機関車と転倒式土運搬車（エアードンプカー）台



セミハイドロリック・フィル工法による堰堤盛土と射水作業  
(嘉南農田水利会提供)

車) からなる土運搬システム等を導入してこの大土工に対処している。その土取り場は約二〇キロメートル離れた場所にあり、サイトとの間を上記編成の列車が往復している。

八田與一はこのプロジェクトの企画・立案からその調査、設計及び施工の全段階においてリーダーシップをもって係わっている。即ち、嘉南平野を灌漑するという命題のもと、一九一八年からの自らも担当した調査を踏まえて、その構想を策定し、後に現地に赴き設計・施工の中心人物として指揮を振るった。構想段階で十五万ヘクター



大型スチームシヨベルによる作業 (嘉南農田水利会提供)

ルに及ぶ地域を灌漑するという規模の大きさから、学生時代から言われていたという「八田の大風呂敷」と呼ばれているが、併せてこの段階から、できるだけ多くの農民にその益を齎すべく先述の三年輪作給水法を提案している。ものを造れば良いと言う、ややもすると陥りがちな狭い土木技術者の意識から脱して、いわばユーザーの顔を見ながらその幸せを第一義として構想・計画をしたということができよう。彼が後に「嘉南大圳の父」と呼ばれるのは、このような配慮をした処にも起因すると思われる。

ク・フィル工法の権威者であった米国のジャスチン氏を招いて技術指導を請うているが、その中で同氏が問題点として指摘した中心コンクリート止水壁の高さや、溢流タイプの余水吐の型式について、十分な反論を以ってその主張を通してしている。

### 八田與一の素晴らしき背景

彼の素晴らしさは既に各所で語られている。十分な知見を持ち合わせていない筆者がそのことについて殊更に記すのは或いは僭越の嫌もあるが、以下に記してみることとする。

嘉南大圳全体がその構想も含めて極めて八田與一個人の考えによるところが大きいところから、当初その建設の全般に係わっているが、途中から中でも彼の関与なしには建設が遂行できないと思われる烏山頭水庫建設の責任者となつて、その本体だけでなく、同水庫の集水能力の不足を補うべく計画された曾文溪からの導水のための烏山嶺隧道の工事も併せて見ている。烏山頭水庫は上述の基本的な構造型式、堰堤築造工法、及び大型土工機械の導入など、全て彼のイニシアティブによっている。また当時、総督府はセミハイドロリック

その外形から言えば、彼の素晴らしさは、「長期に亘る一大プロジェクトを、その若い年代の時に、ほぼ一身に担って、幾多の技術的或いは事業としての困難さを克服して、成し遂げた」というものである。「一大プロジェクト」であることは既に記した。彼がこのプロジェクトに係わり始めたのは三十歳台初めであり、着上は彼の三四歳の時である。今の感覚から見れば如何にも若い彼が、プロジェクトの実質的な切り盛りしていたのは中々想像しがたい。彼の七、八年先輩である青山士がパナマから帰国後、荒川の改修に携わった



のが同じく三四歳という。また二年後輩の田中豊が関東大震災後の帝都復興事業として隅田川の一連の架橋に橋梁課長として携わったのも同じく三四歳である。同年代に八田與一が担ったものの大きさは、対象事業の規模やそのイニシアティブから見て、勝りこそすれ決して劣らないものと思われる。

「困難さ」は諸々あったのであろう。技術的な話はさて置き、困難さの主要なものとは烏山嶺隧道の爆発事故による五十数名の死傷者の発生、及び関東大震災の発生に伴う予算の縮減であろう。事故の時の彼の心情について詳しく記



烏山頭ダム・余水吐

されたものを見ていないが、直接の責任者として、その心の傷は如何ばかりであったかと想像する。また震災後の予算縮減時には職員の約半数を整理・解雇しなくてはならなかった。このときの彼の挙動はまた彼の人間性を表すものであるが、何れにしてもこれらの落ち込みから見事に事業を立て直して完成に至らしめている。

このような達成の背景として彼の保有している資質・能力として以下の三つを挙げたい。

高い技術的見識／高い志と強い意思の力／豊かな人間性

これらは総体として彼の人間力とも言うべきものであろう。上に見てきた彼の数々の実績は、これらの各々或いはこれらの組み合わせの結果として現われてきたものと解することができ。別に、豊かな人間性の発露としては幾つかの挿話がある。即ち、家族が共にあって初めてプロジェクトが円滑に進めるとの発想に基づく学校や病院或いは娯楽施設の整備、又予算減に伴う人員削減時の優先順位の判断基準(多くの優秀なものを意識して整理した)や、人事的なフォローアップ・面倒見などである。作業服で座った姿の彼の銅



工事期間中に亡くなった従業員やその家族を祀った殉工碑

像もその人間性を表すものであろう。更に殉工碑の話がある。これは、この十年に及ぶプロジェクトの期間中、事故や病気で亡くなられた一三四人の方々を悼んで、その完了時に設置されたものであり、側面にその方々の名前が刻されている。ここには民族・国籍を問わず、男女を問わず、また従事者本人・家族を問わず、等しく並んで名前が刻まれている。

その大本と考えられるのは、豊かな人間性と高い志が一体となった「世のため人のために役立つことをその使命とする」、その思想にあったものと考える。それではこのような彼の基本的なスタンスは何によって齎されたものであろうか。勿論持って生まれた資質

があろう。それだけではなく、生後に受けた教育・影響があるはずであるが、それは何であったのだろうか。明治という日本の勃興期、「坂の上の雲」を指す時代背景は勿論大きいものがあったと考えられるが、それだけで説明するのは難しいように感じる。

あの青山士の場合、帝大卒業後、何処にも就職せず、文化果つる瘴癘(しやうれん)の地パナマで運河開削工事に邁進するのであるが、その彼の気持ちを支えていたものは大きくは彼の師・広井勇が信仰していたと同じキリスト教であったとされている。勿論、彼の行動の背景にも、日露戦争直前という当時の日本の置かれた状況があり、又、日本固有の文化に根ざす心情があったとは言え、



「万象二天意ヲ覚ルモノハ幸ナリ、人類ノ為メ國ノ為メ」とする意識の背景にはキリスト教が多く、その位置を占めていたとされる。翻って八田與一の場合はどうであったのか。

八田與一氏に影響を与えたものとして、広井勇、西田幾多郎、それに真宗が挙げられている。広井勇については青山士に対すると同じく相当の薫陶があったのである。西田幾多郎については想像する力が無い。加賀の国の真宗と聞いて納得するところがある。真宗は本来かなり原理主義的な面があり、仏の前で万人を差別せず等しくとり扱い、その衆生の済度を願うところがあるからである。

## 今生きる我々へのメッセージ

今、我々インフラに係わる者達はある閉塞感に捉われていると云ってよからう。所謂サブプライム問題に端を発する世界同時不況を待つまでもなく、インフラは一定の充

足を見ている。新しく造るのは極力抑えようという風潮の中、事業量は激減し、それに伴って仕事量も減じ、建設会社やコンサルタント会社の破綻もしばしば紙面を賑わしている。携わる人の面から見ると、若年層の離職に見られるように土木界離れの傾向は著しく、またこの世界への新規の人材の供給も捗々しくない、というより危機的な状況にあるとも言われる。

一言で言うところ、フロンティアが無いこ



鳥山頭ダム・珊瑚潭を見おろす八田與一の銅像

とに起因するということであろうか。少なくとも建設の槌音が高く響き渡るフロンティアは国内には多く見当たらない。しかし、目を転ずれば我々が社会的に抱えている問題は余りにも大きいというのも現実であろう。人類共通の問題として、地球の温暖化などの環境の問題、或いは水や食料の不足を含む資源やエネルギーの枯渇・不足の問題が大きく横たわっている。これらは我々が抱えている問題であるが、逆に言えば解決すべき課題でもあり、その解決に係わって大きなフロンティアが拡がっているといえる。一方で世界には人間としての基本的な要求の水準を満たさないで生活している多くの人間がいる。彼らは多く建設の槌音を待望しているともいえる。これも抱えている問題に対応したフロンティアの一つといえよう。これからの若い方々が広く横たわっているフロンティアに目を向けて旧い人々を凌駕する新しい発想に立ってチャレンジしていくことが期待される。逆境こそチャンスであると言えよう。八田與一は嘉南において数々の問題を抱える逆境をフロンティアとして切り開いたのである。我々もまた同じである。

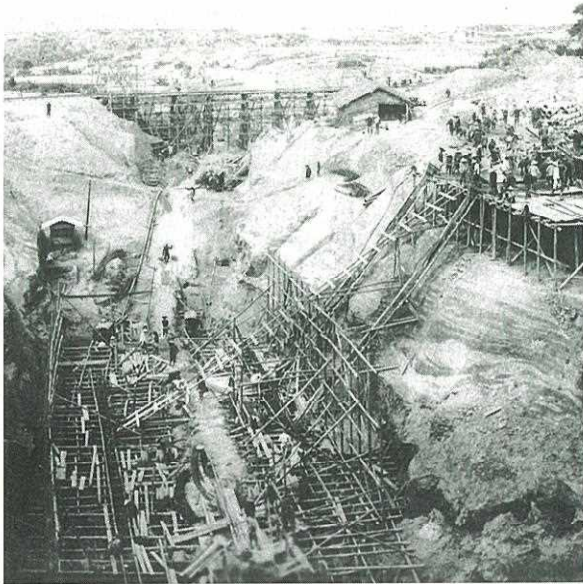
## おわりに

筆者は冒頭に記したイベントには全て参加させていた。その直接のきっかけは昨年十月の、先述の映画「パッテンライ!! 製作記念」と題された「高橋裕先生と行く! 台湾土木現地研修」ツアーへの参加であり、そのまた古いきっかけは司馬遼太郎の著作「台湾紀行」に目を通したことである。同書を通じて台湾と日本の結びつきの強さを感じるとともに、一土木技術者として素晴らしい先輩の存在を認識することができた。暫く、その認識は認識として記憶の中にしまわれていたが、ある縁から昨年の公演を観ることとなり、その延長線上で上記ツアーに参加し、一層八田與一に近づくことができた。ツアーで心に残るのは彼の銅像の後姿である。その前面には珊瑚潭の湖面が広がっている。作業服で座ったその姿はいまや安堵と辛苦の思い出に満ちたものであるか。

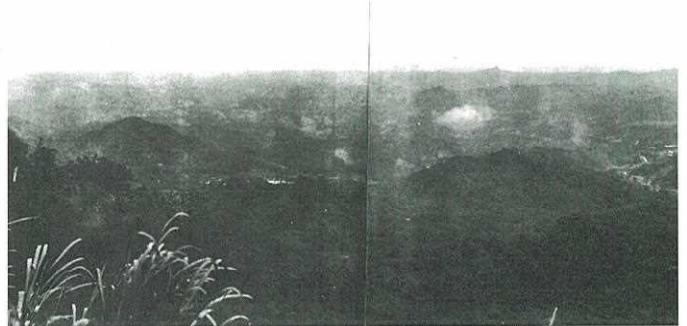
本小文の記述に当たって、八田與一の事績については、専ら古川勝三氏の著作「台湾を愛した日本人―八田與一の生涯―」に拠った。ここに大いなる謝意を表したい。



うさんとう  
写真で見る烏山頭ダムと  
かなんたいしゅう  
嘉南大圳の建設



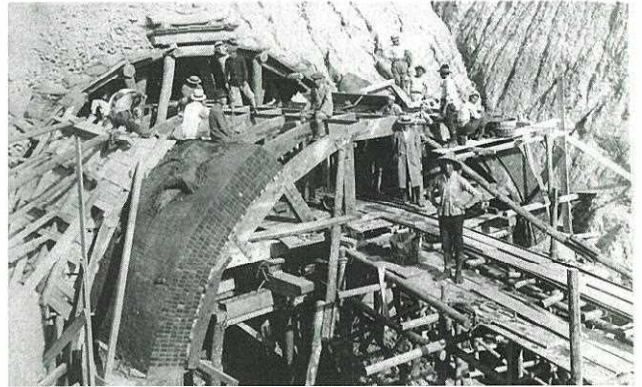
烏山頭排水隧道出口暗渠工事



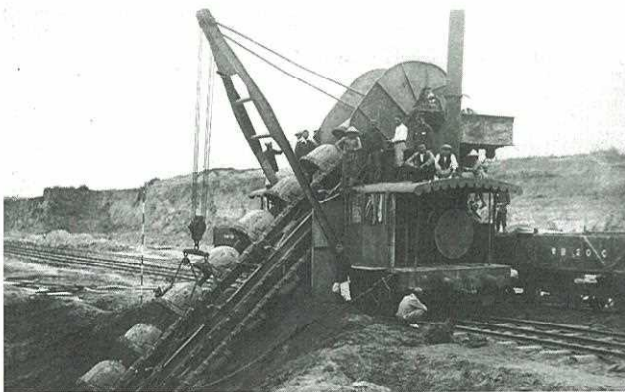
烏山嶺頂上より貯水池地帯俯瞰



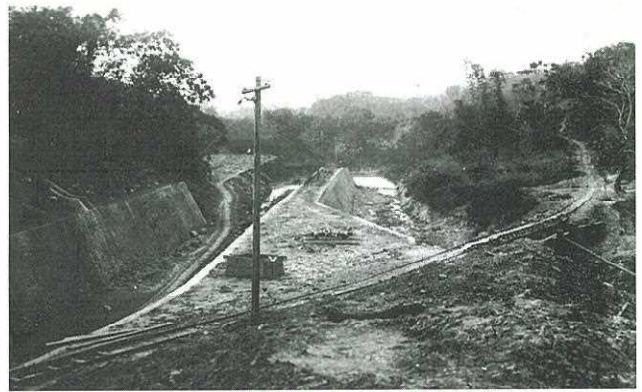
烏山頭排水開渠工事



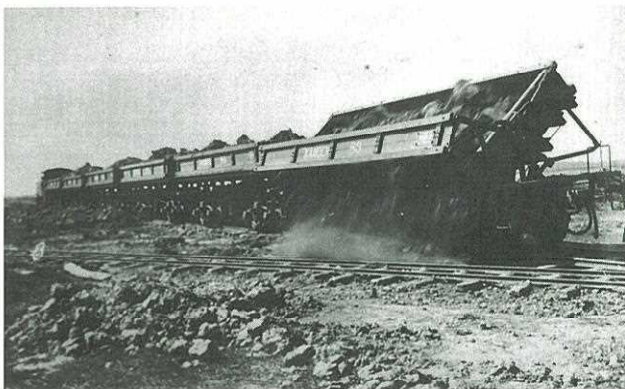
烏山頭排水隧道取入口



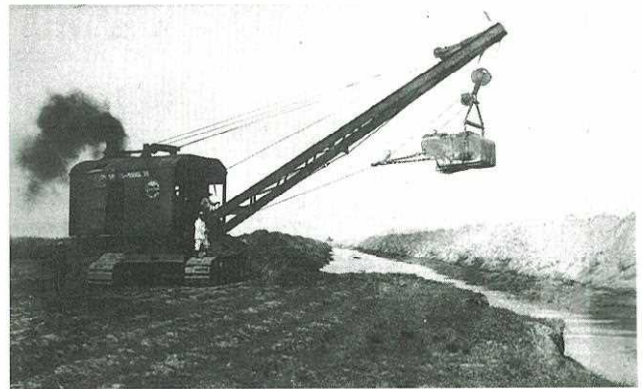
「エキスカベーター」にて烏山頭排水開渠掘削の光景



上流より見た烏山嶺隧道西口開渠及び代替溪流終末

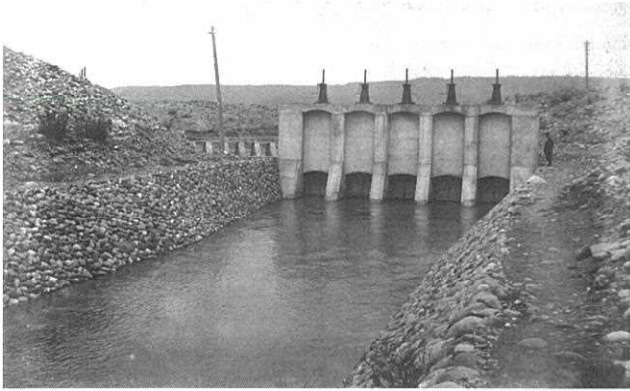


転倒式土運搬車

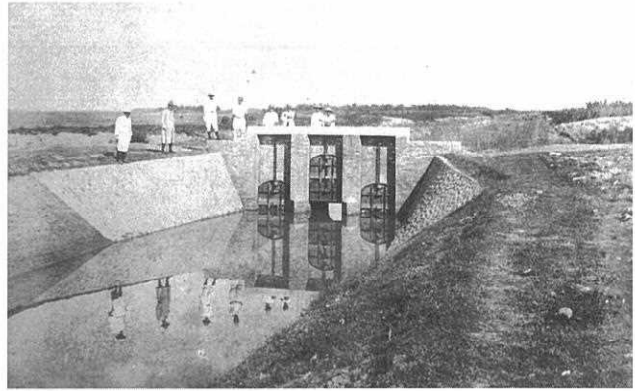


濁幹線水路掘削作業

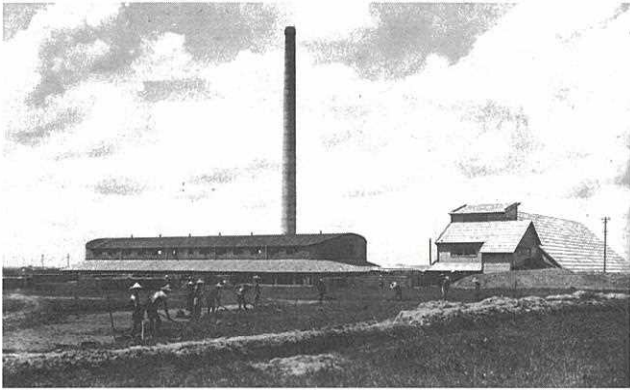




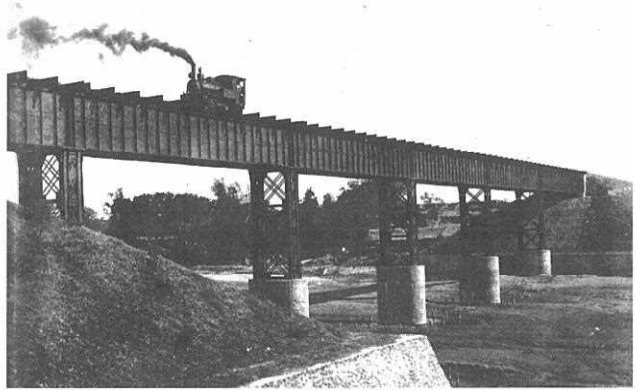
林内発電所沈砂池の門扉



新虎尾溪取入口



烏山頭煉瓦工場



右岸下流より見た官田溪鉄橋兼水路橋



王爺宮警察官吏派出所にて（右が八田與一）



烏山頭宿舍及び構内全景

▼写真提供…嘉南農田水利会  
 なお、水利会は日本の土地改良区に相当し、嘉南農田水利会は烏山頭ダムを管理している。

- 明治19年（一八八六）
- 明治43年（一九一〇）
- 大正元年（一九一〇）
- 大正3年（一九一四）
- 大正6年（一九一七）
- 大正7年（一九一八）
- 大正9年（一九二〇）
- 大正11年（一九二二）
- 大正12年（一九二三）
- 大正13年（一九二四）
- 大正14年（一九二五）
- 昭和元年（一九一六）
- 昭和3年（一九一八）
- 昭和5年（一九二〇）
- 昭和8年（一九二三）
- 昭和13年（一九三八）
- 昭和16年（一九四一）
- 昭和17年（一九四二）
- 昭和19年（一九四四）
- 昭和20年（一九四五）

【八田與一年譜】

石川県河北郡今町村（現・金沢市今町）にて、八田四郎兵衛・サトの五男として生まれる。東京帝大卒業後、台湾総督府土木部技手を拝命、工務課勤務を始める。

台湾島内を調査で廻る。

台湾総督府技師を拝命、土木局土木課衛生工務係勤務。浜野弥四郎のもとで衛生工事に従事。

米村外代樹（16歳）と結婚。

嘉南平原の調査活動を精力的に実施。

嘉南平原の灌漑事業計画を促進。

官田溪埤圳事業着工。

総督府技師を辞任、官田埤圳組合技師拝命。

烏山頭出張所長拝命、烏山頭に転居。

烏山嶺隧道ガス爆発事故発生、死傷者50余名。内地で関東大震災発生。職員半数解雇。

嘉南大圳の工事再開。

セミ・ハイドロリックフィルダムの権威者であるジェル・デー・ジャスチンとの論争。

烏山頭堰堤の本工事開始。

烏山嶺隧道貫通式実施。

烏山頭堰堤竣工。

総督府内務局土木課水利係長拝命、台北市に転居。

嘉南大圳の経済的效果が顕著になる。

勲五等瑞宝章授与される。

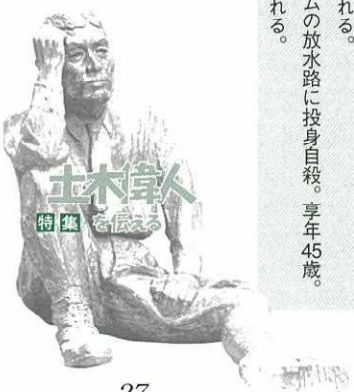
日本・朝鮮・満州・中華民国の主なダムを視察。

陸軍省より「南方開発派遣要員」として内命下る。

三人の部下と一緒に大洋丸に乗船し「リビエ」という途中、アメリカ潜水艦の魚雷攻撃を受け、大洋丸沈没。東シナ海にて死亡。享年56歳。

與一の銅像供出される。

外樹代、烏山頭ダムの放水路に投身自殺。享年45歳。與一の銅像発見される。





# 土木事業を通して人のやさしさに触れる

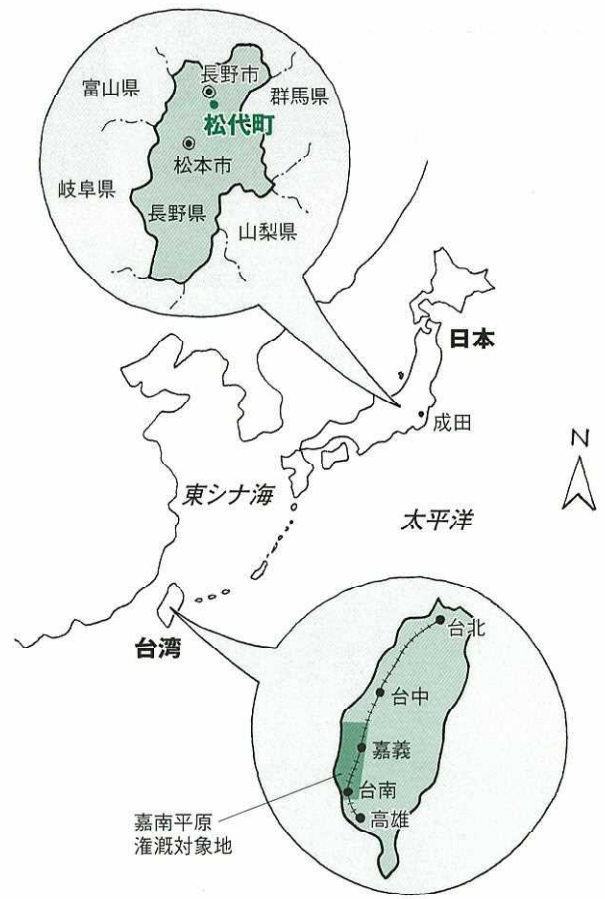
## 八田與一の業績を通して学ぶ 長野市立豊栄小学校の国際交流と国際貢献

長野市の南東部、松代町豊栄地区は、町の中心から車で一〇分ほどの山間にあり、交通の便がとてよよいとは言えない場所に位置する。こんな地理的条件にも関わらず、この地の市立豊栄小学校は国際交流が盛んに行われているのだ。交流の相手国は台湾で、昨年十一月には、五、六年生有志の訪台が初めて実現した。子どもたちは現地の小学校を訪れたり、日本の植民地時代に活躍した日本人土木技師・八田與一ゆかりの地をたどった。

### 国際交流のきっかけ

そもそも豊栄小学校と台湾との関わりは、一九九八年に開催された長野オリンピックがきっかけだった。長野市では冬季オリンピック開催が決まると市内の学校に「一校一國運動」を提唱。この運動の一環で、九六年から豊栄小学校と台湾との交流が始まり、オリンピックの開催時には、台湾の選手やコーチが豊栄小学校を訪れて、子どもたちとの交流会が行われた。

その後も台湾との交流は続いた。市内在住の台湾出身者を講師に招き料理教室を開いたり、豊栄小の教員が台湾を訪れたり、また台湾東南部にある小



豊栄小学校と台湾の位置図

学校の合唱団が豊栄小を訪れ、歌や踊りを披露しあった。そして一昨年の一〇〇七年には、台湾の駐日大使に当たる台北駐日経済文化代表處の許世楷代表夫妻が交流を目的に豊栄小を訪れ、各教室をまわって児童と直接触れ合った。この後、許代表は子どもたちの台湾来訪を、学校側に打診したのだという。その実現には一年の時間を要したのだ。

### 下育郎先生と 宮下健司校長の着任

豊栄小と台湾との交流には、先生たちの存在も欠かせない要因だった。まず



嘉南平原に巡らされた水路と土木施設（嘉南農田水利会提供）  
工事では、1万6000kmの水路と分水門、水路橋、ダム発電所、潮止堤など4000の施設をつくった。



# 台湾交流児童派遣事業の旅

1日目 豊栄小学校→成田空港→台北・桃園空港



中華航空109便  
で台北へ

2日目

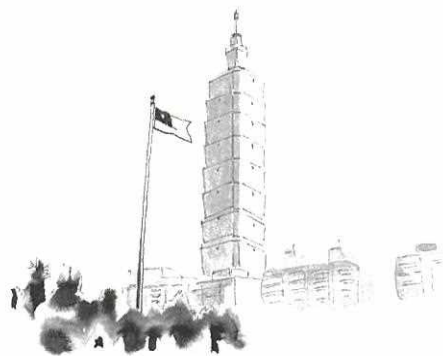
台北市内見学 日本とゆかりのある芝山公園や総督府などを始め、市内の著名な観光地を巡る。



蒋介石の資料館のある台湾民主記念館



市内で一番歴史のある龍山寺



地上101階の超高層ビル「台北101」

第一に、二年間台北の日本人学校の教諭をしていた下育郎先生の豊栄小着任があげられる。台湾での経験は、交流を進める強い力となった。下先生が特に注目したのは、社会学の副読本で取り上げていた八田與一のことだ。

八田は若き土木技師として一九一〇年（明治四三）台湾へ渡り、総督府の土木部に勤務。ここで嘉南平原というやせた土地に用水路を巡らし、台湾随一の穀倉地帯に変貌させたのである。八田は大胆で独創的なアイデアをもち、かつ緻密に物事を進められる優れた技術者であるだけでなく、日本人、台湾人を差別せず遇した人物として、台湾の人びとに敬愛されていた。当時日本の植民地だった台湾で、多くの日本人の銅像が立てられたが、日本の敗戦後、ほとんどが壊され、撤去された。しかし、八田の銅像だけは残され、今でも現地では、命日に墓前祭が行われている。

こうした八田の業績を通して、台北に住む日本人の子どもたちは、水の大切さやダムや灌漑の役割、人としての生き方などを学んでいる。下先生は台湾に来て八田のことを知り、その「豊かな国際感覚や人間性にはまった」のだという。

その下先生が台湾との交流を進めている豊栄小にやって来たのだ。着任した〇七年、さっそく四年生以上の選択授業であるクラブ活動に、「台湾クラブ」を創設。ここで台湾の料理を作ったり、中国茶の試飲をしたり、中国独楽で遊ぶ機会をつくる。そして昨年からは児童会の中に国際交流をテーマにした「なかよし委員会」をつくり、赤十字やユニセフの活動に協力したり、台湾のことを自分たちで調べ、他の児童たちに発表する活動も行っている。

もうひとりのキーパーソンは校長の宮下健司先生だ。豊栄小に着任する前は、長野県立歴史館の総合情報課長を務めており、台湾の少数民族の調査をフィールドワークにしていた。何度も台湾を訪れ、観光客の行かないような村や集落を踏査しているので、台湾に対する造詣や理解は深く、たいへん親しみをもっている。

豊栄小を訪れた台湾の許代表が子どもたちの招聘に意欲的で、国際交流には市の資金的な援助もある。そこで、この二人の先生が中心になって、「交流と日本人の足跡をたどり異文化理解を行う」ことをベースとした、子どもたちの訪台計画が練られたのだ。



## 初めての 台湾交流児童派遣事業

国際交流のための派遣とはいえ、大勢の児童を台湾に連れてゆくわけにもいかず、五、六年生を対象に面接と作文による選考を行った。そして〇八年七月に五年生四人、六年生四人の計八人を派遣することに決まり、事前学習を始めた。ここでは中国語を勉強したり、台湾の国歌を覚えたり、八田與一のこと

も予習。さらに現地で披露する真田節の踊りや歌を練習して、訪台に備えた。出発は十一月末、土日を挟んだ四泊五日の旅程で、ハイライトは台中の交流学校・恵文國民小學訪問と八田が築いたダムや銅像などの見学だった。交流校では大々的な歓迎行事が行われ、図工や音楽の授業を一緒に受けたり、児童同士の座談会なども行われた。また、一晩だけのホームステイもあり、「こんなに歓迎してくれるなんて夢にも思わなかった」、「ことばが通じなくても、たくさん気を遣ってくださり、感謝の気持ちでいっぱい」など、子どもたちは現地の温かい歓迎ぶりに感激し、その様子を感想文に綴った。そして烏山頭水庫という貯水ダムの見学では「た

ただビックリの一言」、「ダムはどこまでも続いているかと思うくらい大きかったです。しかもきれいでした。心がすっきりしました」と、現地の迫力に圧倒される。そして座った姿の八田の銅像の前では、皆同じ格好をして記念写真におさまった。

### 派遣した児童が関わる授業

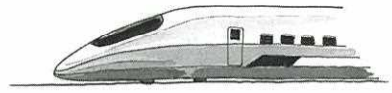
こうした台湾に行った子どもたちの貴重な体験を、個人のものだけにせず、みんなで共有しようとして試されたのが、「国際理解をテーマとした「総合的な学習」の時間だ。下先生が授業を担当し、八田の仕事を通して国際貢献とは何かを考えさせる内容だ。

八田が貯水ダムをどんな方法でつくったか、事業で現地の生活がどう変わったのか、八田のことを台湾の人はどう思っているかなどを、現地を訪れた子どもたちがリアリティをもって説明し、授業を受けた他の子どもたちにもよく伝わっているようだった。また、下先生が技術的なことだけでなく、田畑の利用方法やまちづくりなど、ふつうの人びとの暮らしを基盤にして進めた灌漑事業だったことを説明し、人として大切なことは何なのかを考えさせた。

こうした台湾に行った子どもたちの貴重な体験を、個人のものだけにせず、みんなで共有しようとして試されたのが、「国際理解をテーマとした「総合的な学習」の時間だ。下先生が授業を担当し、八田の仕事を通して国際貢献とは何かを考えさせる内容だ。

### 3日目

台北から台中へ。国立自然博物館を見て、歓迎夕食パーティー。その後、各ホームステイ先に宿泊。



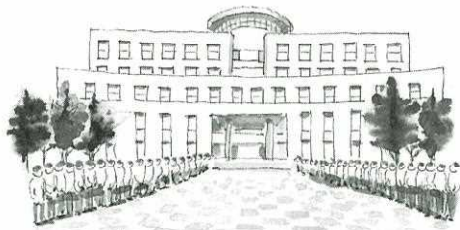
台北から台中までは新幹線で移動



交流校のPTA会長が主催した歓迎夕食会

### 4日目

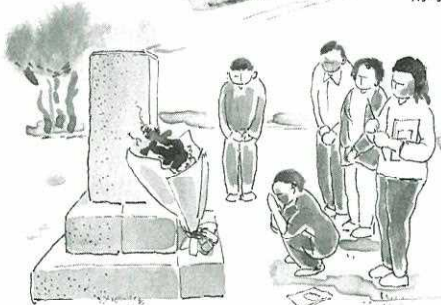
台中の交流校・恵文國民小學を訪問。台中から台南に移動して烏山頭水庫周辺を見学し、台南から台北へもどる。



大学の校舎のような交流校・恵文國民小學



海のような貯水ダム・烏山頭水庫



銅像の後方にある八田夫妻の墓をお参りする



花が絶えない八田與一の銅像



## 授業後の子どもたちの感想（一部）

～感じたこと、考えたこと等を中心に～

四五分の短い授業時間であったが、授業後の子どもたちの感想をみると、八田の人としての優しさに心ひかれたようだった。ある子どもは「八田さんは、今の世界に一番ひつようとされている人だ」と思っています。ほくも八田さん

のようになりたい」と書いた。何もかもが便利で簡単になったような現代でも、大事なことは満たされていないことを気づかせてくれる一文である。

取材・文 西山麻夕美  
イラスト 河合睦子

(きん張したけれど大きな声で発表できた)

みんなで意見を出し合っただけで、もとよく八田さんの事について知る事が出来、良かったです。  
台湾の人のために、どうしてこれほどとせられたらどうか? 一人見捨てたが八田さんの優しさを改めて実感しました。  
どんな人にも差別、区別しない八田さんの心はとても素敵だと思いました。八田さんほどスピーチが出来ないけれど差別、区別しない心を持っておこなう事は本当に素晴らしいと思います。

八田さんの事は、プリントを見たり、台湾へ行く話を聞いたりで知っていたけれど、改めて1時間授業をしたら、八田さんについてまだ分からないことがありました。この授業のおかげで、知らなかった事が知れて良かったです。私も八田さんのようにみんなを区別しないで、つき合っていきたいです。

八田興一さんは、だれもがたのこのない工法でダムを作ったのがすごいと思っただけで、それだけでいい、平等になるように、安心して生活できるように、日本人と台湾人の区別なくということも何をやるにも考えて、もっとすごい人なんだと思っただけで、とても優しい人なんだけおと思いました。八田さんはとてもすごい人だと思いました。

八田興一 かけしな手塚になるようにダムを作ったり家族も安心して生活が出来るようにと住環境を整備な心なために活動をしていて私はとても人が仲良くなつて、いざとなら話を聞いている時に思いました。  
人口を平等にしようとする八田興一、新しい技術を教えるようにする八田興一、こころゆき事をする八田興一を優しい心を持って他人を一番に思っている人だと感じました。

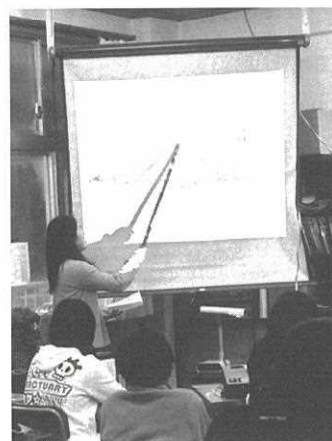
台湾でたつたのこっている像、八田興一さんは台湾の事を考え、ダムを作りました。でもそれだけでなく、八田さんは、自然を考えたセミハイドロリックフィル工法をつかいた。なんと、土でダムを作りあげました。  
はくも八田さんは、今の世界に一番ひつようとされている人だと思っただけで、ほくも八田さんのようになりたいです。

今日1時間八田興一さんの事をやりました。興一さんは台湾の自然の事も考えたり、日本人、台湾人の区別なく接したりしていたのだとびっくりしました。しかも私も平等に属する方に属し、していたので台湾につくした八田興一さんたちが台湾にたつた一つ残された銅像にたつたのがとても好きだと思いました。

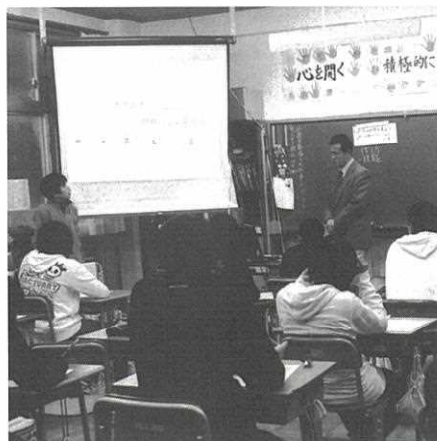


台湾に唯一残された日本人銅像である八田像から話を始める下先生

子どもたちも発表した「総合的な学習」の授業  
六年生を対象に、世界のこと、日本のこと、日本人のことを考える授業。訪台した子どもたちは、パワーポイントの画面を指しながら、ダムの構造、工事の進め方、事業の目的、労働者のためのまちづくりなど、各人がテーマ決めて説明した。



貯水ダムのハイドロリックフィル工法を説明する田中さん



ダムの工事で利用した多種類の大型土木機械を説明する加藤君



中華航空100便で成田へ  
ちなみに桃園から成田よりも、成田から学校までの方が時間を要している

5日目 台北・桃園空港↓成田空港↓豊栄小学校



松本こーせい・イラストライター

# 国々の理屈を泊める馬喰町

(中央区日本橋馬喰町)

諸国から来た民事訴訟人用の宿屋で  
訴訟行為の補佐も担った公事宿

江戸時代には民事訴訟のことを「公事訴訟」といった。地方から公事訴訟のため江戸に向く村民が宿泊する旅人宿を「公事宿」と呼び、関東幕府直轄領の争いを処理する郡代屋敷近くの馬喰町に多く集まった。公事宿は単なる宿泊施設ではなく、訴訟関係書類の代書・代行や法廷付き添いなど現在の弁護士や行政書士的な役割を果たした。

## 郡代屋敷と旅人宿

JR総武線浅草橋駅の前を通る江戸通りを南に進むと、神田川に架かる浅草橋の手前に「浅草見附跡」と刻まれた石碑がある。浅草見附は江戸城の三

六見附（御門）の一つで、浅草橋を渡った神田川の対岸に設けられていた。

江戸時代、浅草見附の西側には郡代屋敷があった。交番隣の植え込みの中に、中央区役所が設置した「郡代屋敷跡」の説明板があり、次のように記さ

れている。

「江戸時代に、主として関東の幕府直轄領の、年貢の徴収・治水・領民紛争の処理などを管理した関東郡代の屋敷があった場所です。関東郡代は天正十八年（一五九〇）徳川家康から代官頭に任命された伊奈忠次ただつぐの二男忠治ただはらが寛永十九年（一六四二）年に関東諸代官の統括などを命じられたことにより事実上始まるとされます。元禄年間（一六八八〜一七〇四）には関東郡代という名称が正式に成立し、代々伊奈氏が世襲しました。その役宅は初め江戸城常盤橋門内にありましたが、明暦の大火（二六五七）による焼失後、この地に移り、馬喰町郡代屋敷と称されました」  
靖国通りと交差した江戸通りの東側から清





杉通りにかけては、日本最大規模の現金問屋街、衣料・生活雑貨の「横山町馬喰町問屋街」で、仕入れの人々が行きかい活況を呈している。

奥州街道(江戸通り)筋にあたる馬喰町一帯は、馬喰町三丁目に徳川家康の江戸入り以前から博労が住んでいたとされる。「江戸名所図会」は馬喰町を「馬喰町三丁目の西北の裏通りにある馬場は、江戸でもっとも古く、慶長五(二六〇〇)年の関ヶ原の合戦のとき御

馬揃えあり、御馬工郎高木源兵衛がこれを預かり奉る。馬喰町の地名はこの由緒に由来する」と紹介。「馬喰町馬場」の絵を掲載している。

江戸時代の地図を見ると、江戸通り沿いの馬喰町一丁目から三丁目にかけて、それぞれ東側に「旅人宿」、西側に「旅人宿約十五軒」「旅人宿約十七軒」「旅人宿約十三軒」と記されている。

馬喰町が旅館街になったのは、元禄以降のことである。全国の街道の起点

郡代屋敷があることから、訴訟で江戸に来る者たちが泊まる旅人宿があったほうが便利というわけで、奥州街道の日本橋から小伝馬町、馬喰町にかけて宿ができていったのだ。

といっても、元禄頃までの馬喰町辺の旅人宿は十軒程度であった。馬喰町から隅田川を隔てた回向院(両国)で、元禄六(一六九三年)に信州の善光寺の開帳が行われた時、各地から参詣に来た人々を小伝馬町・馬喰町の宿では収容しきれず、あぶれた者たちは往來に蓆を敷いて夜を明かした。これをきっかけに、小伝馬町・馬喰町一帯に次々に宿ができ、江戸を代表する旅人宿街

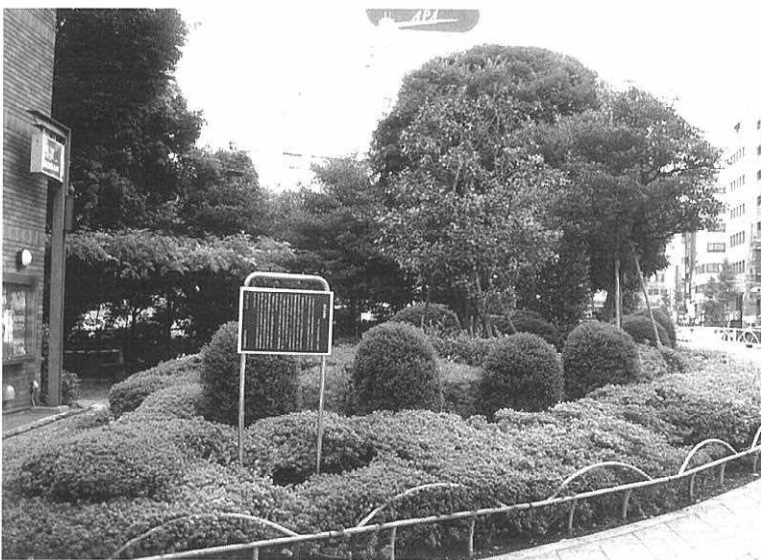
になったのである。

## 公事宿の代名詞「馬喰町」

江戸の旅人宿には公事宿と一般の旅人宿とがあった。現代の民事裁判にほぼ相当する裁判を、江戸時代は「出入筋」といい、刑事事件を「吟味筋」といった。「公事」とは民事裁判の出入筋で裁かれる訴訟のことで、「公事訴訟」といった(「出入物」ともいう)。主として地方から公事訴訟のために江戸に向いてきた者の泊まる宿屋を「江戸宿」といい、その俗称が「公事宿」で、「百姓宿」とも呼ばれた。なお、公事宿のことを地方では「郷宿」と呼んだ。

馬喰町には領民紛争を処理する郡代屋敷があったため、次第に糠屋・薬屋・荳屋が公事宿に転業して密集、川柳などで「馬喰町」といえば、公事宿を意味するようになった。「諸国からふくれた顔は馬喰町」(柳多留拾遺二)、「国々の理屈を泊める馬喰町」(柳多留拾遺九)、「馬喰町諸国の理非の寄る所」というわけだ。

十返舎一九作・喜多川月磨画の「金草鞋」は、「馬喰町」の項で旅人宿とその前の往來の模様を描き、次のような文章を添えている。「花のお江戸の真中に、



浅草橋南詰にある「郡代屋敷跡」の説明板。郡代屋敷の近くに公事宿ができていった



横山町馬喰町問屋街は衣料・生活雑貨の問屋らしく明るく華やいだ雰囲気だ



馬喰町・小伝馬町といふ所は他国の人の  
いり込む所にて、昼夜をわかたず賑わ  
ひ、ことさら、旅籠屋はいづれも大家に  
して、(略)日ましに繁昌し、旅籠屋、  
軒を並べて賑わひける」

町奉行は市中の治安のために旅人宿  
を小伝馬町三丁目、馬喰町一〜三丁目  
の四か町に制限し、その仲間組合を公  
認。「小伝馬町・馬喰町組旅人宿」と馬  
喰町四丁目を中心にした「三〇軒組百  
姓宿」、それに麹町・本郷ほか江戸各所  
に点在する「八二軒組百姓宿」が結成さ  
れ、三組の江戸宿Ⅱ公事宿が成立した。

小伝馬町・馬喰町組旅人宿は、江戸  
の宿場である品川、千住、板橋に客引き  
の宿引人を出して、江戸見物などの一  
般旅行者や公事訴訟人を宿泊客として  
獲得した。三〇軒組百姓宿は郡代伊奈  
氏支配下の百姓を宿泊させる宿で、指  
名して来る者だけを泊め、宿引人を出  
すことは禁じられていた。また八二軒  
組百姓宿は、非合法的な旅宿業務を行  
っていたものを公認したものだ。全面  
禁止になると困窮者が出るという社会  
政策的見地から認めたもので、江戸各  
所に散在する代官・地頭用、訴訟公事用  
に関係して、江戸に出て来た縁故者だ  
けを宿泊させた。

小伝馬町・馬喰町組旅人宿・三〇軒組  
百姓宿・八二軒組百姓宿の三組の旅人  
宿は、奉行所最寄りの出火に際し、消火  
に駆けつける義務を負った。八二軒組  
は評定所並びに公事方勘定奉行所へ、  
三〇軒組は関東代官附本所牢屋敷へ出  
動することになっていた。

### 宿泊と訴訟技術の提供

江戸時代の裁判機関としては、江戸  
に「評定所」、寺社・町・勘定の「三奉行  
所」、「道中奉行」があり、全国各地に「遠  
国奉行」、「郡代」、「代官」などの裁判役  
所があった。幕府は領主に一定の裁判  
権を認め、所在地ではなく人別帳登録  
地で裁く属人主義を原則とした。無宿  
は公儀領仕置の前科がある者を除き、  
どの領主が裁判してもよかった。

事件が他領地とも関係する場合は、  
幕府に移送され、すべての関係者が奉  
行所に出廷しなければならず、負担が  
大きいことから、関係領主がたがいに  
了解すれば、被疑者を人別帳から抹消  
して無宿とした上で、犯罪地の領主が  
裁判できることにしていたという。  
村の代表である惣代たちは、年貢上  
納、支配大名・代官・諸役人の交替や諸  
々の訴願のために、また地元での紛争裁

決を不服とする百姓・  
町人たちも、さらに上  
級の裁判機関の判決を  
求めて、江戸・大坂・京  
の三都や城下町に向向  
いた。このような地方  
からの訴訟人に宿と訴  
願手続業務を提供し、  
さらに裁判機関の業務  
の一端を担って、公的  
機能を果たしたのが公  
事宿である。

裁判役所は提出され  
た訴状が、訴訟要件を  
満たしているかを審査  
する訴状札(目安札)  
を行った。その後、改め  
て正式の訴状である本  
目安を提出させたが、  
公事宿がこの本目安の作成を行った。

裁判は原則として訴訟本人主義で、  
代人(訴訟代理)は本人の親族、奉公人  
などにしか許されないが、公事宿の主  
人は「差添人」として、依頼人に付き添  
って白洲(法廷)に出廷し、訴訟行為の  
補佐をすることが認められていた。吟  
味(審理)中に入牢を命じる強吟味とい  
う事態になると、公事宿は休暇や日延



『江戸名所図会』の馬喰町。町名の由来になった馬場が中央に描かれている

願いあるいは病氣願いを提出した。入  
牢した場合は牢内の依頼人との連絡に  
あたり、依頼人が牢から白洲に呼び出  
されると、訴訟関係者の待合所である  
「腰掛」で接触したりした。  
また公事宿は、当事者間の調整のた  
めに法定外でも活動した。相手方との  
掛合(談合・談判)にも立ち会い、法廷  
での状況を踏まえ内済(和解)への歩歩



を図った。幕府は内済を私的紛争解決の原則としていたため、公事宿もその意向に沿って活動したのだ。

公事宿は依頼人への訴訟技術の教示のほかに、訴訟当事者の村や百姓が作成する諸届・願書・証文・訴状・返答書など各種書類の代書と提出も行った。このように公事宿は、弁護士や行政書士に類似した役割を果たしていた。



公事宿の代名詞である「馬喰町」の旅人宿街は江戸通り(奥州街道)沿いにあった

しかし、公事宿は刑事訴訟の「吟味筋」では弁護士の活動は禁止され、予想した刑罰を依頼者に知らせても処罰された。吟味筋の未決拘留では、軽微な犯罪はなるべく入牢させず、公事宿に預けて監禁する「宿預」の方法もとられた。馬喰町の公事宿の繁昌は、近隣の商店にも利益をもたらした。馬喰町の紙屋五郎兵衛の店では訴訟書類の用紙がよく売れて、江戸の代表的な大店である越後屋のようになり、繁盛し、「五郎兵衛証文紙の売れる所」(柳多留七)と詠まれている。

### 公事宿の公的側面

入りの多さが察せられるとしている。また公事宿は、御用状や触書、差紙(召喚状)といった公式文書を町や村へ通達する業務も行っていた。こうした行政機構の下請け執行の機能から、公事宿は「御用宿」とも呼ばれた。

ちなみに、「中央区史上巻」によると、吉良邸討ち入りを遂げた赤穂浪士は、「近江(滋賀県)の豪家が公儀への訴願のために江戸に出向いた」と称して、各自偽名を使って本石町三丁目(中央区)南側の公事宿の裏座敷に宿泊しながら計画を練ったという。大石主税ら十一名が長逗留しても怪しまれなかったことから、公事宿の構えの大きさと、人の出

公事宿の業務が煩雑化すると、主人だけでは遂行できなくなり、公事宿は書記役として下代(手代)や見習いを雇った。相手方の吟味日や種々の願書・届書提出などは下代・見習にまかせた。下代は公事宿の代理として出廷するようになり、独立して事件に専従した。こうして、非合法の訴訟代理業者である「公事師」が活動する余地が生まれるが、幕府は繰り返し触を出して公事師を抑制・禁止している。公事宿は裁判役所と訴訟人の周旋的役割を果たし、訴訟手続きが訴訟知識を有する公事宿の協力なしには運営できないほど専門化していったため、裁判役所にとっても欠かせぬ存在となった。公事宿は次第に幕府の裁判機構に組み込まれ、裁判役所の廷吏・執行吏として、中央と地方を結ぶ接点を担う公的側面を強めていったのである。

これに伴い、公事宿は宿料から訴訟技術提供業務へと経営基盤を移行させていく。幕府の權威再建をめざした「寛政の改革」は、厳しい統制や儉約を強制。飯米代・宿料・飛脚賃などの協定や、統制が強化されると、江戸の公事宿は粗末な施設となり、宿泊よりも訴訟技術を看板とするようになっていった。

訴訟が開始されると、訴訟人は長期滞在を余儀なくされた。「麦飯の味も忘れた長い公事」(柳多留四)となるため、江戸見物、物見遊山で暇をつぶした。今日は五百羅漢寺(江東区)を見物し、明日は泉岳寺(港区)の赤穂四十七士の墓にでも参ろうかと、「馬喰町五百の明日が四十七」(柳多留八)となる。そして、例えば新田開発の所有権争いに首尾よく勝訴すると、「新田を手に入れて立つ馬喰町」(柳多留初)となるのである。

明治二(一八六九)年、明治新政府は東京宿(江戸宿)に公事宿の法廷活動を禁止している。

「まつもと・こーせい」イラストライター。  
「歩いて愉しむ大江戸発見散歩」「などのスポット東京不思議発見」「散歩考古学 東京の中の宮崎」などの著書や新聞・雑誌などの連載で散歩考古学を提唱。  
<http://www.ea.einet.ne.jp/~edotokyo/>





## 葛西紀巳子

「かさい・きみこ」アメニティ&カラープランナー。  
（有）色彩環境計画室代表。人間の生理や心理に基づいた色彩を研究し、住宅や景観、公共空間など人間環境に調和した色彩計画の実践を行っている。内外のまちの色彩調査やシンポジウム等で活躍中。

# まちの色、風土の彩り

「ああ、日本にはまだまだ地域固有の美しい色がある」さまざまなかまを訪れるたびに、いつもそう思った思いに駆られる。

青森県黒石市にある「こみせ」もそうだった。初めてそこを訪れたとき、私はその前の年に訪れたイタリア・ポローニャのポルティコ（回廊）と、そのイメージをダブらせていた。

もちろん実際には、まちを巡らす壮観なイタリアのポルティコとは、比べものにはならない。しかし、途切れ途切れになってしまっていた日本の木製ポルティコを見て、何かが私を突き動かした。

「これ、壊さないでください」

当時の私は、それを「こみせ」と呼ぶということさえ知らなかった。しかし幾十年か前までは、「こみせ」のあるまちなみが、この地の魅力をつくり出していたことは、すぐに察知した。

平成七年、そうして呼びかけた「こみせ」も、その十年後には、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、地域らしさを維持していくための道しるべを国から得ることになった。だからその後、私が黒石市の観光大使に任命されたときも、そんな風に、ともすれば忘れられてしまいがちなさまざまな地域の財産を、「まちの色、風土の彩り」という視点から、できるだけ多く拾い集めていきたいと思ったのだ。いくつか紹介したい。

## 藍色の漆喰壁

その印象的なまちの一つが、広島県竹原地区である。そこは山並みを背に、前方には瀬戸内海から入江を引く絶好の地形。江戸時代、塩田を開発して富を得た商家が続いたまちだという。当時の繁栄ぶりは家々を飾る間隔の狭い細い格子窓や、虫籠窓が物語っている。そうした品格あるデザインと、漆喰の壁が特徴的な家なみだった。

ふらりと立ち寄ったそのまちの、漆喰の壁の色にしばし、私は見入った。

それはまるで、藍で染めあげたかのような、うっすら青みを感じる色。その外壁が、品よく静かに連なっている。なぜそれが青いのか、青くなったか、そう見えるのか、地元の人に訊ねると、「灰漆喰」というのだと答えが返ってきた。けれど、それが灰色なのか、灰を混ぜてつくったのか、そしてどうして青いのか、調べはまだついていないけれど、それでも、青い漆喰が、強烈に私の目を惹きつけたのは事実である。だから私は、勝手に「藍漆喰」のまちなみとして、記憶にとどめることにした。

## 黄色い土塀

金沢の長町武家屋敷跡は、あまりにも有名なので、そこを訪れた人も多くいるだろう。屋敷を囲う黄色い土塀が、カギ型の路地に沿って人々を誘導していくエリアである。それは、敵が一気に攻め入ることを防ぐために工夫された形であるが、このように突き当たっては進む迷路のような路地が、次へ次へとゆく足をときめかせる。

狭い路地でも閉鎖感がないのは、コンクリートブロックではなく、黄色い土の色と、目線ほどの塀の高さが上空を開けているからに違い



ない。その土色のぬくもりに、つい触れてみたくなる。そんな衝動にかられる路地であった。

## 紅殻格子

金沢には別の色もある。ひがし茶屋街である。資料によると、ここは「文政三年（一八二〇）に加賀藩が、このあたりに点在していたお

茶屋を集めて整備した」とある。用途を絞り込んだことで、まちの特徴が際立ったのだ。色でいうなら赤のまち。茶屋の格子の色である。

夕暮れ時、帰路へ急ぐ観光客の流れに逆らい、興味深く進むと、正面の山なみが少しずつ暗くなる中、紅殻格子の隙間からほんのり灯りがこぼれてきた。その当時このまちは、この時刻から色艶を増していったに違いない。柳の木を見ながら想像した。

竹原 「藍漆喰」とでも呼びたいほど、青みを感じる漆喰壁



## 「まちの色、風土の彩り」

こんな風に時代をくぐりぬけてきたまちの色は、たとえ朽ち果てたとしても、必ずその土地の歴史物語を放っていく。

平成二〇年十月一日、国は観光庁を設立した。各地の眠れる日本の財産は、その後押しを受けながら、もともともっと目覚めていくといい。そして、私も「まちの色、風土の彩り」を発掘し、さまざままちのサポーターになりたいと強く思った。



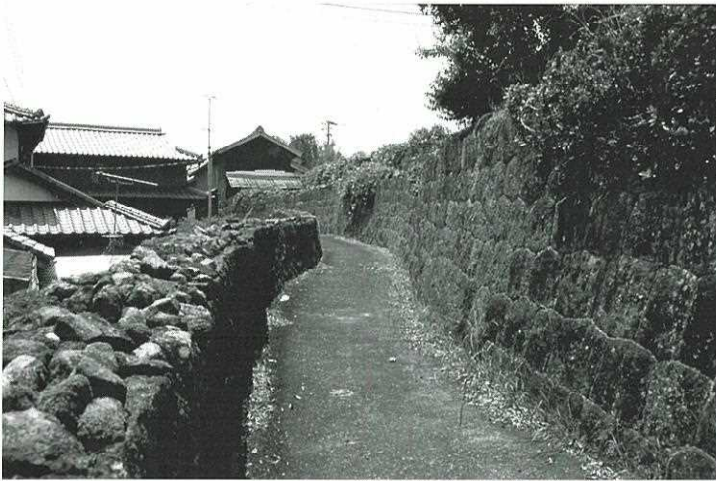
武家屋敷 温もりを感じさせる黄色い土塀



ひがし茶屋 「紅殻格子」のある茶屋街、柳が色っぽい







左・葉タバコ栽培を行う集落の基盤は石で形成

左下・石垣は目線よりも低い位置にあるのが特徴

下・武家屋敷の水路と石垣。湧水の町・島原の歴史を伝える



普賢岳の噴火被害にもなつて、葉タバコ畑が激減したため、所々にビニールハウスや他の作物も目に入る。とはいえ、初夏の段々畑に青々とした葉タバコが生えそろう、吹き付ける海風になびく姿は見事である。

石垣には三種類ある。古い石垣、災害復興事業による農道の基盤整備で積み直した石垣、既存のものを再利用し農道に面した部分だけを新しくした石垣である。古い石垣は、明治期のものと推定される。甘藷を栽培していた頃に築かれた

もので、それをそのまま葉タバコ栽培にも転用したものである。

石垣の新旧を見分ける目安は、

次の通りである。

新しいものは、

重機で積み上げ

るので、大きな

石で統一され、

表面は整えられ、

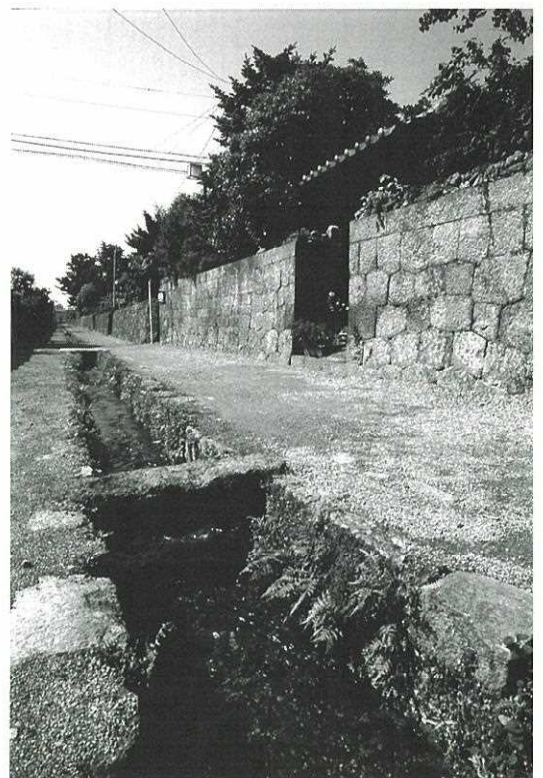
目地はセメントで埋められている。古いものは、下から上へと石が小さくなり、表面も特に整えられず、目地も埋められてはいない。

### 各所に残る石垣

葉タバコ畑の石垣の石は、地元で島原石と呼ばれる花崗岩である。この地域では、島原石を用いた石垣が、葉タバコ畑以外にも、様々な箇所で見ることができ

る。まず、農家が並ぶ集落である。集落の各家には、細い農道に面して、敷地を囲うように石垣が配されている。特に大下町には、見事な石垣が残されている。

農村集落の石垣は、農民の手で築かれ



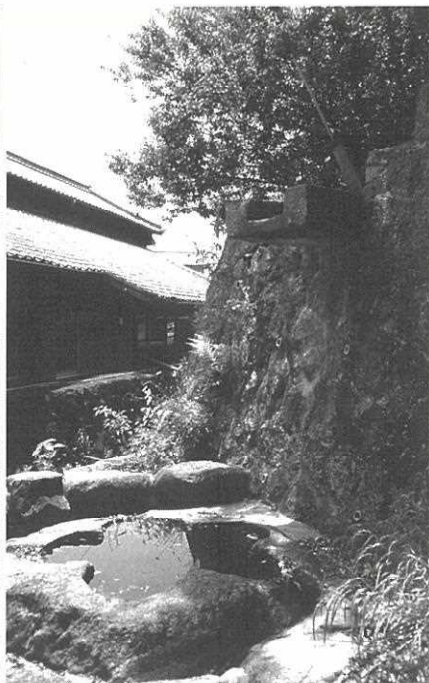
るので、高さが低く一定ではない。農家らしく、道路に面して出入口が広く取られている。石垣は、母屋の建設年代からみて、明治から大正にかけて母屋と同時につくったものと推定される。道を眺めると目線よりも低い位置で石垣の上端のラインが揃い、独特な景観を形成している。

石垣は、島原市の観光地である武家屋敷にも見られる。武家屋敷の石垣は、城の石垣のように断面が曲面となっているのが特徴である。高さは目線より高い位置で揃えられ、各家の入口には間口の狭い門がつくられている。

### 用水と島原石

島原市は、日本でも有数の湧水地で、





左・天満神社の脇を抜けて町に向かう水路

右・水路は滝のように道路に落ち、町の水路とつながる

市中心部の至るところに水路がある。この水路にも島原石が使われている。

水路は、武家屋敷のものが良く知られている。道路の中心にあり、両側面を石積みとしている。

その他に、天満神社に見られる水路も見事である。この水路は、神社の脇を通り、道路へと流れている。この水路は、案内板によると、江戸後期（寛政頃）に

生活用水として岩上山の溪間の湧水を四・五km引いたもので、開通当時は木をくり抜いた樋を用いていたが、安政五（一八五八）年に現在の切り石のものにしたという。この水路は、生活用水としてだけでなく、葉タバコ畑の農業用水にも使われていたが、先の普賢岳の噴火によって、水がほとんど途絶えてしまっている。

## おわりに

島原市には、かつて一〇〇戸を超える葉タバコ栽培農家があり、先の普賢岳の噴火前にも九〇戸余りが生産していたという。けれども、二〇〇八年現在、栽培農家は九戸と、一〇分の一にまで減少している。これらの農家は、かつて葉タバコ畑から自宅までの農道を自らの手で開削していたようだ。これらの道の多くは、普賢岳噴火の影響で寸断されたが、栽培農家の集落には、現在でも往時の姿が確認できる。

島原市では、平成四年に十四名の農家で葉タバコの耕作を再開した。すべてを失い、一からのリスタートであったが、現在では少しずつ軌道に乗り始めている。そんなときに貢献したのが、活きつづけた農業土木遺産である。

近年の禁煙箇所が広がる風潮は、せっかくの葉タバコ生産再開の動きに、暗い雲を投げかけているに違いない。このような風潮が続くと、この地域でも、かつて甘藷や養蚕から葉タバコに替えたように、作物を転換していく必要が生じるかもしれない。そうした時に、石垣で築かれた美しい畑の景観が維持できるだろうか。

その時に必要なことは、石垣の改造に規制をかけたたり、石垣の整備に助成したりすることではないだろう。むしろ、既存の施設をそのまま使って生産を持続できる工夫に応援をすることではないだろうか。以前にも記したが、農業土木遺産がつくる景観を維持するためには、これまでの歴史遺産の保護の仕組みとは異なる方法が必要なのである。

ところで、やむをえないこととはいえ、災害復旧で新しく整備された石垣は、かつての美しい景観の魅力を少々減じてしまっている。被災前の美しい景観の魅力を取り戻すことができる災害復旧のあり方も、今後は国をあげて取り組んでいかなければならない課題だろう。

## 【参考文献】

- 加藤直樹著、財団法人日本葉たばこ技術開発協会・水無しの川 雲仙・普賢岳噴火災害のある一年、日本たばこ産業株式会社原料統括部・全国たばこ耕作組合中央会、平成十六年三月
- 帝国専売制度総覧、専売局調査課、明治四五年七月
- 徳重喜一郎・鹿児島島の煙草（地理教材研究会編・地理教材研究 第四輯、目黒書店、大正十三年五月五日 所収）

谷口熊之助・伊豆直吉・我が煙草産地に就いて、日本作物學會紀事 第二巻第四号、日本作物学会、昭和五年十二月





# 地域の人の心のこもった水辺づくり

おほない

## 秋田県田沢湖生保内川での取り組み

丸井 英一 NPO法人新河相学堂 理事

### 水辺と人

都会では戦後の急速な復興、特に昭和三〇年代からの高度成長に伴う都市化で失われてきた水辺を取り戻し、水辺に人を近づける取り組みが国、地元行政、NPOや市民活動家が協働しながら大きな成果を挙げつつある。地方でも林業の衰退により荒れた森や里山を再生し、この森や里山、せせらぎを歩いて心身を癒す森林セラピーとして活用している事例もある。人工的な環境の中にいることが多い現代人が、自然豊かな水辺や森・里山の自然の中にあつて、リラックスし、心を和ませることができらるからである。人も他の動物同様、自然物だから当然の自然回帰とも言える。

秋田県仙北市田沢湖(旧田沢湖町)に雄物川水系玉川の支川の生保内川という溪流がある。人口一万二千人ほどの

旧田沢湖町のほぼ中心を流れる、まさに町民にとって「ふるさとの川」である。

この川のこと、本誌前号(第二二二号)で昭和三五年八月三日の最大時間降雨量一四〇mm、三時間の総降雨量四二〇mm、今で言うゲリラ豪雨による水害「田沢湖水害」で十五名の犠牲者を出した被災地の人たちの「消えない水害の記憶」について書いた。

この生保内川は、生活排水が入ってこない清流である。そして、川の周囲は自然のままの里山が残っている。人が住まない山間溪流にある自然のままの川が町の中を流れていると言ってもいい。本号では水害のことではなく、この溪流を「癒しの溪流」として市民福祉に活用しようと取り組んでいる地元NPOと住民たちのこれまでの取り組みとその熱意について書く。

私は業務として、平成十五年から地

元の人とお付き合いしてきたが、当NPO新河相学堂も一昨年の秋、このNPOと協同して「土木と福祉」をテーマに田沢湖で市民フォーラムを開催し、高橋裕先生が「河川を愛するということ」と題した基調講演を行った縁がある。

### 癒しの溪流づくり

この取り組みは、高齢者や小さな子どもたちも障害のある人も安全で安心して自然豊かな溪流に親しみ、心身を癒せる水辺づくりのパイロット的な取り組みとして、平成十三年から国土交通省湯沢河川国道事務所によって始められた。発案は、故人となられた秋田大学名誉教授の清水浩志郎先生である。

溪流は、そもそもそのまま人を癒してくれる要素(癒し効果)を持つものだから「癒しの溪流づくり」というのは正しくない。むしろ、「溪流を活用した



清流 生保内川

癒しづくり」と言うべきかもしれない。対象となる溪流はこの時点で決まっていなかったが、主に川の中・下流で行われている「福祉の川づくり」の溪流版としてスタートした。

水源地に近く、概して急流となる溪流での福祉の視点での水辺づくりの例はなかった。考えてみると、日常的に利用できるほど市民に近く、地形が緩やかで車イスでも近づける自然豊かな溪流などそうはない。

しかし、生保内川は、この条件を満たしていた。町の中心である秋田新幹線の田沢湖駅から歩いて二〇分程度、車なら五分ほどで川に行ける。地形は、緩やかで秋田県の障害者用スロープの基



準勾配(1/20)よりも緩い区間が4kmほどある。しかも、湯沢河川国道事務所が大暗渠砂防えん堤の工事中であり、その付帯的な環境整備としての事業価値もある。

平成十五年からの二年間、国土交通省が主催する「生保内川癒しの溪流づくり」検討会・勉強会やワークショップに様々な地元の人たちが委員として参加することになった。漁協の田口さんや高橋さん、河川愛護会の高田さん、自然愛好会の青柳さん、石橋さん、地元幼稚園の先生で郷土料理伝承に努める平岡さん、都会から来る修学旅行生に農業体験指導をしている田口さん、そして介護老人保健施設の理事長として高



ワークショップ風景

齢者の世話をしている菅原さんと地元土木建設業で地域イベントなどを行っている門脇さんたちである。

その多くは、それまで、国交省が推進する事業の検討会委員などの経験はない。自分たちが慣れ親しんでいる身近な溪流を「癒しの溪流」として市民福祉に役立てることに賛同しても、住民の一人としてどうすればいいのか分からなかったに違いない。それゆえに事務局が提示する癒しの溪流の趣旨や構想、整備イメージなどにそれぞれの立場で賛意を前提とした、遠慮がちな差し障りのない意見を述べるだけで、反対意見や修正意見などはほとんどなかった。

### 勝手に川をいじくるな

ただ一人、検討会で「私たちのふるさとの自然な川を勝手にいじくらないように！」と強い語気で釘を刺した人がある。第三回目の検討会から委員として参加した菅原陽三さんである。これまでの検討会では、賛意を示す意見が多く、会も和やかに進んで概ね、事務局の趣旨に添った構想でまとまりつつあった。しかし、この日の検討会はこの一言で、水を打ったように静まりかえった。菅原さんの言うように、生保内川に

限らず溪流は自然のままの野趣に富んだ姿でこそ美しく、その魅力がある。河川公園によくある多目的広場や舗装したアクセス道や広い駐車場などを造っては台無しになる。国交省の整備構想もそのことに留意して、ハード整備は最小限にして、できるだけ自然のままに活用する計画になっていた。

河畔にある杉林を縫うように、高齢者も小さな子どもも歩きやすく、車いすでも自走できる間伐材でウッドチップ舗装した散策路(勾配1/20以下)だけが主な整備メニューである。それ以外は、大暗渠砂防えん堤工事の資材置き場として既に造成されていた小さな平地を跡地利用して駐車場にすること、それと環境に配慮した小さなバイオトイレ(残念ながらこれは現在未整備)を設置するだけである。

それでもなお釘を刺すのは、地元の川の自然に対する愛着ゆえで、国交省という、地元の人にとってはいわば「よそ者」が勝手にいじくって、川の風景を台無しにして欲しくないという思いである。それは当然であるし、本来河川整備は、そういう地元の人たちの思いを前提に進めるべきである。湯沢河川国道事務所癒しの溪流づくりの基本ス

タンスも地元の人たちの意見重視で、むしろ、この反論は歓迎すべきことであつた。なぜならば、提示した構想への賛同のみでは、議論は深まらないし、どこか他人事で、地元住民の主導的な水辺づくりへ発展させることができない不安があつたからである。

### 自然な官民連携

この「川を勝手にいじくるな」の意見以来、「水害で多くの人が亡くなった川だから、それにも思いをいたして整備を」とか「水辺の除草に行政も協力してくれれば、人が水辺に近づきやすくなる」とか行政への要望が開始めるとともに、それに伴う、自発的な参加意識も芽生えた。

散策路のウッドチップの原材とする河畔の杉の間伐の選定には、検討会委員で製材業をしている高田さんが立ち会って協力した。これを始めとして、大暗渠砂防えん堤工事で木々が切られて殺風景になったところに、地元の人に呼びかけて百日紅(さるすべり)や桜の植樹を行ったり、そこに手作りのベンチを設置したりと検討会委員の人たちの自発的な活動が、予想以上の早さで次々と行われた。以来、官民連携が自然な



形で出来上がって、徐々に「癒しの溪流」の形ができていく。むしろ、国交省の役割である散策路工事が予算などの関係があり一年遅れたことを、地元委員達がやきもきしていたほどである。

この「癒しの溪流」を住民主導で取り組むために、平成十八年三月に設立した「NPO法人癒しの溪流・里・まちネット」の理事長になったのが、川を勝手にいじくるな」と釘を刺した菅原陽三さんである。高齢化が進む田沢湖で介護老人保健施設を運営する身でNPOの理事長として市民福祉のためにも活動するのは、『言うは易し、行方は難し』である。反対意見も言うが、他の委員から推されると断り切れない、昭和



足裏が気持ちよいウッドチップ散策路

十七年生まれ、気骨のある戦中派である。

### 心のこもった水辺イベント

都会には自然な川が少ないから子どもが川で遊ぶ機会が少ないのは当然である。しかし、田沢湖のように身近に生保内川という自然な川があっても川で子どもが遊ぶことはほとんど無い。

地元の小学校や中学校が夏休みに入ると、きまつて生保内川のほとりに「川で遊ばないように」と学校名の入った立て看板が立つ。

子どもたちが夏休み中に泳ぐのは学校のプールである。生保内川で今もたくさん生息している清流だけに棲む小魚のカジカを捕ったり、泳いだりして遊んだのは、四〇歳半ば以上の世代だと地元の人言う。自然がいっぱいの郷土に生まれながら、その自然に接する機会の少ない幼稚園の子どもを連れて川で遊ばせ、河原で思い思いの石に絵を描かせたいと幼稚園の先生をしている平岡さんが言った。

平成十七年の夏、幼稚園の子どもを生保内川の水辺で遊ばせようと先の検討会の地元メンバーが中心になって、菅原さんを委員長とした「生保内川癒し

の溪流づくり実行委員会」が結成された。漁協の高橋さんがイワナのつかみ取り、河川愛護会の高田さんが河原での焼き芋、自然愛好会の青柳さん、石橋さんが子どもたちに地元の魚を採集して見せる水辺イベントを計画した。すると、「じゃ、おにぎりや豚汁を介護老人保健施設のメンバーで用意しよう」「焼き芋は沼田の人たちが手伝う」「郷土の民話の伝承をしている玉井さんをお願いして子どもに聞かせようか」とか次々に話が進む。「老人クラブに連絡してじっちゃん、ばっちゃんも招待して、わらし(子ども)と一緒に楽しんでもらおう」「民謡クラブの人に声をかけて河原で民謡をやつて、子どもやじっちゃん、ばっちゃんに聞いてもらおう」と発展する。

清流ゆえに夏に大量発生するアブがいなくなる九月上旬の日曜日、朝早くから三〇人ほどのボランティアがそれぞれに動きまわる。イワナのつかみ取りが出来るように河原の石で囲った水辺のいけすづくり、さつま芋を川で洗って焼き芋の下づくり、芋やつかんだイワナを塩焼きするために火をおこす者、民話・民謡のための音響設備の設置、仮設トイレの設置などみんな手づくり



イワナにはしゃぐ園児

である。

初めての手づくり水辺イベントは、地元の人たちの慣れない手つきながら、心のこもったイベントとなった。嬉々としてイワナを追う、地元のわらしの元気でにぎやかな姿に、じっちゃん、ばっちゃんは笑みを浮かべていた。自らが子どもの時に魚を追いかけた原体験や河原で芋を焼いた思い出が重なったに違いない。

ともに民話を聞き、民謡に手拍子し、イワナと焼き芋を食べる。今では、日頃町中で見ることもしなくなった地元の子どもと一緒に過ごし、「こんなに、わらしがいたんだ」と嬉しそうに言う高齢者もいた。高齢者にとって子どもの



元気な姿も心の癒しになるのだろう。

小さな子どもたちは、大暗渠砂防えん堤の天端から生保内川の上・下流を眺めながら対岸まで渡った時、眼下に初めて見るふるさとの川の流れに歓喜の声を上げる。恐らく、自らが宙に浮き、空中から川を眺めている気分になって喜んだのだろう。実は、このえん堤の天端には落下防止柵が設置されていて、小さな子どもでも車イスでも安全に往來できるように工夫されている。

日本中に砂防えん堤の天端に落下防止柵があつて子どもも車イス障害者も往來できるのは、恐らくここだけだろう。湯沢河川国道事務所がワークショップで地元の人や子どもたちの意見を



河原に来づらい車イス利用者も楽しんだ

取り入れて、柵をつけた。お役所が前例のないことをやるには、それなりに担当も説明に苦勞したと思うが、当時の所長さんが、住民の意見を取り入れ、これを実現することに理解があつた。この所長さんは、『仏つくつて魂いれず』にならないようにと常におっしゃっていた。

事業をやるなら国交省も心(魂)を込めてやつて、地元の人たちに喜ばれるものにしよう。そして癒しの溪流づくりがハード整備だけでなく、地元の人たちが中心となつた組織で地域社会に、市民福祉に継続的に貢献する心(魂)のこもつた取り組みになつて欲しいとの思いであつたに違いない。



えん堤の上を喜んで歩く園児達

その思いどおり、NPOを中心に、地域の婦人会、歩こう会、漁協、生保内川の愛護会や自然愛好会など多くの団体、市民が協力して、春の水辺のウォーキング、夏の世代間交流を毎年開催してきた。そして、昨年の夏には、四八年前に十五人の犠牲者があつた水害の「慰霊祭」、秋には市民のための水辺イベントと水害の歴史をテーマに「市民の集い」を行うなど活動に広がりを見せている。

## 次の世代へ

この市民の集いに地元の子ども十一人が参加し、その中の一人がNPOに感想文を書いて送つた。その一部の抜粋を原文のまま紹介する。

『…その水害で家族を亡くしたら私はどうするでしょうか。きっと悲しくて、怖くて、心細くなつてしまふと思います。その人は、声をつまらせながらその当時の事を振りかえりながら熱く語ってくれました。私はその、一言一言が胸に響きました。…私は、お父さんにつれられて、いわなのつかみどりに毎年行つていきます。そこに、声をつまらせながら話してくれたおじさんが生保内川のイベントで手伝つてくれていたのを見

かけたことがあります。もし、自分だったら自分の家族を奪つた川には憎くて二度と近づかないと思います。でも、そのおじさんは毎回手伝いに出てくださつていて私は、すごいなあーと思いました。いつも笑顔なおじさんにそんな過去があつたなんて知らなかったので驚きました。私は毎年、いわなのつかみどりなど、楽しい川しか知りませんでした。…』

癒しの溪流づくりという「小さな土木事業」が、地域の人たちの市民福祉への参加を喚起し、川でのその実践が次の世代の子どもの心に何かを伝えつつある。川の変化が河相であるように、その川と人との関わりの変化も河相である。次の世代がふるさとの川として、深くこの川の原風景を心に刻み、優しく、豊かな心を育むことを願う。

「まるい・えいいち」

一九五二年大阪府生まれ。神戸大学土木工学科卒業。技術士(建設部門)および総合監理部門。NPO法人新河相学堂理事。建設コンサルタントに従事する傍ら、市民やNPOと協働した川を活かした地域づくり、伝統的河川工法を用いた台湾での河川整備の技術支援や講演活動を行っている。主な著書に「EPS工法」(共著)理工図書、「土木と社会」(共著)山海堂がある。



# 縮小時代における 都市構造のあり方

## ～ 3つの論点～



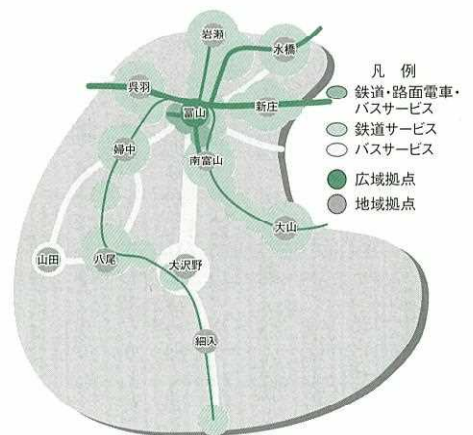
佐々木 正

(財) 国土技術研究センター  
情報・企画部 上席主任研究員

### 集約型都市構造へ

我が国の社会経済の様々な動向が質的・量的に著しく変化しているなか、コンパクトシティや集約型都市構造、定住自立圏構想というように、今後の都市・地域づくりの概念が幅広く議論され、各府県が施策を打ち出していることは、いまさら言うまでもない。これらに共通して言えることは、中心都市の都市集積を頂点として、集約

化された周辺拠点をいくつか分散させ、公共交通等のネットワークが周辺の農山漁村地域における日常生活を支えるセーフティネットとして機能するような地域構造をイメージさせる。例えば、富山市が目指す「お団子と串」の都市構造が参考となる実例だ。また、総務省が進めている「定住自立圏構想」だが、さる平成二〇年十月、先行して取り組む十八圏域が公募の結果、公表された。これらの圏域の計画



「お団子と串」の都市構造  
(出典：富山市ホームページ)



歴史的資源の活用（長野県飯田市）（筆者撮影）

内容を見ると、中心市の病院を核とした病院連携や医師派遣、コミュニティバス等の地域公共交通の充実、産業の担い手育成、図書館相互のネットワーク化、ICTインフラの整備等が計画されている。

筆者は、右にあるような都市構造に転換していこうという理念には共感しているのだが、それを実現させるには、いろいろな課題があるのではないかと思ひ、筆者なりに「縮小時代」における地方都市の都市構造のあり方について、三つの論点を考えてみた。

### 中心市街地の役割

一つは中心都市の中心市街地活性化。衰退したとはいえ、駅やバスターミ

ナル、企業の支店、歴史ある老舗や高等学校、寺社、祭りなど、郊外のショッピングセンターが逆立ちしても出せない資源が残っている。

厳しい財政事情から、全地域にあまねく投資する余力がないなかで、税金で維持していく拠点においては、耐用年数の長い投資を行うべきだ。その意味で、右のような既存集積の密度の高い中心市街地は投資に値する。

往事の商業の勢いを復活させるのは現実的でないとしても、高齢化時代には、歩いて暮らせるまちというようない新しい役目があるだろうし、公共交通しか通学手段がない高校生は、駅やバスターミナルを起点としている。中心市街地で多くの時間を過ごす人々の行



動に着目して中心市街地の役割を検討することを提案したい。

## 中心都市郊外の再生

二つ目は、中心都市郊外の再生。

分譲から三、四〇年が経過した郊外住宅地では、居住者が高齢化している。都市全体の人口も減ることだし、空き地や空き家の問題もあることから、郊外住宅地は少しずつ自然に戻したらどうか、逆線引きしたらどうかという論もあるようだが、拡大してしまった都市を物理的に縮小させるのは容易ではない。再構築できないかと思う。

長年の近所付き合いが構築したコミュニティ、住宅への愛着、経済的な理由などから、高齢者の定住意識は高い。また、地方では、戸建て住宅志向が強いことを考えれば、相続や更新時期を機会に、ある程度の若い新住民（特に、自動車を使って、広い住宅が必要な子育て世代）を迎えて世代交代を図ってはどうか。さらに、スプロール開発のために狭隘道路や公園・緑地の不足等の住環境の問題もあるだろうか、空き地はその解消のために活用することも考えられる。

このように、成熟した地域コミュニ

ティの継続と住環境の改善を一体的に考えたエリアマネジメントの発想が郊外住宅地では望まれる。

一方、バイパスや高速インター周辺等では、拠点病院や大型店等の広域的な利用を前提とした大規模集客施設の立地が見られるが、本連載第二回（本誌一二一号）で指摘させていただいたように、広域的な都市機能立地については、他の都市との競争関係や中心市街地との機能の棲み分け、広域的なアクセスの利便性などを総合的に考慮して、機能立地の誘導又は規制を戦略的に判断する必要があるだろう。

## ネットワークの構築

三つ目は、中心都市周辺の農山漁村地域とのネットワークの構築。

人口減少が続く周辺の農山漁村地域では、どうしても学校、病院等の生活インフラの維持が困難となってしまうことから、生活拠点への集約は避けられないだろう。

ただし、生活インフラが地域から失われて真つ先に不便を被るのは、やはり自動車を自分で運転できない高齢者や小中高生だ。こうした交通不便者の移動を支えるのが公共交通である。



駅と周辺部を結ぶコミュニティバス(千葉県野田市)  
(筆者撮影)

筆者は、ネットワークの構築なくして生活インフラの集約化は言えないと強く確信している。その役割を担う一つが公共交通だろう。特にバスや乗り合いタクシーは地域をきめ細かく巡回することができる。

さらに重要なのは道路だ。バスが走り、トラックがモノを運び、通勤・通学や買い物、病院に出かけることができる。それに、生活インフラが拠点に集約されて物理的に遠くなった分だけ、道路整備による時間距離の短縮でカバーすべきだ。農山漁村地域の生活拠点につながる道路、農山漁村地域と中心都市とを結ぶ道路は、「縮小時代」にあつては需要が減るのではなく、ますます重要さを増すのだと力説したい。

## 計画意図をもった集約化が必要

いま、地域の成長力は限られているから、その力を然るべき拠点に集約することで都市全体のクオリティ、あるいは地域住民の生活のクオリティが上がるというような計画意図をもたないとうまくいかない。

生活のクオリティとは都市政策に対する市民の満足度とも言っている。人々はライフステージに応じて、自動車が使えたり、使えなかったりするし、広い住宅を必要とする子育て期もあれば、バリアフリー住宅を必要とする高齢期も迎えるように、都市政策のニーズは多種多様だ。

だから筆者は、郊外の大規模集客施設も否定しないし、中心市街地再生の必要性も否定しない。どこに何の機能を集約しようとも構わないが、市民のライフスタイルを意識して都市をデザインしようとしているのかだ。

### 「ささき・ただし」

中心市街地活性化、都市農村交流、まちづくり交付金の事業評価制度、社会資本マネジメントにおけるNPOと行政との連携など携わった調査研究分野は幅広い。地方都市に生まれ育った経験と、実際に地方を見て歩いた実体験に基づいて調査研究に挑む研究者。



# 三重県鈴鹿市

CLOSE UP  
人づくり①

今号から「クローズアップ・人づくり」と題して、全国建設研修センターの研修に派遣いただいている機関を訪ね、人材育成の現状や課題などをシリーズで紹介していく。  
第一回は三重県鈴鹿市。

名古屋から列車で一時間弱、鈴鹿のまちに入ると、ひとときわ聳え立つ新しいビルが目に入る。地上十五階、地下一階の市庁舎である。災害時には地域防災拠点として機能するなど、鈴鹿市民二〇万人の生活や安全を守るため、平成十八年二月に竣工したとのこと。その五階の一室で、人事課参事兼課長の市川春美さんと同人事研修グループ主幹の前田靖子さんにお話を伺った。

## 地域特性と総合計画

鈴鹿市は、東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈と恵まれた自然環境の中にあり、自動車産業など数多くの企業を誘致し、伊勢湾岸地域有数の内陸工業都市として発展してきた。また農業においても、

恵まれた豊かな大地で、茶や花木をはじめ水稲などの生産が盛んで、農業と工業がともに成長した「緑の工都」として現在に至っている。国際的なレースを開催する鈴鹿サーキットは日本のモータースポーツの聖地として名高く、

現在、今年十月に開催されるF1グランプリなどのビッグイベントに向け、パドックや観客席等の大改修が進められている。市でも、三年ぶりとなる鈴鹿でのF1開催をシティセールスの目玉にしたい意向だ。

現在の鈴鹿市の総合計画は、平成十八年から十年間を計画期間とする第五次のもの。基本構想では「市民一人ひとりが夢や生きがいをもって安心して暮らせるまち ずずか」を目指す。将来像として、次の五つを政策の柱に掲げている。

- ①人と文化を育むまちづくり
- ②環境と共生するまちづくり
- ③誰もが暮らしやすいまちづくり
- ④いきいきとした地域と活力を生み出すまちづくり

すまちづくり

⑤安全で安心できるまちづくり

また将来人口については、少子高齢化が進む中、二〇万人の維持を目標に据え、土地利用では、①豊かな自然環境の保全と活用、②安全でコンパクトな市街地の形成、③交通機能を高めた地域経済圏の形成を構想している。

この総合計画を着実に実施していくために、平成二二年度からスタートする第二期行財政経営計画に基づき、鈴鹿市の特性を生かした選択と集中による事業展開を進めていくという。

## 人材育成基本方針の策定

平成十八年十二月、鈴鹿市では「人材育成基本方針」を策定した。その冒頭で「地方自治体が地域主権の政策を進め、厳しい自治体間競争が現実のものとなる中で、私たちは自立した行財政運営を行い、多様な行政需要に対応していかなければなりません。国から与えられた仕事をしていけばよい、困ったときは国の指示を仰げばよいとい



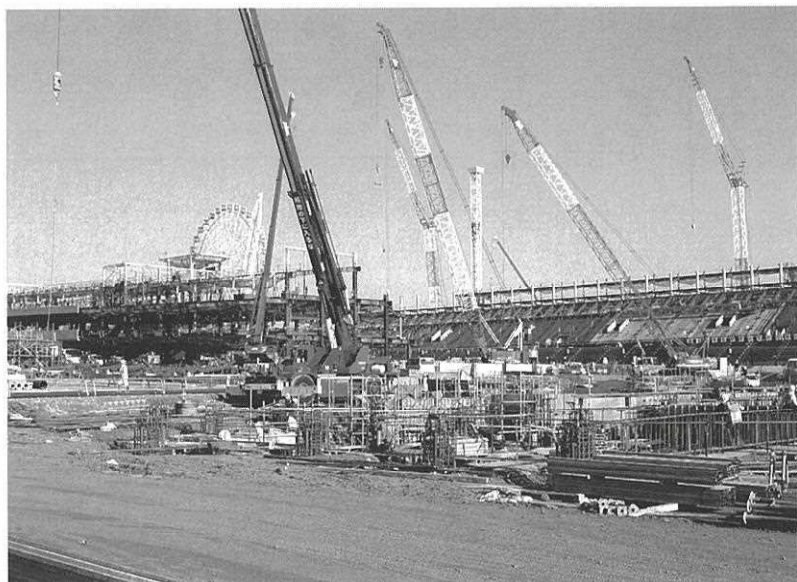
鈴鹿市庁舎



市川春美課長（右）と前田靖子主幹

う時代は去ったのです」と表明し、「職員一人ひとりが市民の視点に立った企画立案能力と施策実行力を備え、効果的な行政サービスを提供し、またそれを永続的に継続できる体制を維持しなければなりません」と、職員の意識改革と人材育成の意義をうたっている。





改修工事が進む鈴鹿サーキット

現在、鈴鹿市の職員は一四五九名。国からは集中改革プランに基づいて職員削減が求められ、十年間で七五名を純減する定員適正化計画を実行しなければならぬという。しかしその一方、社会福祉関係の法律等の改正、あるいは財源委譲による税制の移管関係などで、逆に事務量は増え続けているのが現状である。「どこの自治体もそうでしょうが、当然、事務事業を見直し、

民間でお世話になれるものは民間に委託するなどして、少しでも事務量を減らさないとやれない状況になってきています。厳しい事業環境を踏まえながら、その中でも十分な力を発揮できる人材の育成がこれからの課題です」と市川課長は話す。

## センター研修に対する評価と要望

人材育成基本方針では、「使命感を持った人材」「行政のプロフェッショナルとしての人材」「人間性に富んだ人材」「挑戦者であり続ける人材」「進化する人材」の五つがあるべき職員像として明確化している。人事課ではこのあるべき職員像を目指し、市独自の研修や派遣研修を計画して「研修概要」としてまとめ、意欲のある職員を積極的に送り出す方針をとっている。

全国建設研修センターの研修もその紙面で案内

### 全国建設研修センターへの研修参加状況

【平成19年度】		15名
研修名	期間	
都市計画		12
用地一般		12
宅地造成技術講習		5
公園・都市緑化		4
開発許可		5
建築設備(空調)		10
建築RC構造		9
改正まちづくり三法と市街地活性化		3
建築工事監理		5
河川一般		5
道路計画一般		10
建築設計		9
用地事務(補償)		5
景観実務		10
建築設備(電気)		10
【平成20年度】		12名
研修名	期間	
用地一般		11
アスベスト対策		3
宅地造成設計・施工		5
公園・都市緑化		4
建築S構造		9
開発許可		5
建築設備(衛生)		5
建築工事監理		5
河川行政・技術基礎		5
街路		5
建築設計		9
景観実務		10

平成20年度は12月末現在

され、十九年度が十五名、二十年度は今のところ十二名の参加をいただいている(表)。特に技術畑からは自ら手を挙げてくる職員も多いといい、「机上だけでなく、現場や実践にも対応しているからではないか」、さらに「熱意ある職員が研修に行きますので、研修後も所属のリーダー的存在として業務にあたってもらっています」と市川課長はセンター研修を評価する。また、前田主幹は「宿泊型研修ですので、同じ仕事をしている他の自治体の方々、あるいは民間企業の方々とも交流して、情報交換したり、刺激を受けたりできるのがメリットのようです」と指摘した。

センター研修に対する要望をお聞きすると、「研修内容についてはメニューも豊富で申し分ない」と評価しつつも、

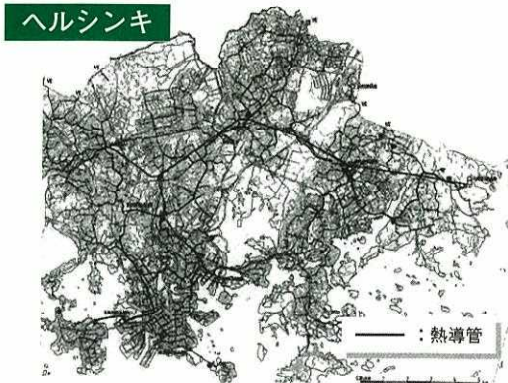
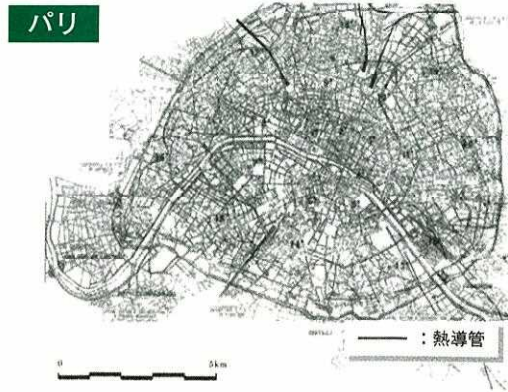
市川課長は限られた研修予算と現場の意向を調整する苦勞を口にされた。一方、前田主幹は「受講した職員の感想には、法や制度の改正時にタイムリーに受けたというのがあります。都市計画関係の大改正後の研修などは大きな意義を持って受けているようなので、すぐに実務に直結できる研修はかなり認められていると思います」と話した。

当センターでは、各種機関の人材育成を支援するため、行政、民間を対象とした年間一〇〇コースを超える研修を実施している。今後ともさまざまな研修ニーズに応えるとともに、前田主幹がおっしゃるように、行政の最新動向なども積極的にカリキュラムへ取り入れ、実効性のある研修の提供に努めていきたい。(取材日:平成二十年十二月九日)



● ● ● 下水道における未利用エネルギーの活用事例

諸外国の熱導管ネットワーク



「エネルギーの面的利用の促進や未利用エネルギー等の活用」  
 地区・街区レベルの複数の建物でエネルギーを利用することにより、エネルギー利用を効率化し、地区全体のエネルギー消費量を削減することができる。例えば、東京の晴海地区では、地域冷暖房の導入により、一般ビルに比べて二八％の省エネを実現し、横浜市新横浜地区では、改修によって複数建物間で熱融通を行うことにより、改修前に比べて十八・二％の省エネを実現している。

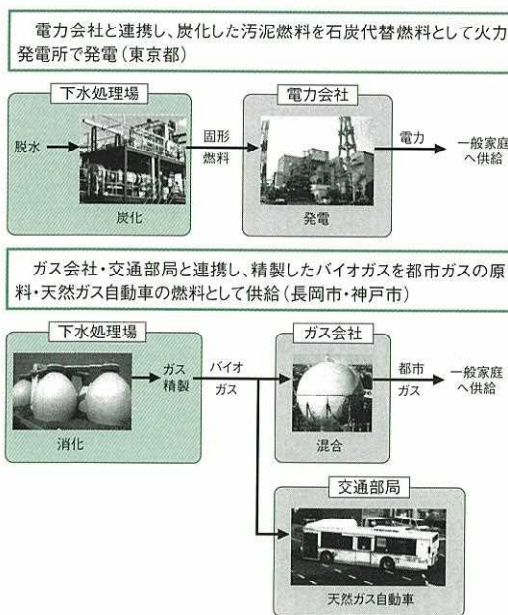
ヨーロッパの主な都市では、蒸気や高温水等によって熱を融通する熱導管ネットワークが都市レベルで張り巡らされて

いるが、日本でも、エネルギーの共同利用を行っている複数の地区を接続する取り組みが始まった。

また、工場や廃棄物焼却等の廃熱、下水汚泥由来の固形燃料やバイオガス、河川や下水等の温度差エネルギー等の未利用エネルギー、太陽光や風力等の自然エネルギーを活用することにより、さらに、環境負荷を軽減することができる。

このようなエネルギーの面的な利用や未利用エネルギー等の活用を促進するこ

下水道における未利用エネルギーの活用事例



名古屋駅周辺エコまちネットワーク整備事業



とにより、都市のエネルギー環境を改善し、CO<sub>2</sub>排出量の少ない都市整備を推進する必要がある。



観光は、地域経済の活性化、雇用の機会の増大等、国民経済のあらゆる領域にわたりその発展に寄与するとともに、国際相互理解を増進するという意義を有する。また、交流人口の拡大を通じて需要を創出し、我が国経済を活性化させるという重要な役割を担っている。

(1) 官民一体となった観光地づくり

国際競争力のある観光地づくりを推進するため、観光ルネサンス補助制度により、民間組織が実施する外国人受入環境整備事業や人材育成事業等について、市町村が行うまちづくり交付金等による事業と連携しつつ、支援を行っている。平成十九年度は新規に十件を選定した（継続案件との合計は二二件）。

また、官民が一体となって、観光を軸とした良好な地域づくりを進め、将来的に観光ルネサンス補助制度への移行を目指す調査事業である「観光地域づくり実践プラン」についても、十九年度に新たに八地域を選定し、合計四五地域において、各地域が策定したプランに即し支援している。さらに、地元の観光関係者と旅行会社の連携・協働による地域独自の魅力を生かした旅行商品の創出を促進するため、十八年度に有識者や旅行会社か

## 観光ルネサンス補助制度・観光地域づくり実践プラン選定地域



らなる「観光まちづくりアドバイザー会議」を全国一〇ブロックに設置し、十九年度は二〇地域の自治体・観光関係団体・NPO等に対して集中的なコンサルティングを行う「観光まちづくりコンサルティング事業」を実施している。

(2) 「観光地域プロデューサー」モデル事業の実施

魅力ある観光地づくりのためには、地

域の魅力を生かした商品開発、地域プロモーション等のプロデューサーが必要であるが、自発的かつ自立的な取組みが十分に行われていない状況である。地域一体となった観光振興の取組みを牽引する人材を発掘し育成した上で、その人材を欲している地域への橋渡しを行う「観光地域プロデューサー」モデル事業として、平成十九年度は五地域五名を選定した。





〇〇八年十月一日、国土交通省の外局として観光庁がスタートした。中央省庁再編後「庁」が新設されるのは、初めてのことであり、それだけ政府が本腰を入れているということでもある。観光が関与するマーケットの裾野は広く、各界へ及ぼす影響力は大きい。つまり旅行・宿泊・輸送、飲食・土産品などあらゆる産業分野の振興に深くかかわっている。あるいは地域産業の活性化、新たな雇用の創出などにもかなり貢献するとみられる。観光庁の発表によると、観光の二次的な波及効果は膨大で、平成十八年における生産効果は五・九兆円、国内生産額九四九兆円の五・六％に達するといふ。また雇用効果は四四二万人、総雇用人数六四〇五万人の六・九％と推計されている。

観光庁では観光立国日本達成のために、五つの目標を掲げている。具体的には二〇一〇年の訪日外国人旅行者数二〇〇〇万人、日本人の海外旅行者数二〇〇〇万人、旅行消費額三〇兆円、日本人の国内観光旅行による一人当たりの宿泊数二四泊、わが国における国際会議の開催件数二五割増とい

## 観光立国日本、動き出す 2010年外国人訪日旅行者数目標 = 1000万人

山田哲也 (やまだ・てつや)

(株) マーケティングスペース花傳舎 代表取締役

うものである。

独立行政法人国際観光振興機構の「一タ」によると、日本を訪れる外国人旅行者数は、毎年確実に増え続けている。〇三年の五二二万人を基準にすると〇七年の八三五万人は一・六倍にも達している。日本を訪れる外国人の国・地域別では、韓国、台湾、中国、アメリカ、香港が上位。これら五つの市場(国・地域)からの訪日外国人が全体

の七四％をしめている。

一方〇四年から〇七年までの四年間の、訪日外国人旅行者数対前年伸び率の平均は一・二二五％、この数値をベースに試算すると十年一〇〇〇万人達成は軽くクリアできそうである。ただ世界同時不況など経済情勢もあり、下方修正せざるを得ない状況が出てくるケースもあるかもしれない。

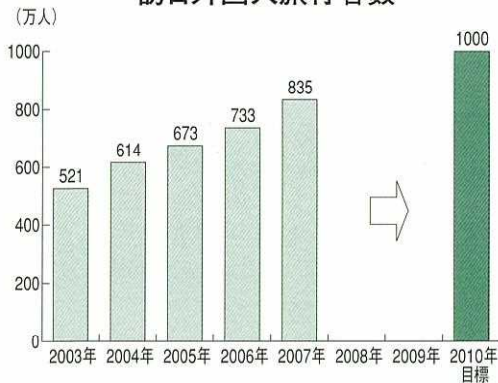
いま観光立国実現に向けてのさまざまな取り組みが始まっている。総務省では〇八年、全国の宿泊業者、旅行業者、交通事業者、地方公共団体を対象とする大がかりな「訪日外国人旅行者の受け入れに関する意識調査」が実施されているし、観光庁では全国規模で外国人を含む宿泊者の観光地満足度調査を計画している。

ある旅行代理店では外国人向けの国内旅行を商品化し、着実に実績をあげている。某地方都市のビジネスホテルでは手ごろな宿泊料金に加え、中国、台湾、韓国などのテレビ放送の無料視聴サービスを開始した。またバス会社など交通機関、ゴルフ場、スキー場などレジャー関連企業、各地の観光地、

温泉地、名所・旧跡などが地方自治体を巻き込んで、外国人旅行者の招致活動にしのぎを削っている。

日本政府観光局(JNTO)の「国際観光白書二〇〇八」によると、日本は国際観光客数で世界第一八位、観光収入で二八位といったポジション。訪日外国人客への取り組みが活発化してきているとはいえ、真の観光立国への道は、前途遠遠といった印象である。

訪日外国人旅行者数



資料出所: 独立行政法人国際観光振興機構「訪日外客数」

※訪日外国人旅行者とは、国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者数から日本に居住する外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者のことである。



『できそこないの男たち』

「生物と無生物のあいだ」(サントリー学芸賞受賞)の著者であり分子生物学者の福岡伸一氏による「オスとメスの関係」に関する考察。前著と同様、お堅い解説調の文体ではなく多彩な比喩を用いた物語調の文体で、過去の研究者達の姿や、性決定の鍵を握るSRY遺伝子発見をめぐるドラマ、受精卵から雄と雌が分化するメカニズム等を描いた上で、「生命の基本仕様とは女であり、女を無理やり改造したものが男である」と説く。

また著者によれば、男とは改造品であるがゆえに女より弱く、男の役割とは、母の遺伝子を別の所に運ぶ遺伝子の使い走りである、という。生物学的な厳密さから言えば誤った記述が多い、実際には新しい知見が書かれているわけでもないといった評価もあるようだが、「生命の不思議さ」を鮮やかに描くという点では魅力的な考察であるいえよう。(た)



できそこないの男たち  
福岡伸一 著  
光文社新書  
861円

『繁盛商店街の仕掛け人』

街に人を呼び込んだ全国成功事例20

最近、国の地方重視の姿勢から「地域活性化」がよく聞かれるように、地方は、大都市圏との格差、中心市街地の空洞化、高齢化の進展、地域の人間関係の希薄化など非常に厳しい状況にあり、一刻も早い対策が望まれるところである。今の地方の閉塞感は、様々な要因が複雑に絡み合い、対策を講ずべき問題・課題を明快に見つけ出せない。そのため、これまでと同様、公共事業、工場誘致などの対策では、地方に活力を生み出すことは難しくなっている。

思うに、商店街が元気なら、地域の商工業も活発、住民の雇用もあり、温かな交流も残っている。子供もお年寄りも商店街に集まり、生き生きとしている。このように、商店街はその地方の活力を測るモノサシみたいなものである。本書は、全国の商店街活性化の成功事例を紹介している。ぜひ、地域活性化のヒントにしたい。(し)



繁盛商店街の仕掛け人  
鶴野礼子 著  
ダイヤモンド社  
1,680円

『大災害来襲』

―防げ国土崩壊―

大災害来襲。この刺激的なタイトルを冠したのは、何も恐怖心を煽っているわけではなく、災害に目をくばらずに立ち向かおうという、社会一般の防災意識の向上を促すのが大きな狙いである。

では、どう立ち向かうのか。「日本の自然と、災害史を身に体し、自らの住環境を見直し、いざという場合の情報取得をはじめ心構えを整えることから、災害への対策を始めよう」と、監修の高橋裕氏は自然環境や災害に対して十分な認識を持つことの必要性を説く。

本書は、そうした視点に立って、日本の自然特性と災害との関係を熟知する工学者の目から、地震や噴火、台風などによる被害を軽減するため何をすべきか、その具体策を論じている。また、災害リスクを高める地球温暖化による気候変動、地盤沈下や海岸浸食など土地利用の問題をあげ、今後の国土整備のあり方について一石を投じている。(つ)



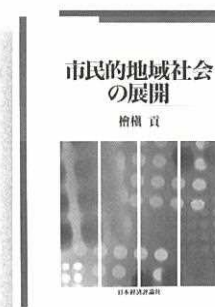
大災害来襲  
監修 高橋裕  
編集 国土文化研究所  
(株)アドスリー  
2,100円

『市民的地域社会の展開』

「市民的地域社会の登場。住民と市民がネットワークを作り、まちづくりに向かう」。

本書の帯に書かれたフレーズにある通り、本書は、地域資源と市民活動を基本とした地域政策とは何か、市民と自治体が協働して形成していく関係性とは何か、その発展可能性まで言及、新たな研究分野としての「地域政策学」を提唱する。

シンクタンク等で都市や地域課題に関する研究実績を重ねた著者は現在、弘前大学大学院地域社会研究科で、地域政策講座を担当。住民ネットワークおよび地域社会において展開される市民的政策思考と自治体政府の政策思考を踏まえつつ、現代地域政策を検討する、といった地域社会形成論など、地域に関わる政策課題の総合的解決をめざしている。はたして、官と行政に委ねられてきた「地域社会」を市民の世界から組み立て直すために必要なことは何か。各々の足元から考えてみたい。(o)



市民的地域社会の展開  
檜橋貢 著  
日本経済評論社  
3,570円





# 技術検定試験のご案内

種 目	受 験 資 格	試験実施日 (平成21年)	試 験 地	申込受付期間 (平成21年)
一級土木施工管理 技術検定・学科試験	所定の実務経験年数を有する者。 二級土木施工管理技士で、所定の実務経験年数を有する者。	7月5日(日)	札幌・釧路・青森・仙台・ 東京・新潟・名古屋・大阪・ 広島・岡山・高松・福岡・沖縄	4月1日から 4月15日まで
一級土木施工管理 技術検定・実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	10月4日(日)	札幌・釧路・青森・仙台・ 東京・新潟・名古屋・大阪・ 広島・岡山・高松・福岡・沖縄	4月1日から 4月15日まで
二級土木施工管理 技術検定 学科・実地試験 (土木・鋼構造物塗装・薬液注入)	所定の実務経験年数又は学歴を有する者。	10月25日(日)	札幌・釧路・青森・仙台・秋田・ 東京・新潟・富山・静岡・名古屋・ 大阪・広島・岡山・松江・高松・ 高知・福岡・鹿児島・沖縄	4月1日から 4月15日まで
一級管工事施工管理 技術検定・学科試験	所定の実務経験年数を有する者。 二級管工事施工管理技士で、所定の実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による配管等の 一級技能検定合格者で所定の実務経験年数を有する者。	9月6日(日)	札幌・仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・沖縄	5月7日から 5月21日まで
一級管工事施工管理 技術検定・実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	12月6日(日)	札幌・仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・沖縄	5月7日から 5月21日まで
二級管工事施工管理 技術検定 学科・実地試験	所定の実務経験年数又は学歴を有する者。 職業能力開発促進法による配管等の 一級または二級技能検定合格者で所定の実務経験年数を有する者。	11月15日(日)	札幌・青森・仙台・東京・新潟・ 金沢・名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・鹿児島・沖縄	5月7日から 5月21日まで
一級造園施工管理 技術検定・学科試験	所定の実務経験年数を有する者。 二級造園施工管理技士で、所定の実務経験年数を有する者。 職業能力開発促進法による造園の 一級技能検定合格者で所定の実務経験年数を有する者。	9月6日(日)	札幌・仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・沖縄	5月21日から 6月4日まで
一級造園施工管理 技術検定・実地試験	当年度学科試験合格者。 その他の該当者。	12月6日(日)	札幌・仙台・東京・新潟・ 名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・沖縄	5月21日から 6月4日まで
二級造園施工管理 技術検定 学科・実地試験	所定の実務経験年数又は学歴を有する者。 職業能力開発促進法による造園の 一級または二級の技能検定合格者で所定の実務経験年数を有する者。	11月15日(日)	札幌・青森・仙台・東京・新潟・ 金沢・名古屋・大阪・広島・ 高松・福岡・鹿児島・沖縄	5月21日から 6月4日まで
土地区画整理士 技術検定 学科・実地試験	学歴により所定の実務経験年数を有する者。 不動産鑑定士及び同士補で所定の実務経験年数を有する者。	9月6日(日)	仙台・東京・名古屋・ 大阪・福岡	5月7日から 5月21日まで (予定)

※各試験の申込用紙は、インターネット、コールセンター、販売窓口でご購入できます。  
詳細については、当センターホームページをご覧ください。

## お問い合わせ先

### 財団法人 全国建設研修センター

試験業務局 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスビル永田町ビル  
ホームページアドレス: <http://www.jctc.jp/>

●土木施工管理技術検定〈一・二級学科及び実地試験〉(土木試験課)

☎ 03(3581)0138(代)

●管工事施工管理技術検定〈一・二級学科及び実地試験〉(管工事試験課)

●造園施工管理技術検定〈一・二級学科及び実地試験〉(造園試験課)

●土地区画整理士技術検定〈学科及び実地試験〉(区画整理試験課)

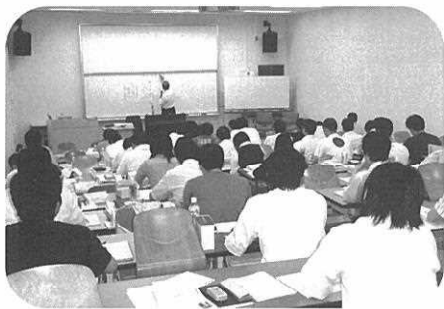
☎ 03(3581)0139(代)



財団法人 全国建設研修センターが行う研修は

# 新しい知識と情報の修得、 そして相互啓発の場として 活用されています

★「研修計画一覧」は次ページをご覧ください。



### 研修の特色

#### ■ 40 有余年の伝統と実績

昭和37年設立、その後、建設省建設大学校（国土交通大学校）の行う研修を補完する唯一の機関として位置づけられました。

年間約4千人が受講、各方面で活躍されています。

#### ■ 時代に即した研修コースと充実した講師陣

時代のニーズに即した研修コースが用意されています。講師は、国土交通省等の政策担当者、大学教授、第一線で活躍されている民間の専門技術者などです。

#### ■ 演習・討議・見学を効果的に採り入れたカリキュラム

行政の最新動向、最新技術を採り入れた体系的な講義のほか、演習、実習、事例研究、グループ討議、現地見学を組み合わせ、研修効果をあげています。

#### ■ スキルアップに加え相互啓発効果

合宿研修により、組織外交流、異業種交流の場となって互いの向上心を刺激、スキルアップに加え相互啓発効果もあげています。

#### ■ 国・自治体・民間が研修を積極的に活用

職員研修、社員教育などの計画に当センター研修を組み込み、人材育成目的に応じた体系的学習、情報収集の機会として利用されています。

### 研修参加者の声

- 新しい知識、情報を得ることができ、仕事に役立てることができた。
- 上司や同僚の信頼が厚くなった。
- 全国から集まった人たちとの立場を超えた交流は、よい経験であり、自分の財産になった。
- 普段、接することのできない講師から有益な話が聞け、新しい視点が加わった。
- 一つの事業実施にもさまざまな角度からの検討方法があることを学び、早速実践に役立てたい。

### 研修派遣者の声

- センターの研修は私たちのニーズにマッチし、実力がつくので参加させている。
- 参加者はさまざまな知識を得るとともに、研修生同士の意見交換などでいい刺激を受けるようだ。職場に戻り的確な発言をするなど、仕事への取組姿勢が積極的になった。



### 継続教育 (CPD)

当センターの研修は、「土木学会」「建設コンサルタンツ協会」「日本都市計画学会」「日本技術士会」「土質・地質技術者生涯学習協議会」「地盤工学会」「全国土木施工管理技士会連合会」等の団体の継続教育 (CPD) として活用できます。



▷研修時期・日数等は変更することがあります。

部門	研修名	募集人数	日数	研修初日	研修会費(円/人)
ダム	ダム管理主任技術者(実技)	90	3	5/11	78,000
砂防	砂防一般 —土砂災害を防ぐ—	40	5	11/9	99,000
	砂防等計画設計	40	5	6/22	95,000
海岸	海岸技術の実務	40	4 3	5/19 5/20	64,000 54,000
道路	道路総合 —道路事業の円滑な推進—	40	5	6/22	86,000
	道路計画一般 —演習を中心に—	60	10	11/10	121,000
	市町村道	60	5	10/19	90,000
	交通安全事業(市町村道) —安全・安心な道路空間の創造—	50	4	7/14	79,000
	舗装技術 —新舗装技術の実務—	40	3	5/13	67,000
	環境舗装技術	40	4	10/6	75,000
	橋梁設計	50	11	9/8	141,000
	鋼橋設計・施工 —基本技術から最新の技術まで—	50	3	1/27	68,000
	プレストレスト・コンクリート技術	40	5	7/13	80,000
	橋梁維持補修	50	5	11/30	86,000
都市	都市計画	50	11	5/19	141,000
	都市再開発	40	5	11/9	94,000
	区画整理	40	5	11/16	89,000
	開発許可	70	5	7/6	71,000
	開発許可専門	40	4	7/13	66,000
	宅地造成設計・施工	50	5	6/1	89,000
	—法令に基づく講習— 宅地造成技術講習	100	5	7/27	72,000
	街路	40	5	10/19	87,000
	交通まちづくり	40	5	10/26	88,000
	公園・都市緑化	40	5	9/7	85,000
	下水道 —下水道の管路整備の新たな応—	50	4	6/16	80,000
	下水道(管路)管理 —診断・改築・修繕等の実務—	40	3	8/26	78,000
	景観まちづくり	40	10	7/21	135,000
	中心市街地活性化 —にぎわいのあるまちづくりをめざして—	40	5	10/5	90,000

部門	研修名	募集人数	日数	研修初日	研修会費(円/人)
都市	地域整備と住民参加	40	4	8/25	75,000
	都市計画事例研究	40	5	8/3	83,000
	低炭素型都市・地域づくり —環境モデル都市への取組事例等から—	40	4	11/24	75,000
住宅・建築	建築設計	40	9	11/24	127,000
	建築RC構造	40	9	8/31	120,000
	建築耐震技術	40	4	5/12	75,000
	建築設備(電気)	40	10	2/17	141,000
	建築設備(空調)	50	10	7/21	138,000
	建築工事監理	60	5	10/26	95,000
	建築物の維持・保全	40	5	1/18	99,000
	建築環境 —建築物の環境・省エネルギー—	40	5	10/5	88,000
	マンション・団地再生	40	3	1/13	68,000
	電機	第一級陸上特殊無線技士 —無線技士の資格取得—	50	11	11/24

※網掛けしている研修は、21年度新規研修です。

## 研修のお問い合わせ先

### 財団法人 全国建設研修センター

研修局 〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2

☎042(324)5315(代)

ホームページアドレス: <http://www.jctc.jp/>

各研修のくわしい内容はホームページをご覧ください。



# 平成21年度 研修計画（案）一覽

## I. 行政関係職員を対象とした研修コース(行政研修)

部門	研修名	募集人数	日数	研修初日	研修会費(円/人)
事業監理	管理者のための建設マネジメント	40	3	7/15	69,000
	公共工事契約実務	40	5	9/28	86,000
	地方自治体における総合評価方式の導入	40	3	5/20	62,000
	総合評価方式の活用	40	3	6/10	62,000
施工管理	土木工事積算	50	5	6/15	75,000
	土木工事監督者	60	5	6/29	79,000
	品質確保と検査	40	5	9/14	84,000
防災	災害復旧実務	50	5	4/20	93,000
土地・用地	用地一般	60	11	5/26	118,000
	用地事務(土地)	50	5	11/30	76,000
	用地事務(補償)	50	5	12/7	72,000
	用地補償専門(ゼミナール)	40	5	9/28	77,000
ダム	ダム管理(管理職)	30	3	4/22	65,000
	ダム管理	40	5	10/19	99,000
道路	道路管理一般	60	10	9/8	121,000
都市	まちづくりセミナー	30	3	5/13	65,000
住宅・建築	建築基準法(建築物の監視)	60	10	6/17	117,000
	公共建築工事積算	40	5	9/28	90,000
	公共建築設備工事積算(電気)	40	4	11/17	71,000

## II. 行政・民間の両者を対象とした研修コース(一般研修)

部門	研修名	募集人数	日数	研修初日	研修会費(円/人)
事業監理	アセットマネジメント	40	3	8/26	69,000
	P F I 実務	40	5	1/25	89,000
	G I S の 活 用	40	4	9/1	85,000
	建設 V E 手法実践	40	4	7/27	64,000
	建設プレゼンテーション・スキル	40	3	8/5	64,000
	ユニバーサルデザイン —快適な生活空間の創出—	40	5	6/15	90,000

部門	研修名	募集人数	日数	研修初日	研修会費(円/人)
施工管理	土木施工管理	40	3	10/14	66,000
	コンクリート施工管理 —良質なコンクリート施工のために—	40	4	6/30	79,000
	コンクリート構造物の維持管理・補修	50	3	11/4	64,000
	仮設工	50	5	9/14	79,000
	市街地土木工事 —円滑な工事実施のために—	40	4	7/21	75,000
	土木技術のポイントA (計画・設計コース)	40	4	7/7	78,000
土木技術のポイントB (施工・監督・検査コース)	40	4	10/27	78,000	
環境	土壌・地下水汚染対策と浄化事例	40	3	2/24	69,000
土質	地質調査 —調査・解析・対策について—	50	4	4/21	78,000
	土質設計計算 —構造物基礎の演習—	50	4	9/29	75,000
防災	土木構造物耐震技術	40	4	10/6	77,000
	大規模災害と緊急対応 —災害に備えるBCP—	40	3	10/14	69,000
	斜面安定対策 —維持管理・点検・復旧対策まで—	50	4	8/4	70,000
	地すべり防止技術	40	5	5/18	86,000
トンネル	ナトム工法 —標準示方書の解説と施工の留意点—	40	5	11/16	89,000
	ナトム積算 —新積算基準とその実例—	50	4	7/21	71,000
土地・用地	用地関係法規	50	5	8/31	79,000
	用地担当者のための土地・建物法規実務	40	4	7/7	75,000
	用地専門 —事例研究を中心に—	50	5	1/18	72,000
	不動産鑑定・地価調査等	60	5	6/1	84,000
河川	河川行政・技術基礎	50	5	5/25	91,000
	河川事業の実務	50	5	12/7	77,000
	河川構造物設計	40	5	6/29	85,000
	河川整備計画・事業評価	40	5	8/31	82,000
ダム	ダム工事技術者			未定	
	ダム新技術 —ダムのリニューアル技術—	30	3	5/13	65,000
	ダム操作実技訓練	60	3	4/13	65,000
	ダム管理主任技術者(学科)	90	5	4/13	102,000



# 監理技術者講習のご案内

Japan Construction Training Center

あなたは何処の講習を受けても同じだと思いませんか？  
(財)全国建設研修センターの監理技術者講習はここが違う！

## ☆当センターの監理技術者講習のポイント☆

- 現場経験豊富な講師が行う対面式講習！
  - 改正建設業法等、常に化する法律・制度を解説！
  - 全国45%のシェアと実績！
  - 監理技術者講習実施機関として国土交通大臣登録第1号
  - 土木・管工事・造園施工管理技術検定試験の国土交通大臣指定試験機関
- 長年培った経験と実績を監理技術者講習に活かしています。**

これまで公共工事のみに必要であった監理技術者制度及び監理技術者講習制度が変わり、平成20年11月28日から「民間の重要な建設工事（個人住宅を除く殆どの建設工事が対象）」において専任で配置される監理技術者は、監理技術者講習を受講したものでなくてはなりません。

詳しくはホームページをご覧ください。

**今すぐ <http://www.jctc.jp/> へアクセス!!**

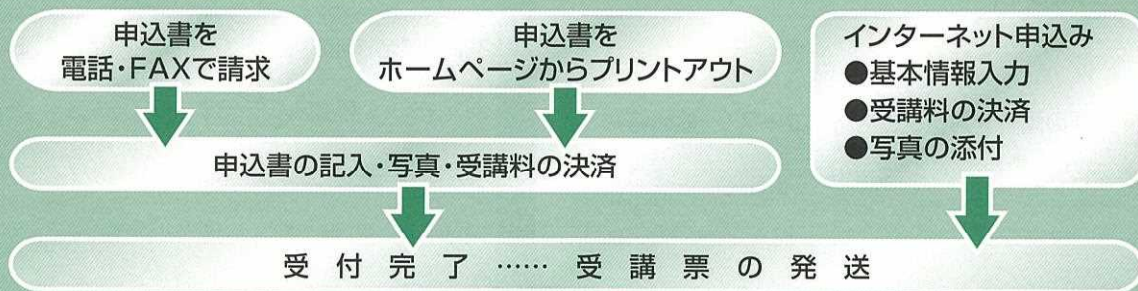
### ■監理技術者講習テキスト

「建設工事のための監理技術者必携」(平成20年9月版)の内容

- 第1編 建設工事に関する法律制度
  - 第1章 建設工事を取りまく社会・経済情勢
  - 第2章 建設工事における技術者制度及び法律制度
- 第2編 建設工事の技術上の管理
  - 第3章 施工計画と施工管理
  - 第4章 建設工事における安全管理
  - 第5章 建設副産物対策
- 第3編 最近の技術動向
  - 第6章 建設技術の動向
  - 第7章 分野別技術動向



## 申込みから受講まで(申込書無料)



\*申込みは随時受付しています。 \*受講地・受講日は申込後に変更できません。

### 【問合せ及び申込書請求先】

財団法人 全国建設研修センター 講習局 講習部

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスヒル永田町ビル5F

TEL 03-3581-7611 FAX 03-3581-0316



# 監理技術者講習実施予定表

講習地	講習会場名	2月	3月	4月	5月	6月	7月
札幌	札幌コンベンションセンター	3(火)・26(木)	12(木)・24(火)				
	北海道開発協会	10(火)		10(金)・14(火) 17(金)	12(火)・22(金)	12(金)・17(水) 26(金)	7(火)・24(金)
江別	札幌理工学院	19(木)	17(火)	15(水)		4(木)	
函館	ベルクラシック函館		10(火)		19(火)		3(金)
旭川	ベルクラシック旭川	6(金)	26(木)	21(火)		19(金)	28(火)
帯広	道新ホール 2階	24(火)		23(木)	21(木)		30(木)
青森	アップルパレス青森		17(火)	8(水)	13(水)	17(水)	7(火)
八戸	ユートリー(八戸地域地場産業振興センター)	18(水)		15(水)		3(水)	
盛岡	盛岡建設研修センター	13(金)	19(木)	17(金)	20(水)	5(金)	29(水)
仙台	宮城県建設産業会館	6(金)・20(金)	19(木)	10(金)・22(水)	15(金)・29(金)	12(金)・26(金)	7(火)・22(水)
秋田	秋田県JAビル	5(木)	17(火)	15(水)	27(水)	17(水)	22(水)
山形	山形県建設会館		11(水)	8(水)		24(水)	
福島	福島県建設センター		13(金)	10(金)		19(金)	
いわき	いわき建設会館		6(金)			10(水)	
郡山	ビックパレットふくしま	20(金)	26(木)	22(水)	22(金)		24(金)
会津若松	会津若松商工会館 2階	6(金)					
水戸	茨城県建設技術研修センター	13(金)	19(木)	10(金)	15(金)	12(金)	10(金)
宇都宮	コンセーレ	10(火)	13(金)	22(水)	22(金)	12(金)	31(金)
前橋	群馬建設会館	20(金)	19(木)	22(水)		23(火)	10(金)
さいたま	JA共済埼玉			21(火)	15(金)	16(火)	22(水)
	埼玉建設連研修センター(建産連会館)	26(木)	19(木)	23(木)	28(木)	25(木)	30(木)
	埼玉県県民健康センター	13(金)	6(金)	9(木)	12(火)	9(火)	10(金)
千葉	ホテルプラザ菜の花		25(水)	15(水)		12(金)	
	千葉県労働者福祉センター	6(金)・27(金)	19(木)	9(木)・23(木)	14(木)・28(木)	4(木)・18(木)	10(金)・23(木)
柏	柏商工会館		6(金)	16(木)	21(木)		30(木)
市川	市川グランドホテル			21(火)		26(金)	
東京	砂防会館			14(火)・17(金) 23(木)	14(木)・25(月)		
	町村会館	6(金)・10(火) 20(金)・23(月) 27(金)	3(火)・11(水) 15(日)・19(木) 23(月)	8(水)	18(月)・27(水)	3(水)・9(火) 12(金)・17(水) 23(火)・29(月)	7(火)・12(日) 15(水)・22(水) 27(月)
	TKP代々木ビジネスセンター プラザ館			10(金)・21(火)	12(火)・20(水)	5(金)・19(金)	
	(財)全国建設研修センター 研修会館	3(火)・19(木)	5(木)・26(木)	9(木)	27(水)	18(木)	2(木)
小横浜	関内新井ホール	10(火)・27(金)	13(金)・24(火)	9(木)・14(火) 23(木)	15(金)・21(木) 28(木)	5(金)・18(木) 25(木)	10(金)・23(木) 31(金)
相模原	けやき会館		6(金)	17(金)		11(木)	
	あじさい会館				13(水)		
新潟	朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)	20(金)	19(木)	24(金)	15(金)	25(木)	7(火)
長岡	ハイブ長岡(長岡産業交流会館)		3(火)	17(金)		11(木)	22(水)
富山	ボルファートとやま	10(火)	17(火)	23(木)	21(木)	4(木)	23(木)
金沢	石川県建設総合センター		5(木)	16(木)	28(木)	18(木)	30(木)
福井	福井商工会議所	4(水)	19(木)	15(水)	20(水)	2(火)	28(火)
甲府	かいてらす(山梨県地場産業センター)		17(火)	24(金)		5(金)	
長野	長野バスターミナル会館		6(金)	10(金)	29(金)	12(金)	
松本	松本商工会館		17(火)				
	松筑建設会館				27(水)		24(金)
岐阜	長良川国際会議場	6(金)	11(水)	17(金)		24(水)	
静岡	静岡労政会館	6(金)	19(木)	24(金)	29(金)	12(金)	24(金)
三島	三島商工会議所	13(金)					
	(社)三島建設業協会			10(金)		26(金)	
浜松	サーラシティ浜松	17(火)		17(金)	14(木)		30(木)
名古屋	ローズコートホテル	10(火)・27(金)	6(金)・19(木)	8(水)・14(火) 16(木)・23(木)	14(木)・19(火) 20(水)・26(火)	3(水)・10(水) 16(火)・17(水)	7(火)・24(金) 31(金)
津	メッセウイングみえ(三重産業振興センター)		13(金)	10(金)	22(金)	11(木)	
京都	京都工業会館	27(金)		10(金)	22(金)		7(火)
大阪	建設交流館 7階	4(水)		14(火)・22(水)	12(火)・29(金)	5(金)・17(水)	22(水)・29(水)
	天満研修センター	18(水)	13(金)・24(火)	8(水)		12(金)	
	TKP大阪梅田ビジネスセンター				20(水)		7(火)
堺	ホテルリバティプラザ			23(木)	28(木)	25(木)	31(金)
神戸	三宮研修センター		4(水)	15(水)	13(水)	17(水)	29(水)
岡山	岡山コンベンションセンター	25(水)		8(水)		24(水)	
広島	JAビル	4(水)	11(水)	10(金)	13(水)	3(水)	7(火)
高松	サン・イレブン高松		24(火)	14(火)		10(水)	
福岡	サットンプレイスホテル博多			24(金)	13(水)	5(金)	
	福岡県自治会館	25(水)	19(木)	17(金)	27(水)	17(水)	7(火)
北九州	毎日西部会館	13(金)			20(水)		22(水)
長崎	長崎県漁協会館		12(木)	22(水)			2(木)
熊本	熊本県青年会館		17(火)	15(水)		19(金)	29(水)
鹿児島	鹿児島県市町村自治会館		25(水)	10(金)	29(金)	3(水)	31(金)
浦添	結の街(浦添市産業振興センター)		24(火)	23(木)	28(木)		31(金)

※会場・受講日は追加・変更する場合があります。最新の情報は、当センターホームページで確認するか当センターにお問い合わせください。





# 刊行図書のご案内



財団法人 全国建設研修センター

## 【建築設備分野】

### ■建築設備計画基準(平成17年版)

国土交通大臣官房官庁営繕部  
設備・環境課 監修  
(社)公共建築協会 編  
A4判・360ページ  
(様式のCD付)  
定価：6,090円



本書は、4年ごとに見直しが行われている「建築設備計画基準」の最新基準を分かりやすく編集し、さらに基準運用のための資料等を追加してまとめ、官庁だけでなく、一般建物の設備計画にも十分適用できる内容となっています。

### ■建築設備設計基準(平成18年版)

国土交通大臣官房官庁営繕部  
設備・環境課 監修  
(社)公共建築協会 編  
A4判・816ページ  
定価：13,000円



本書は、平成18年4月に制定された「建築設備設計基準」に設計資料を加え分かりやすく編集し、公共建築設備だけでなく、一般の事務所建築設備の実施設にも広く活用されています。

### ■建築設備設計計算書作成の手引(平成18年版)

国土交通大臣官房官庁営繕部  
設備・環境課 監修  
(社)公共建築協会 編  
A4判・216ページ  
(書式集のCD付)  
定価：5,800円



本書は、「建築設備設計基準(平成18年版)」に基づいて設計を行う際の計算様式及び計算例に、計算の根拠となる資料の参照先、留意事項等を追記し、分かりやすく編集したものです。使用している計算様式は官庁施設を対象としていますが、一般的な事務を行う施設の実施設にも有効なものと考えられます。また、本書では、「建築設備設計基準(平成18年版)」の中で、特に説明されていない事項や誤りやすい箇所についても、重点的に補足説明を加えています。なお、付録として「建築設備設計計算書書式集(平成18年版)」(PDF)のCDが付いています。

## 【監理技術者講習テキスト】

### ■建設工事のための監理技術者必携(平成20年9月版)

(財)全国建設研修センター  
編集・発行  
B5判・544ページ  
頒価：2,000円

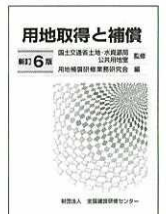


本書は、(財)全国建設研修センターが実施する監理技術者講習で使用しているテキストです。監理技術者が習得すべき知識、技術を網羅したもので、講習終了後も業務の参考となるように編集してあります。また、発注者の立場の方にも十分活用できる内容となっています。今回、前年版の内容を大幅に改定しており、過去に当研修センターの講習を受講された方には特にお勧めの書です。

## 【その他の分野】

### ■用地取得と補償(新訂6版)

国土交通省土地・水資源局  
公共用地室 監修  
用地補償研修業務研究会 編  
B5判・580ページ  
定価：5,460円  
刊行：平成20年4月



本書は、土地取用制度と各種の補償制度(一般、公共、事業損失)について分かりやすく解説したものです。これらを補完する生活再建措置並びに調査、交渉、契約、支払い及び登記事務等広範囲にわたる専門技術的な知識についても体系的に網羅し、用地関係の仕事に携わる方々の実務や研修に最適です。

いつも手の届くところに…。  
**当センターの実務用図書!!**

## 【下水道分野】

### ■下水道計画の手引(平成14年版)

下水道計画研究会 編  
A5判・464ページ  
定価：5,880円  
刊行：平成14年10月



本書は、下水道事業に新たに着手する市町村の職員の方々、下水道に関心のある人を対象として、小さい投資で下水道をいかに効率的に整備するか、下水道整備をまちの発展にいかにつなげるか、を念頭におきながら下水道計画を策定するための手引書です。

### ■下水道事業の評価制度

下水道事業評価研究会 編  
A5判・184ページ  
定価：2,100円  
刊行：平成14年12月



本書は、平成10年度にスタートした公共事業の評価のうち、下水道事業評価手法を分かりやすく具体的にQ&Aも交えて解説しています。関係通知も網羅した下水道事業を行う実務者必携の解説書となっています。

### ■下水道維持管理の手引

下水道維持管理研究会 編  
A5判・416ページ  
定価：5,403円  
刊行：平成7年11月



本書は、下水道の適切な維持管理を行うための第一歩として、多くの事例を交えて維持管理の内容を分かりやすく解説しています。現在、中小規模の下水処理場の維持管理に携わっている方々、これから行おうとしている方々の手引書です。

〈お問い合わせ・お申し込み先〉

財団法人 全国建設研修センター 建設研修調査会

〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2

TEL. 042-327-8400 FAX. 042-327-8404

●送料等については当センターホームページをご覧ください。

ホームページアドレス：<http://www.jctc.jp/>

●各図書の定価は税込となっています。



資格・就職に強い建設の伝統校



財団法人全国建設研修センター付属

# 札幌理工学院

北海道知事認定校・国土交通大臣登録校・国土交通大臣認定校



## ●札幌理工学院の特色

- ◆35年余の伝統と建設技術教育実績
- ◆8,300名を超えるOBネットワーク  
(平成20年度卒業生就職率100%)  
建設業界の就職に強い
- ◆測量士(補)国家試験免除校
- ◆実務型建設技術者教育の実践
- ◆最先端機器による技術教育

### 【資格取得に抜群の実績】

- 建築士
- 測量士
- 測量士補
- 土木施工管理技士
- 建築施工管理技士
- 車両系建設機械運転技能者
- 玉掛技能者
- CAD利用技術者
- 福祉住環境コーディネーター
- インテリアプランナー
- カラーコーディネーター など

### 札幌理工学院の各種支援制度

- ◆特待生、奨学生制度
- ◆生涯能力開発給付金制度
- ◆キャリア形成促進助成金制度
- ◆学生支援機構奨学金対象校
- ◆各種学費減免制度有り  
(詳細は、直接学院へ)

## ●設置学科

### 測量学科

(1年制/30名・男女)



わずか1年で「測量士」・「測量士補」を取得。測量技術者への最速最短コース。

### 土木工学科

(2年制/60名・男女)



「建設CALS/EC」「ISO」「環境」をマスターした現場監督、設計技師を養成。

### 建築工学科

【建築コース】

(2年制/40名・男女)



一般住宅やビルなどの「建築設計」から「施工技術」までトータルに対応できる建築士を養成。

### 建築工学科

【デザインコース】

(2年制/40名・男女)



建築設計に必要な「デザイン」を徹底マスター。豊かな住環境をプロデュースする建築士を養成。

## ●札幌理工学院の厚生施設

- ◆学生会館完備(男子寮、女子寮)  
全室一人部屋、朝夕2食付!



- ◆学生食堂完備  
味はもちろん、ボリュームも満点!  
価格も安い!



- ◆学生駐車場完備(自動車通学可)  
自動車での通学OK!  
自転車やバイクでの通学も可能!



資料請求・お問い合わせ先

〒069-0831 北海道江別市野幌若葉町85-1  
☎ 0120-065-407 TEL 011-386-4151 FAX 011-387-0313  
URL <http://www.srg.ac.jp/> Email [info@srg.ac.jp](mailto:info@srg.ac.jp)



## 平成20年度土木学会選奨土木遺産が決まりました

社団法人土木学会では、土木学会選奨土木遺産選考委員会（委員長：伊東孝）を設け、社会へのアピール、土木技術者へのアピール、まちづくりへの活用などを促すことを目的に近代土木遺産（幕末～昭和20年）を対象として、土木学会選奨土木遺産の認定を行っています。

このたび、平成20年度土木学会選奨土木遺産が下表のとおり決まりました。



奥沢水源地（階段式溢流路）

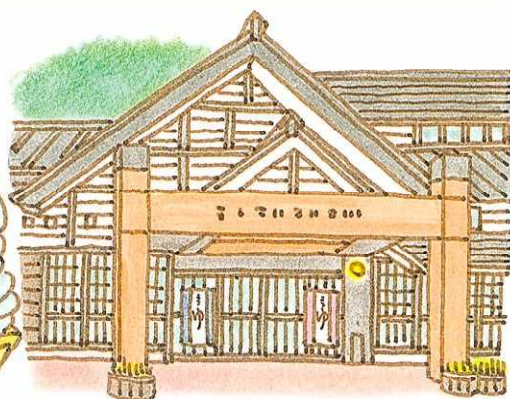
### 平成20年度 土木学会選奨土木遺産 一覧

対象構造物	授賞理由	所在地	竣工年
奥沢水源地水道施設	北海道開発を支えた港湾都市小樽で建設後90年を超える現役の水源地。寒冷地での工事技術、階段状溢流路の水流が高く評価される	北海道小樽市	大正3年
定山溪発電所施設	北海道における現役最古の水力発電所施設。運用開始以降、地域産業の発展に貢献した歴史的構造物	北海道札幌市	明治42年
聖台ダム	建設時国内で最大規模の水田灌漑貯水池。各種の試験や十分なグラウトを施すことで困難な工事を完成させ、修景にも配慮された施設	北海道上川郡美瑛町	昭和12年
最上川橋梁：JR左沢線 最上川橋梁（通称「荒砥鉄道橋」）： フラワー長井線	最上川橋梁（JR左沢線・フラワー長井線）は、明治時代の全鍊鉄製ダブルウェントラス橋で国内最古の現役鉄道橋であり歴史的に貴重な土木遺産	JR左沢線： 山形県寒河江市・中山町 フラワー長井線： 山形県白鷹町	JR左沢線：大正10年 フラワー長井線：大正12年
直江兼統治水利水施設群	直江兼統治水利水施設群は、近世初期の城下町米沢を形成する骨格となり、時代を超えて生活や歴史文化を支えている貴重な地域資産	山形県米沢市	谷地河原堤防（直江石堤）：慶長6年 蛇堤（蛇土手）：慶長年間 御人水堀：慶長年間 猿尾堰：年不詳 堀立川：慶長14年 巴堀：堀立川完成以降 室沢堰：年不詳 帯刀堰：慶長18年
日川の堰堤と水制群	扇状地河川の治水によって勝沼のぶどう生産が発展する基盤をつくったものであり、山梨県の歴史を語る上で重要	山梨県甲府市	勝沼堰堤（大正6年） 日川水制群（大正4年）
小倉橋	当時としては画期的な4径間アーチが連なる連続感、橋の側面が描き出す力学的な造形美と、周辺の溪谷美との調和が美しい	神奈川県相模原市	昭和13年
荒川横堤	荒川の横堤は高水調節を行うため、河道内に本堤から横方向に築いた堤防で、荒川独特の施設である	埼玉県戸田市・さいたま市内	昭和9年
黒川発電所膳棚水路橋	大正期のRCラーメンで希少性に富み、かつX字型に筋交いの入った3本橋脚は技術・意匠に優れ、独創的な造形美を呈している	栃木県那須町	大正10年
銀座線 浅草駅～新橋駅間	昭和2年の部分開通から、7年をかけて新橋駅まで開通した。東洋で最初に営業を開始した地下鉄であり、土木的に重要	東京都台東区～港区	浅草～上野間（2.2km）：昭和2年 上野～万世橋（仮）間（1.7km）：昭和5年 万世橋（仮）～神田間（0.5km）：昭和6年、万世橋（仮）駅廃止 神田～三越前間（0.7km）：昭和7年 三越前～京橋間（1.3km）：昭和7年 京橋～銀座間（0.7km）：昭和9年 銀座～新橋間（0.9km）：昭和9年
曾我浦片隠道（4号、5号）	国道135号に造られた片隠道であり、坑口が古典的アルデコ様式で装飾された珍しい意匠の洞門である	静岡県熱海市	昭和14年
百々貯木場	開設当初の原形をほぼ遺している点においても希有な事例であり、河川中流域に完全な形で残る貯木場としては全国唯一である	愛知県豊田市	大正7年
（廃）片平橋	奈良井川を渡河しているRC開腹アーチ（リブ柱）橋であり、現在は廃道になっているが、橋体が非常に美しいアーチ形状である	長野県塩尻市	昭和10年
心齋橋駅舎他、御堂筋線の地下駅群	半楕円アーチ型の構造により高い天井と柱のないプラットホームが可能となった広大な空間をつくり出し、照明器具や壁の色彩の工夫も加わって、開放的な地下空間として市民に親しまれている	大阪府大阪市中央区	昭和8年
上田池堰堤	農業土木技術者による初めての粗石モルタル工法による堰堤であり、切石布積が美しい。地域の用水確保に重要な役割を果たしてきた	兵庫県南あわじ市	昭和7年
七条大橋	黎明期のRCアーチの中で群を抜いて巨大であり、鴨川筋において明治期の意匠を残す唯一の橋として貴重な施設である	京都府京都市東山区・下京区	大正2年
両橋	支間の大アーチが印象的で、拱脚部の小さな連続アーチ、そして高欄にもアーチが組み合わされた姿が意匠に優れた、山陰街道の名橋である	京都府福知山市	昭和13年
今福線のコンクリートアーチ橋群	未完成に終わった鉄道のコンクリートアーチ橋が一群として現存し、山間の景観に溶け込みながら、悲運な歴史を伝えている	島根県浜田市	昭和12年着工、昭和15年中止
三石の煉瓦拱渠群	技術的にも意匠的にもすばらしい煉瓦拱渠が、連続して現存し、山陽本線という幹線でありながら原形を保ったまま使用されている	岡山県備前市	明治23～24年（下り線） 明治44年（上り線）
旭浄水場の一連の歴史的施設群	ルネッサンス様式のレンガ造りの送水所や事務所棟、計量所などが集約した形で残されている、全国的にも貴重な水道施設群	高知県高知市	大正14年
若津港導流堤（筑後川デレーケ堤）	有明海のガタ土堆積を防ぎ航路確保を行うために作られ、完成から100年以上経った現在もその役割を果たしている壮大な石導流	福岡県大川市・柳川市 佐賀県佐賀市	明治23年
有明海旧干拓施設	有明海旧干拓施設（末広・明丑・明豊・大豊開旧堤防）は、明治時代の潮受堤防（約5km）と樋門が現存し、干拓の歴史的経緯を示す貴重な遺産	熊本県玉名市 大浜町 玉名市横島町	（末広）明治28年 （明丑）明治26年 （明豊）明治28年 （大豊）明治28年
大島海峡（旧）軍事施設群	弾薬庫、震洋艦格納庫、戦闘指揮所などが大島海峡沿いに点在している。手安にある弾薬庫は規模や構造の特異さに目を惹く	鹿児島県大島郡瀬戸内町	昭和16年





道の駅で一番人気があるのはもちん木橋湯温泉だ。湯舟につかるとしっとりしたやわらかい泉質が体を芯からあたためてくれる。アルカリ単純温泉。入浴料 大人 500円 ほのかに米の香りのする「ひとめぼれソフト」 250円→  
AM 9:00 ~ PM 9:00



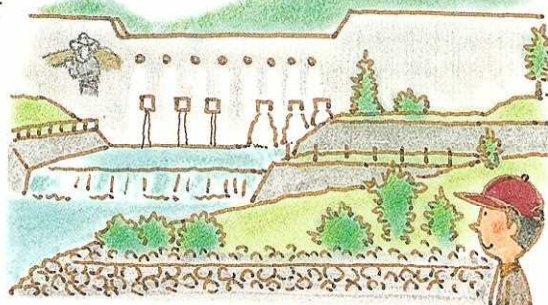
盛岡1.Cから国道46号を田沢湖方面に走ると約30分。山合いに木花源郷がある。温泉、食事処、新鮮野菜、お土産物などが並ぶ。一服したら水辺の散歩でリフレッシュしよう



食事処「あねこ茶屋」でも電石産の食材をふんだんに使ったメニューが目白押し。迷った末「電石牛の串焼重」1300円を注文

「たびるコート」はファーストフードの店。電石牛や地元野菜を使ったハンバーガーや電石産ひとめぼれを使ったソフトが人気

裏にはオートキャンプ場のある小柳沢石少防公園がある。道の駅の温泉が利用できるため人気も上々 ↓



☎ 019 (692) 5577 <http://www.anekko.co.jp>

編集後記 偉人には伝記が付きものである。凡人には及びもつかない才能と努力で成した業績は、その人物伝として後世に語り継がれる。そこに土木という冠をつけてみるとどうなるか。金沢ふるさと偉人館に八田興一コーナーがあるのは希少な例で、土木技術者がポピュラーに敬称されるケースは見られない。空海や豊臣秀吉、武田信玄などの伝記で、彼らが並外れた技術とマネジメントによって今日に影響を与え続けている土木の偉人であることがメインとはならない。しかし、土木偉人の特徴と強みは、日本全国それぞれの地域に大なり小なりの功績を残して崇められ、橋や道の名前、祭りとなって風土に根づいている。それが外部に発信され、多くの共感と感動を生んだとき、土木の価値も共有されるだろう。(0)

## 国づくりの研修

KUNIZUKURI TO KENSHU

平成21年1月30日発行©

編集 『国づくりと研修』編集小委員会  
東京都千代田区永田町1-11-32  
全国町村会館西館7階  
〒100-0014 TEL 03(3581)2464  
発行 財団法人全国建設研修センター  
東京都小平市喜平町2-1-2  
〒187-8540 TEL 042(321)1634  
印刷 株式会社 日誠



次号の特集  
災害の文化  
地域の知恵と伝統に学ぶ

近代技術が導入された明治以降、防災技術もめざましい発達を遂げてきたが、その一方で、明治以前にそれぞれの地域で蓄積され継承されてきた防災の知恵や伝統は忘れ去られようとしている。元来、災害の惨禍を被ってきた日本の各地には、自然と共存、あるいは危険を避けたり、いなしたりといった災害と同居してきた独自の文化（生活の知恵）がある。ここでもう一度、自然災害と共生していく原点に立ち返り、地球温暖化時代の防災について考えてみたい。

写真:「現存する水屋」(海津市平田町) 海津市歴史民俗資料館提供



今号の表紙スケッチ

【嘉南大圳と烏山頭ダム】 台湾

東京帝国大学で土木工学を修めた八田與一は日本統治下の台湾総督府の技師として就職した。30歳で桃園大圳の水利工事を任せられ、これを成功させて高い評価を得る。1918年嘉南平野を調査した彼は、灌漑を整備することで15万haの農地が活用できると考え、<sup>かんでんけい</sup>官田溪をせき止め、<sup>そぶんけい</sup>隧道を通して曾文溪から水を引き、ダムを建設する計画を立案した。これを上申して認められた彼は、公務員を辞め、事業を進める組合の技師として工事を指揮した。地震を考慮して、コンクリートを少ししか使わず、粘土を利用して水の浸透を防ぐセミハイドロリックフィル工法の採用や、当時珍しかった大型土木機械の導入など画期的な方法で工事を進めた。また、働く人たちが家族と生活できる宿舎を用意し、共同浴場や病院、学校をはじめ、娯楽施設までつくって、安心して働ける環境を整備した。巨額の工事費を工面し、10年の歳月と多くの地元の人たちの協力によって、1930年、東洋屈指のダムと灌漑設備を完成させた。優れた知識と技術だけではなく、熱い情熱と人間性…。八田與一が今も台湾の人々に敬愛される理由かもしれない。

(絵と文/安田泰幸 © YASUDA YASUYUKI)



烏山頭ダム珊瑚潭

現在に落ちる水面は物が珊瑚潭に似ている  
ことから珊瑚潭と呼ばれた人造湖は  
今も、満々と青い水をたたえている。

Yasuyuki



烏山頭ダム放水口

與一の死後、慰霊祭を迎える年、妻の外出先で  
夫が築いたダム放水口の満ちた水に身を投げた。

Yasuyuki